

表 5. 2-38 重要な植物種の選定基準

	法令・文献・資料名	区 分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)、「神奈川県文化財保護条例」(昭和 30 年条例第 13 号)、「横須賀市文化財保護条例」(昭和 39 年条例第 41 号)、「葉山町文化財保護条例」(昭和 42 年条例第 7 号)、「逗子市文化財保護条例」(昭和 43 年条例第 11 号)	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：神奈川県指定天然記念物 横天：横須賀市指定天然記念物 葉天：葉山町指定天然記念物 逗天：逗子市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種
③	「環境省第 5 次レッドリスト (維管束植物)」(環境省、令和 7 年 3 月)	EX: 絶滅。我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。 CR: 絶滅危惧 IA 類。ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN: 絶滅危惧 IB 類。IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU: 絶滅危惧 II 類。絶滅の危険が増大している種。 NT: 準絶滅危惧。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。 DD: 情報不足。評価するだけの情報が不足している種。 LP: 地域個体群。地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。
④	「神奈川県レッドデータブック 2022 [植物編]」(神奈川県、令和 4 年)	EX: 県内では、すでに絶滅したと考えられる種。 EW: 県内において、過去に生息したことが確認されており、飼育・栽培下、あるいは自然分布の明らかに外側で野生化した状態では存続しているが、本来の自然の生息地ではすでに絶滅したと考えられる種 CR: 絶滅危惧 IA 類。県内において、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN: 絶滅危惧 IB 類。県内において、IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU: 絶滅危惧 II 類。県内において、絶滅の危険が増大している種。 NT: 準絶滅危惧。県内において、存続基盤が脆弱な種。 DD: 情報不足。県内において、評価するだけの情報が不足している種。

表 5.2-39 現地調査により確認された重要な植物種

No.	分類	科名	種名	確認時期								聞き取り	選定基準			
				早春季		春季		夏季		秋季			①	②	③	④
				内	外	内	外	内	外	内	外					
1	シダ植物	イノモトソウ科	ナチシダ		○		○		○		○					EN
2	単子葉類	トチカガミ科	ヒロハトリゲモ						○						VU	NT
3		ラン科	エビネ		○		○		○		○				NT	NT
4			キンラン				○		○		○				VU	NT
5			マヤラン		○				○						VU	
6			タシロラン						○						NT	
7			アケボノシュスラン		○		○		○		○					VU
8			ハチジョウシュスラン		○		○		○		○					EN
9			カゲロウラン		○		○		○		○				NT	VU
10		カヤツリグサ科	センダイスゲ								○					VU
11	真正双子葉類	ユキノシタ科	ムカゴネコノメソウ		○		○								NT	
12		アカバナ科	ウスゲチョウジタデ						○						NT	
13		キョウチクトウ科	シタキシソウ							○		○				EN
14		ナス科	ヤマホオズキ									○			EN	NT
15		モクセイ科	ミウライボタ				○		○		○					NT
16		シソ科	タニジャコウソウ				○				○				NT	
17			カリガネソウ						○		○	○				VU
18		キキョウ科	ツルギキョウ				○		○		○				VU	VU
19		キク科	アキハギク								○					VU
20			オグルマ		○				○		○					NT
計	3 分類	12 科	20 種	0 種	8 種	0 種	10 種	0 種	15 種	0 種	15 種	1 種	-	-	11 種	15 種
				8 種		10 種		15 種		15 種						

注 1) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2) 表中の記号は、以下の地域・内容を示す。

内：実施区域内 外：実施区域外

注 3) 実施区域から約 5m の範囲の生育箇所を実施区域近傍とした。

表 5. 2-40(1) 重要な植物種の確認状況





No.	種名	生態・確認状況
1	ナチシダ 	<p>【生態など】 本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球球に分布する。山地の湿潤な樹林内に生えるシダ植物。暖地では常緑であるが、北限では冬に枯れる。葉は長さ 1.5m 前後に達する。葉身は鳥足状でほぼ 5 角形、小羽軸付近の脈は網目状になる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体、早春季 1 箇所 2 個体</p>
2	ヒロハトリゲモ 	<p>【生態など】 本州、四国、九州、琉球に分布する。水田などに生える沈水性の 1 年草。葉は長さ 1.5～3cm で小さな鋸歯がある。葉鞘の先は切形または円形で種子は長楕円形で長さ 2.5～3mm、種子表面の模様は 4～6 角形で大きく細胞壁が盛り上がって目立つ。花期は 7 月～9 月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 10 個体</p>
3	エビネ 	<p>【生態など】 北海道（西南部以南）、本州、四国、九州、琉球に分布する。主に落葉広葉樹林等の比較的明るい林床に生える常緑性の多年草。手入れされたスギ植林にも多い。葉は 2～3 枚で花茎は高さ 20～40cm。花は通常暗褐色～淡紫褐色で花期は 4 月～5 月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 早春季 5 箇所 54 個体、春季 3 箇所 5 個体、 夏季 9 箇所 64 個体、秋季 2 箇所 12 個体</p>
4	キンラン 	<p>【生態など】 本州、四国、九州に分布する。山地や丘陵地の疎林内や林縁に生える夏緑性の多年草。茎は高さ 20～70cm。葉は長楕円状披針形で 5～8 枚が互生し、無毛で茎を抱く。黄色い花を 3～12 個を茎頂に上向きにつける。花期は 4 月～5 月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 9 個体、秋季 1 箇所 1 個体</p>

表 5.2 表 5.2-40 (2) 重要な植物種の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
5	マヤラン 	<p>【生態など】 本州（栃木県以西）、四国、九州、琉球に分布する。常緑広葉樹林内の腐植質に富んだ林床に生える緑葉のない菌従属栄養植物。花は花茎の上半部に 2～5 個を疎らにつけ、乳白色で太い赤紫色の条斑が入る。花期は 6 月～9 月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 1 個体</p>
6	タシロラン 	<p>【生態など】 本州（群馬県以南）、四国、九州、琉球に分布する。常緑広葉樹林内に生える菌従属栄養植物。花茎は高さ 20～50cm、淡褐色で膜質の鞘状葉を互生する。花は茎の上部に 5～30 個が垂れて咲き、白色～淡褐色で花期は 6 月～7 月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季 8 箇所 50 個体</p>
7	アケボノシュスラン 	<p>【生態など】 北海道、本州、四国、九州に分布する。シイ・カシ帯の山地樹林内に生える常緑性多年草。茎は高さ 5～10cm。葉は 4～6 枚が互生し淡緑色の主脈を中心に縦脈 3 本が目立つ。花は淡紅色をおびた白色で花期は 9 月～10 月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 早春季 2 箇所 16 個体、春季 1 箇所 17 個体、 夏季 2 箇所 10 個体</p>
8	ハチジョウシュスラン 	<p>【生態など】 本州、四国、九州、琉球に分布する。常緑広葉樹林の林床に生える常緑性多年草。茎は基部が長めに這い、上部は直立し開花時の高さは 10～25 cm。長さ 3～4 cm の葉が 3～4 枚つき、中肋に沿って白色の帯状斑がある。やや密に多数の花をつける。花期は 9 月～11 月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 早春季 4 箇所 46 個体、秋季 2 箇所 34 個体</p>

表 5.2 表 5.2-40 (3) 重要な植物種の確認状況





No.	種名	生態・確認状況
9	カゲロウラン 	<p>【生態など】 本州（三浦半島、東京都伊豆大島、静岡県、和歌山県）、四国（愛媛県、高知県）、九州（南部）、琉球に分布する。常緑広葉樹林の林床に生える常緑性多年草。茎は直立し、高さ 10～25cm。葉は光沢があり、葉柄の基部は鞘となって茎を抱く。花は茎頂に 2～10 個つけ淡紅褐色。花期は 9 月～10 月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 早春季 7 箇所 51 個体、夏季 2 箇所 8 個体、 秋季 3 箇所 40 個体</p>
10	センダイスゲ 	<p>【生態など】 本州（岩手県以南）、四国、九州に分布する。沿海地の疎林内や海岸芝地に生える多年草。匍匐根茎を伸ばし、ゆるく叢生し、ときに匍枝を出す。ナキリスゲに比べてやや小型。有花茎は葉より低く、花穂は上部に集まる傾向がある。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 50 個体</p>
11	ムカゴネコノメソウ 	<p>【生態など】 本州（宮城県南部～東海地方）に分布する。沢沿いの樹林内に生育する多年草。走出枝を伸ばし、先にむかごをつける。有花茎は高さ 5～15cm、2～3 対の葉が対生する。葉は卵円形、円い鋸歯が 5～7 個ある。花期は 3 月～4 月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 早春季 14 箇所 2, 130 個体、春季 1 箇所 20 個体</p>
12	ウスゲチョウジタデ 	<p>【生態など】 本州（関東地方以西）、九州、琉球に分布する。水田や湿地、河川敷などに生える一年草。茎と葉にはしばしば細毛が生え、開花期に植物体は赤色とならず、結実期でも紅色の帯び方は弱い。花は通常 5 数性で 7～10mm。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季 2 箇所 6 個体</p>

表 5.2 表 5.2-40(4) 重要な植物種の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
13	シタキソウ 	<p>【生態など】 本州（千葉県以西の太平洋側）、四国、九州、琉球に分布する。海岸近くの山林内や林縁に生えるつる性木本。葉は長さ1.5～3cmの柄があり、長さ6～17cm、幅3～12cm、卵形～円状楕円形で基部は心形。花序は集散花序。花は白色でジャスミン様の芳香がある。花期は6月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季1箇所1個体</p>
14	ヤマホオズキ 	<p>【生態など】 本州（千葉県以西）、四国、九州に分布する。湿った樹林内に生える多年草。全体に軟弱で無毛。果実を包む萼は稜が肥厚し、そこに刺状の突起がある。花時の萼裂片は長さよりも幅が広い3角形で先端はとがらない。花冠は黄白色で花は8月～9月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 秋季1箇所3個体</p>
15	ミウライボタ 	<p>【生態など】 横須賀市、葉山町、逗子市、鎌倉市などに多く、房総半島にも分布するようである。低地の丘陵に生える低木。上部の葉は細長い。葉は披針形～狭長楕円形で両端やや鋭く、特に先端がえぐれるように尖り、中脈はやや凹み毛はない（稀に多毛の地域がある）。円錐花序はやや細く、稀に下枝の長いものがある。花期は6月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 春季1箇所1個体、夏季2箇所3個体</p>
16	タニジャコウソウ 	<p>【生態など】 本州（関東地方以西）、四国、九州に分布。シイ・カシ帯～ブナ帯下部までの湿った谷間の樹林内に生える多年草。茎は緩やかな稜形で下向きの毛が生える。葉は対生し基部は心形。花は葉腋からでた花柄の先につく。花期は8月～10月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 春季1箇所4個体、秋季3箇所28個体</p>

表 5. 2-40 (5) 重要な植物種の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
17	カリガネソウ 	<p>【生態など】 北海道、本州、四国、九州に分布する。山麓原野に生える多年草。茎は4角形、上部で分枝し、高さ1mに達する。強い臭気がある。花序はまばらに散開し、花冠は2唇形で大きく開口する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季1箇所50個体、秋季1箇所20個体</p>
18	ツルギキョウ 	<p>【生態など】 本州（関東地方以西）、四国九州に分布する。山地～丘陵地に生えるつる性の多年草。全体無毛。葉は互生または対生し、葉身は卵心形で鈍頭、環境によっては大きくなり長さ3～11cm、質は薄く下面は粉白色を帯びる。花期は8-10月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 春季5箇所15個体、夏季2箇所2個体、秋季3箇所3個体</p>
19	アキハギク 	<p>【生態など】 神奈川県、千葉県、静岡県などに分布する。尾根筋の乾いた斜面や岩場に生える多年草。シロヨメナに似るが茎の葉は卵形で明らかな柄がある頭花は径16mm内外で総苞片は3列。舌状花は白色。花期は10月～11月。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 秋季1箇所7個体</p>
20	オグルマ 	<p>【生態など】 北海道、本州、四国、九州に分布する。湿った草地に生える多年草。カセンソウに似るが葉は固く、下面に開出毛がある。茎は直立しやや枝分かれする。葉は広披針形から楕円形。花は夏から秋に咲き、花はややレモンがかった黄色。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域近傍 確認なし ○実施区域外 夏季1箇所20個体、秋季1箇所30個体</p>

(参考文献)

「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」(神奈川県立生命の星・地球博物館、令和4年)

「神奈川県植物誌 2018」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成30年)

「絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ増補改訂新版」(矢原徹一ほか、平成27年)

「ネイチャーガイド日本の水草」(角野康郎、平成26年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-8(1) 植物の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-8(2) 植物の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-8 (3) 植物の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-8(4) 植物の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-9 (1) 植物の重要種
確認位置 (拡大図)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-9(2) 植物の重要種
確認位置（拡大図）

イ 重要な植物群落

重要な植物群落の選定は表 5.2-41 に示す基準により行った。現地調査の結果、重要な植物群落は確認されなかった。

表 5.2-41 重要な群落の選定基準

	法令・文献・資料名
①	「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査（第 2, 3, 5 回）」 （生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS、令和 7 年 7 月閲覧）

2. 動物

(1) 動物相

① 調査事項

哺乳類、鳥類、猛禽類、爬虫類、両生類、昆虫類、陸産貝類、クモ類とした。

② 調査方法

動物相の現地調査による調査方法は、表 5. 2-42 に示すとおりである。

また、「1. 植物」と同様に、「寺前谷戸復元プロジェクト」への聞き取り調査結果について整理し、調査結果として反映した。そのほか、現地調査で鳥類の重要種であるミゾゴイが確認されたため、神奈川県環境影響評価技術指針に従い、「ミゾゴイ保護の進め方」（環境省自然環境局野生生物課、平成 28 年）に準拠して、ミゾゴイの生息・繁殖状況の確認のための調査を追加で実施した。

表 5. 2-42 動物相項目別調査方法

項目	調査方法
ア 哺乳類	直接観察法、トラップ法（シャーマン型トラップによる、小型哺乳類対象）、無人撮影法、コウモリ類調査（夜間、バットディテクター使用）により生息種を確認する。
イ 鳥類	ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法、夜間調査により生息種を確認する。 ミゾゴイについては、日没直後及び日の出前の囀り調査、巣の探索調査により生息状況及び繁殖状況を確認する。
ウ 猛禽類	2 ヶ年実施した猛禽類調査の結果から、実施区域の周辺において営巣地が存在する重要な猛禽類（オオタカ）を対象に、行動圏調査（定点調査）、営巣地確認調査（踏査）、繁殖状況調査（巣の観察）を実施し、行動圏及びその内部構造を解析する。
エ 爬虫類	直接観察法により生息種を確認する（個体、抜け殻等）。
オ 両生類	直接観察法により生息種を確認する（個体、卵囊、鳴き声等）。
カ 昆虫類	直接観察法、ライトトラップ法（ボックスライト）、ベイトトラップ法により生息種を確認する。
キ 陸産貝類、クモ類	直接観察法により生息種を確認する。

③ 調査範囲及び地点

猛禽類を除いた動物の調査範囲及び地点は図 5.2-10(1)～(2)に、猛禽類の調査地点及び地点は図 5.2-11 に、動物の踏査ルートは図 5.2-12(1)～(2)に示すとおりである。

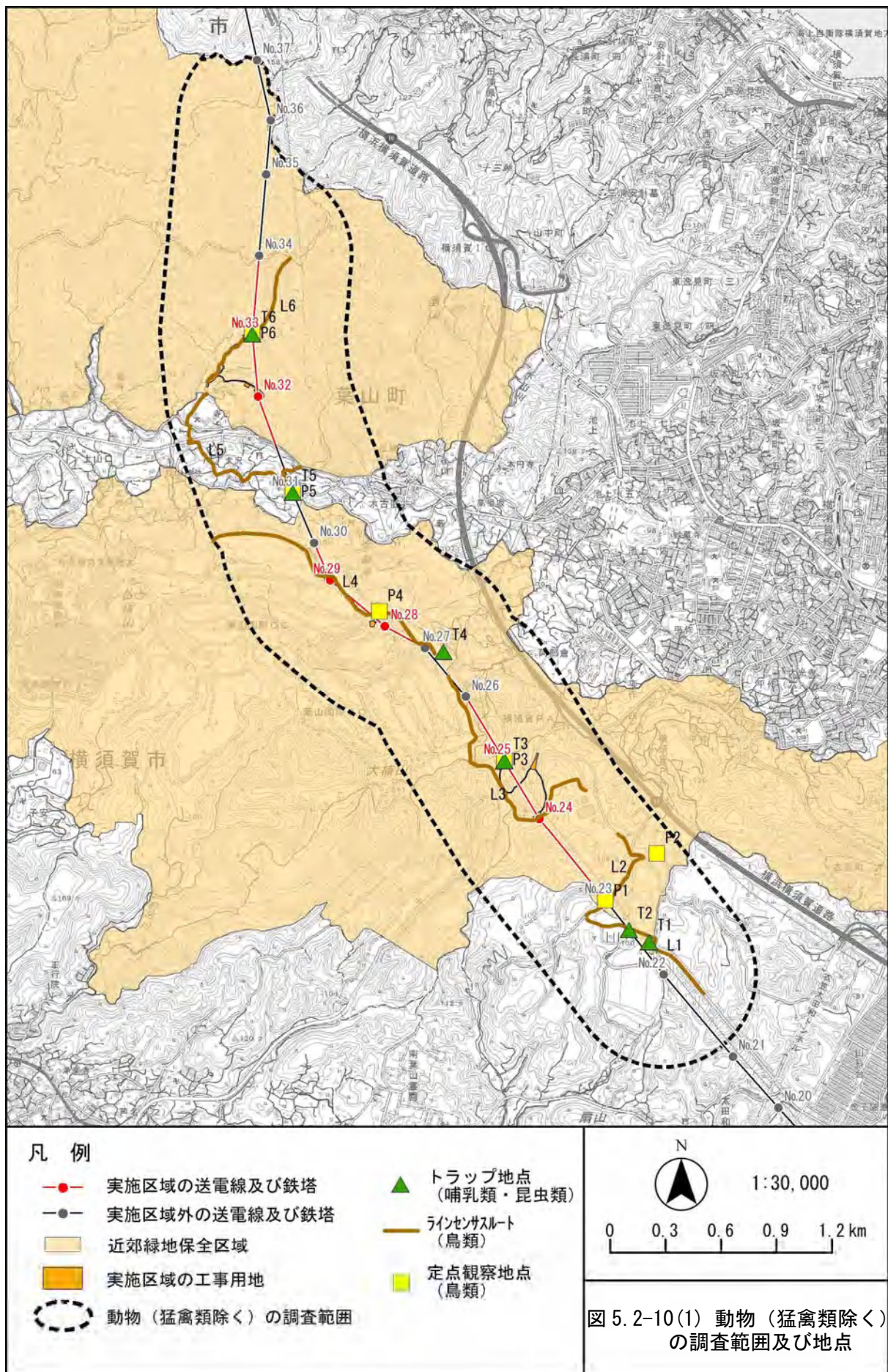
調査範囲は各動物群の行動圏、移動能力、地形・植生等、生息環境のまとまり等を考慮して、猛禽類を除いた動物は東京南線 3,4 号線沿いの実施区域及びその周辺約 500m、仮設ヘリポートの工事用地及びその周辺約 200m の範囲とした。また、猛禽類は東京南線 3,4 号線沿いの実施区域及びその周辺約 1.5km の範囲とした。そのほか、実施区域外の鉄塔である No. 34 から No. 37 付近にかけての葉山近郊緑地保全区域（森戸川源流域）を重要な区域として一体的に扱い、調査範囲に追加した。

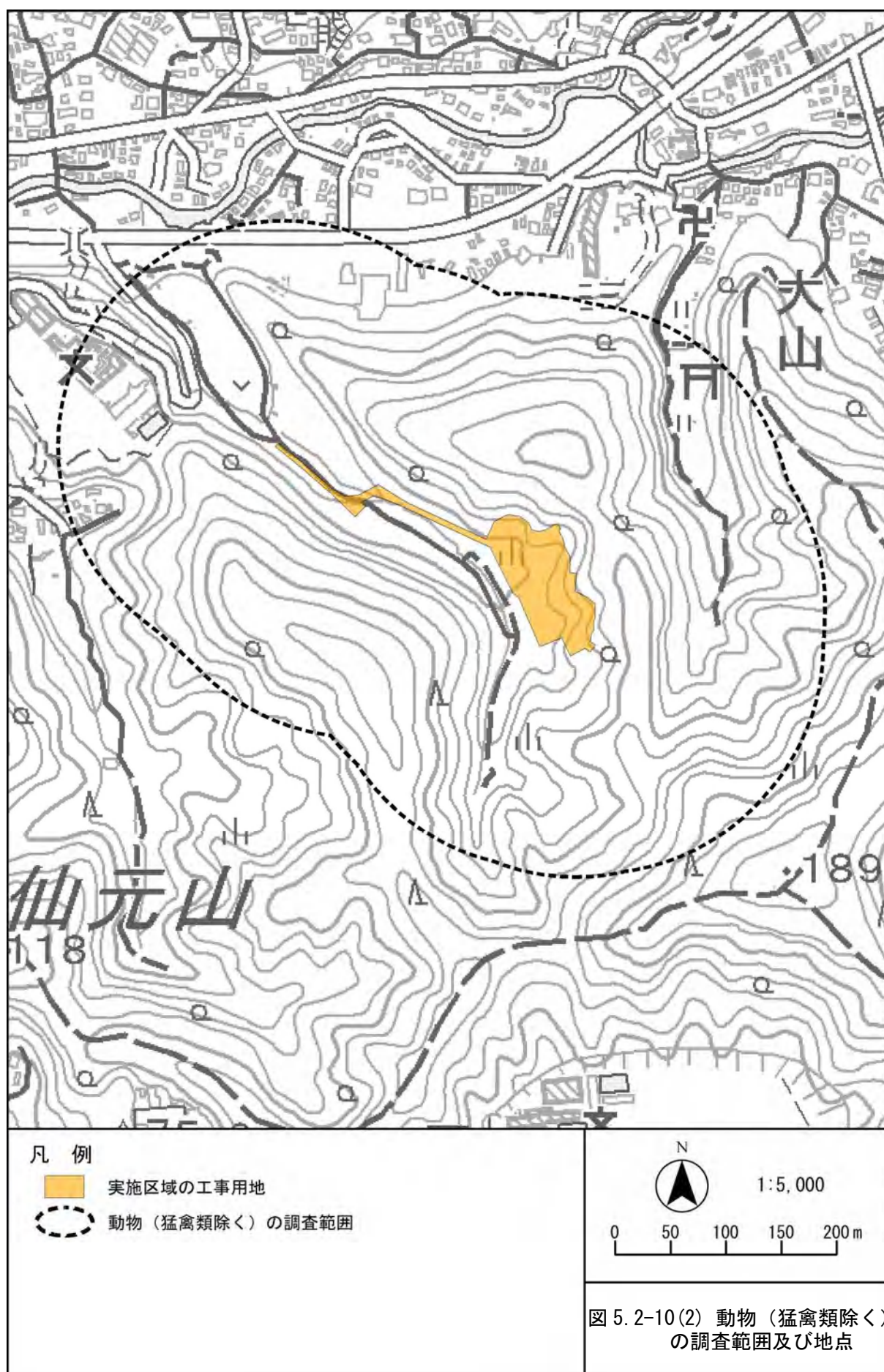
なお、両実施区域で猛禽類を除いた動物の調査範囲が異なる理由は、以下に示すとおりである。

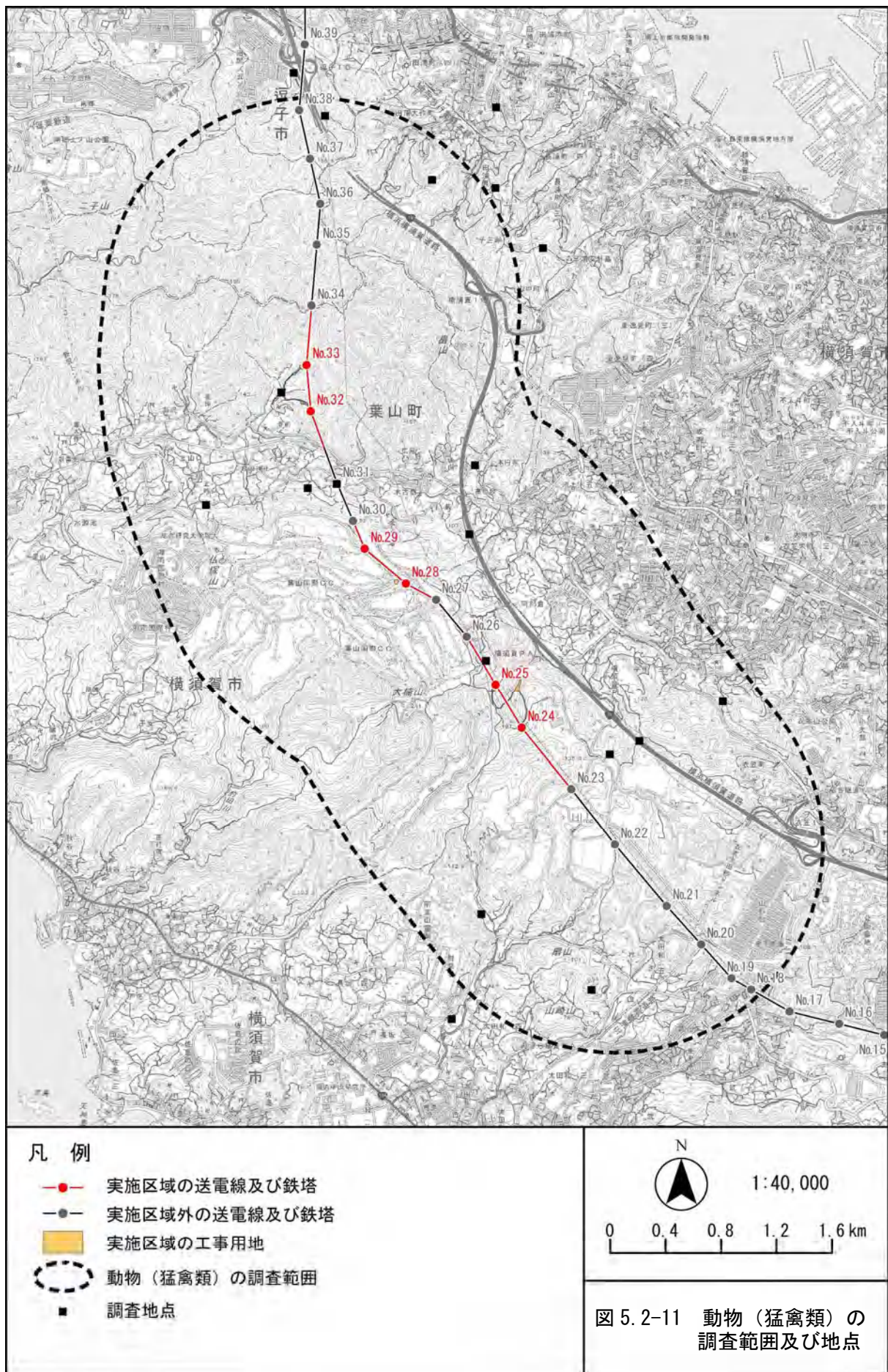
調査地点は事前に調査範囲の各環境類型区分の代表的な場所から地点を選定した。仮設ヘリポートについては、東京南線 3,4 号線と同様の環境類型区分（p.5-2-226～p.5-2-227 参照。）であったことから、新たに調査地点等は設けなかった。

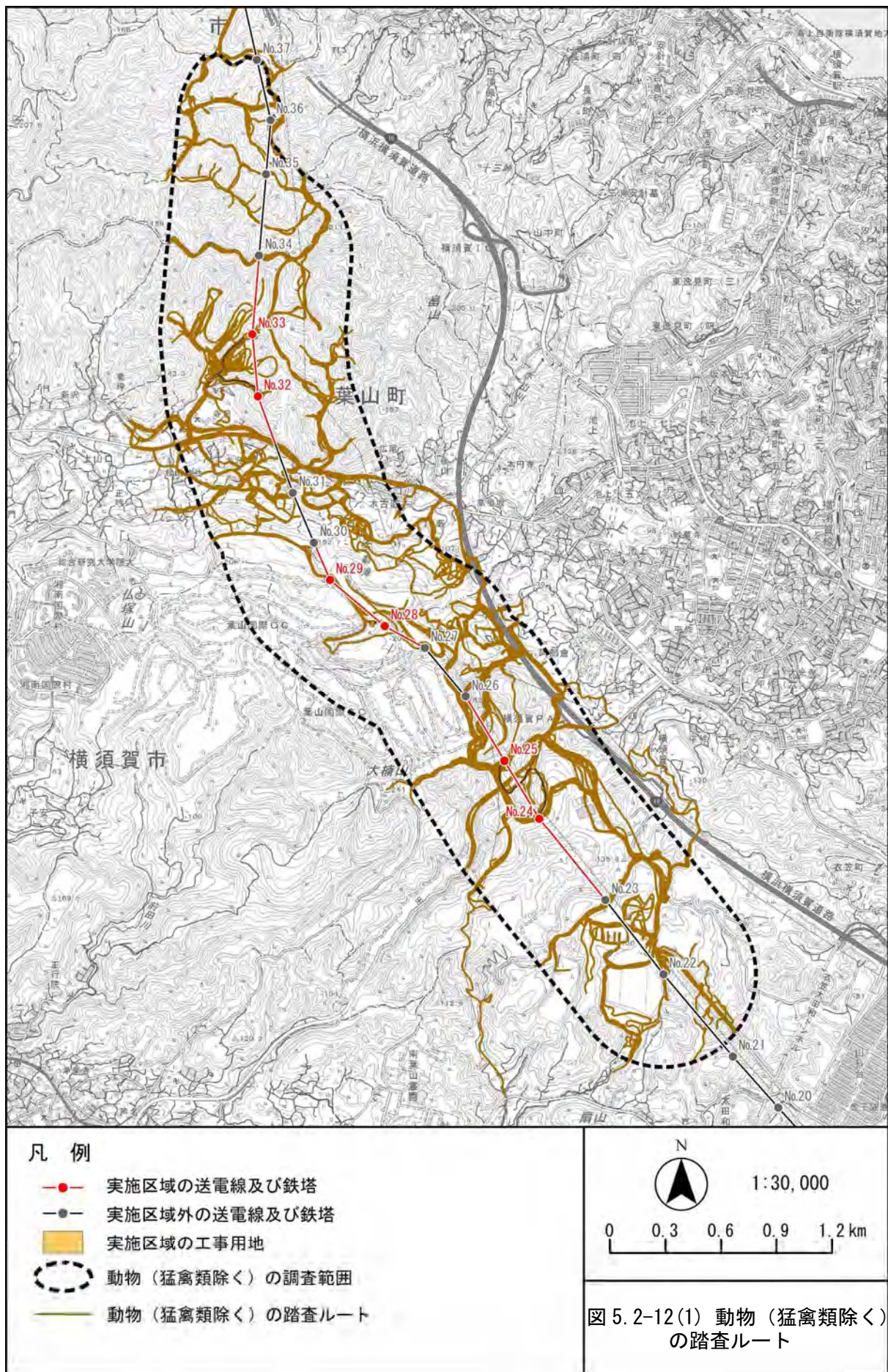
<動物の調査範囲の設定理由>

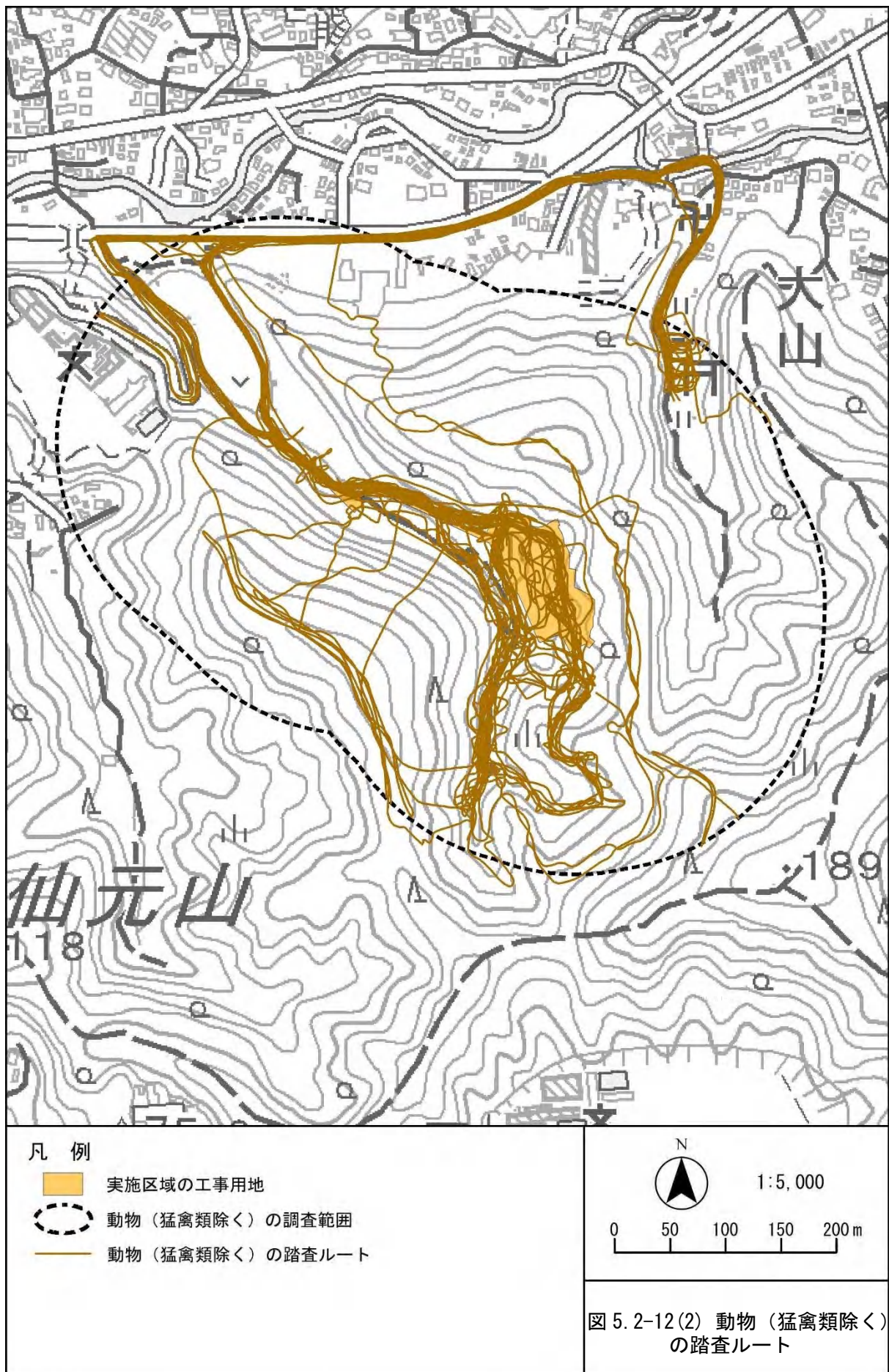
実施区域	範囲	理由
東京南線 3,4 号線	実施区域及びその周辺約 500m	実施計画書の段階では事業計画が定まっておらず、工事に係る運搬路や基地等が送電線から離れた位置に計画することも想定し、500mとやや広い範囲で設定した。
仮設ヘリポート	実施区域及びその周辺約 200m	ヘリポート候補地として選定した時点で、改変範囲はほぼ定まっており、運搬路も既存の谷内の限定的な面整備であることから、「面整備事業環境影響評価マニュアル（面整備事業環境影響評価研究会 平成 11 年）」を参考にして、動物の調査範囲を 200mとして設定した。











④ 調査時期、期間又は時間帯

動物相の調査実施日は表 5.2-43(1)～(3)に、聞き取り調査実施日は表 5.2-44 に示すとおりである。

調査時期及び回数は基本的に本事業の「環境影響評価実施計画書」に準じて計画し、現地調査での重要種の確認状況等により、適宜調査を追加して実施した。

表 5.2-43(1) 動物相調査時期及び調査期日（東京南線 3,4 号線）

項 目	時期	調査方法	期日
ア 哺乳類	冬季	直接観察法	令和 6 年 1 月 15 日～17 日
		無人撮影法	令和 6 年 1 月 15 日～26 日、2 月 26 日～28 日
	春季	直接観察法、トラップ法	令和 6 年 4 月 15 日～17 日
		コウモリ類調査	令和 6 年 4 月 16 日
		無人撮影法	令和 6 年 4 月 8 日～17 日
	夏季	直接観察法	令和 6 年 7 月 8 日～10 日
		コウモリ類調査	令和 6 年 7 月 9 日
		無人撮影法	令和 6 年 7 月 1 日～10 日
	秋季	直接観察法、トラップ法	令和 6 年 10 月 9 日～11 日
		無人撮影法	令和 6 年 10 月 1 日～10 日
イ 鳥類	冬季	ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法	令和 6 年 1 月 24 日～26 日、2 月 24 日～28 日
	春季	ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法	令和 6 年 4 月 8 日～10 日、5 月 8 日～10 日
		夜間調査	令和 6 年 5 月 8 日
		囀り調査（日没直後及び日の出前）	令和 6 年 5 月 21～22 日
	繁殖期	ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法	令和 6 年 7 月 1 日～3 日
		夜間調査	令和 6 年 7 月 1 日
	秋季	巣の探索調査	令和 6 年 9 月 11 日～13 日
		ラインセンサス法、定点観察法、任意観察法	令和 6 年 10 月 9 日～11 日
ウ 猛禽類	令和 5 年 繁殖期	行動圏調査	令和 5 年 2 月 13 日～14 日、3 月 13 日～14 日、4 月 19 日～20 日、5 月 24 日～25 日、6 月 21 日～22 日、7 月 25 日～26 日
		営巣場所調査	令和 5 年 3 月 21 日～22 日、4 月 26 日～27 日
		繁殖状況調査	令和 5 年 6 月 26 日～27 日、7 月 6 日、8 日
	令和 6 年 繁殖期	行動圏調査	令和 6 年 2 月 19 日～20 日、3 月 13 日～14 日、4 月 17 日～18 日、5 月 20 日～21 日、6 月 10 日～11 日、7 月 24 日～25 日
		営巣場所調査	令和 6 年 3 月 18 日、22 日、4 月 22 日、25 日
		繁殖状況調査	令和 6 年 6 月 26 日～27 日、7 月 11 日～12 日
エ 爬虫類	春季	直接観察法	令和 6 年 4 月 15 日～17 日
	夏季	直接観察法	令和 6 年 7 月 8 日～10 日、8 月 14 日～16 日
	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 9 日～11 日
オ 両生類	早春季	直接観察法	令和 6 年 3 月 14 日～15 日、25 日
	春季	直接観察法	令和 6 年 4 月 15 日～17 日
	夏季	直接観察法	令和 6 年 7 月 8 日～10 日
	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 9 日～11 日

注)「イ 鳥類」の夏季（6 月～8 月）の時期は、以降「繁殖期」として表記した。

表 5.2-43(2) 動物相調査時期及び調査期日（東京南線 3,4 号線）

項 目	時期	調査方法	期日
カ 昆虫類	春季	直接観察法	令和 6 年 4 月 10 日～13 日
		直接観察法、ライトトラップ法、 ベイトトラップ法	令和 6 年 5 月 8 日～10 日
	初夏季	直接観察法	令和 6 年 6 月 4 日～7 日、25 日～28 日
	夏季	直接観察法、ライトトラップ法、 ベイトトラップ法	令和 6 年 8 月 13 日～15、19 日
	秋季	直接観察法、ライトトラップ法、 ベイトトラップ法	令和 6 年 10 月 1 日～4 日
キ 陸産貝類、 クモ類	春季	直接観察法	令和 6 年 4 月 10 日～13 日
	夏季	直接観察法	令和 6 年 6 月 4～7 日、8 月 13 日～15 日、19 日
	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 1 日～4 日

表 5.2-43(3) 動物相調査時期及び調査期日（仮設ヘリポート）

項 目	時期	調査方法	期日
ア 哺乳類	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	冬季	直接観察法	令和 7 年 2 月 19 日
	春季	直接観察法	令和 7 年 4 月 11 日
	夏季	直接観察法	令和 7 年 6 月 9 日
イ 鳥類	秋季	任意観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	冬季	任意観察法	令和 7 年 2 月 19 日、3 月 5 日
	春季	任意観察法	令和 7 年 4 月、5 月 16 日、17 日
	繁殖期	任意観察法	令和 7 年 7 月 7 日
エ 爬虫類	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	春季	直接観察法	令和 7 年 4 月 11 日
	夏季	直接観察法	令和 7 年 6 月 9 日、7 月 28 日
オ 両生類	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	早春季	直接観察法	令和 7 年 3 月 5 日
	春季	直接観察法	令和 7 年 4 月 11 日
	夏季	直接観察法	令和 7 年 6 月 9 日
カ 昆虫類	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	春季	直接観察法	令和 7 年 4 月 11 日、5 月 16 日、17 日
	初夏季	直接観察法	令和 7 年 6 月 9 日、30 日
	夏季	直接観察法	令和 7 年 7 月 19 日
キ 陸産貝類、 クモ類	秋季	直接観察法	令和 6 年 10 月 24 日
	春季	直接観察法	令和 7 年 4 月 11 日
	夏季	直接観察法	令和 7 年 6 月 30 日

表 5.2-44 聞き取り調査実施期日

項 目	調査方法	聞き取りを行った団体	期日
動物相	聞き取りによる 生息情報確認	二子山山系自然保護協議会 寺前谷戸復元プロジェクト 代表者	令和 6 年 9 月 25 日（水） 14：00～15：40

⑤ 調査結果（現地調査）

ア 哺乳類

現地調査により確認された哺乳類は表 5.2-45 に示すとおりである。

現地調査の結果、6 目 10 科 11 種の哺乳類が確認された。

現地調査ではアズマモグラの塚や坑道、クリハラリスの個体や鳴き声、巣、タヌキの糞が広い範囲で確認された。また、無人撮影ではノウサギ、アライグマ、タヌキ、ハクビシン、イノシシが撮影され、トラップ法ではアカネズミが捕獲された。そのほか、夜間調査ではバットディテクターによりヒナコウモリ科の周波数帯が確認された。

なお、クリハラリス、アライグマ、ハクビシンは、調査地域に自然分布していない種であり、イノシシについては自然分布していない可能性がある種である。

表 5.2-45 現地調査により確認された哺乳類

No.	目名	科名	種名	確認時期				確認内容
				冬季	春季	夏季	秋季	
1	モグラ目 (食虫目)	モグラ科	ヒミズ		○			死体
2			アズマモグラ	○	○	○	○	塚、坑道
3	コウモリ目（翼手目）	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科		○	○		バットディテクター
4	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	○		○	○	目撃、無人撮影、糞
5	ネズミ目 (齧歯目)	リス科	クリハラリス	○	○	○	○	目撃、無人撮影、鳴き声、樹皮剥ぎ跡、巣
6		ネズミ科	アカネズミ		○	○	○	捕獲、死体
7	ネコ目 (食肉目)	アライグマ科	アライグマ	○	○	○	○	無人撮影、足跡
8		イヌ科	タヌキ	○	○	○	○	無人撮影、糞、足跡
9		イタチ科	ニホンイタチ		○		○	目撃
10		ジャコウネコ科	ハクビシン	○	○	○	○	目撃、無人撮影、足跡
11	ウシ目（偶蹄目）	イノシシ科	イノシシ	○	○	○	○	無人撮影、糞、足跡、土耕跡、沼田場
計	6 目	10 科	11 種	7 種	10 種	9 種	9 種	—

注) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP) に従った。

イ 鳥類

現地調査により確認された鳥類は表 5.2-46(1)～(3)に示すとおりである。

現地調査の結果、14 目 35 科 76 種の鳥類が確認された。季節別の確認種数では、冬季が 50 種、春季が 57 種、繁殖期が 43 種、秋季が 42 種であった。

渡り区分別に見ると、キジバト、トビ、シジュウカラ等の留鳥が 42 種と多く、次いで、シロハラ、ツグミ、アオジ等の冬鳥が 19 種と多かった。そのほか、ホトトギス、ツバメ、ヤブサメ等の夏鳥が 14 種、旅鳥であるエゾビタキが 1 種であった。

生活区分別に見るとアオゲラ、ヤマガラ、エナガ等の樹林環境に生息する種が 42 種と多く、次いでカルガモ、カワセミ、キセキレイ等水辺環境に生息する種が 17 種と多かった。そのほか、ハシボソガラス、ムクドリ、ホオジロ等の里地環境に生息する種が 14 種、セッカ、チョウゲンボウ、ビンズイといった草原環境に生息する種が 3 種であった。

そのほか、外来種としてコジュケイ、カワラバト（ドバト）、ガビチョウ、ソウシチョウが確認された。

表 5.2-46(1) 現地調査により確認された鳥類

No.	目名	科名	種名	確認時期				渡り区分	生活区分
				冬季	春季	繁殖期	秋季		
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	○	○	○	○	留鳥	樹林
2			キジ	○	○	○		留鳥	樹林
3	カモ目	カモ科	マガモ		○			冬鳥	水辺
4			カルガモ	○	○	○	○	留鳥	水辺
5			コガモ		○			冬鳥	水辺
6	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	○	○	○	○	留鳥	里地
7			キジバト	○	○	○	○	留鳥	樹林
8			アオバト		○			夏鳥	樹林
9	カツオドリ目	ウ科	カワウ		○			留鳥	水辺
10	ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ		○	○	○	夏鳥	樹林
11			ゴイサギ			○		留鳥	水辺
12			アオサギ		○	○	○	留鳥	水辺
13			ダイサギ	○				留鳥	水辺
14			コサギ				○	留鳥	水辺
15	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス			○		夏鳥	樹林
16			カッコウ		○			夏鳥	樹林
17	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	○				留鳥	里地
18	チドリ目	チドリ科	コチドリ			○		夏鳥	水辺
19		シギ科	タシギ	○				冬鳥	水辺
20			イソシギ	○				留鳥	水辺

表 5. 2-46 (2) 現地調査により確認された鳥類

No.	目名	科名	種名	確認時期				渡り 区分	生活 区分
				冬季	春季	繁殖期	秋季		
21	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	○		○	○	冬鳥	水辺
22		タカ科	トビ	○	○	○	○	留鳥	里地
23			ツミ	○			○	留鳥	樹林
24			ハイタカ	○				冬鳥	樹林
25			オオタカ				○	留鳥	樹林
26			サシバ		○	○	○	夏鳥	樹林
27			ノスリ	○	○		○	冬鳥	里地
28	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	○	○	○	○	留鳥	樹林
29			アオバズク		○			夏鳥	樹林
30	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	○	○	○	○	留鳥	水辺
31	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	○	○	○	○	留鳥	樹林
32			アカゲラ		○	○		留鳥	樹林
33			アオゲラ	○	○	○	○	留鳥	樹林
34	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	○			○	留鳥	草原
35			ハヤブサ	○			○	冬鳥	水辺
36	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ		○			夏鳥	樹林
37			リュウキュウサンショウクイ	○	○	○	○	留鳥	樹林
38		カササギヒタキ科	サンコウチョウ		○	○		夏鳥	樹林
39		モズ科	モズ	○	○	○	○	留鳥	里地
40		カラス科	オナガ		○			留鳥	里地
41			ハシボソガラス	○	○	○	○	留鳥	里地
42			ハシブトガラス	○	○	○	○	留鳥	里地
43		シジュウカラ科	ヤマガラ	○	○	○	○	留鳥	樹林
44			シジュウカラ	○	○	○	○	留鳥	樹林
45		ツバメ科	ツバメ		○	○		夏鳥	里地
46		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	留鳥	樹林
47		ウグイス科	ウグイス	○	○	○	○	留鳥	樹林
48			ヤブサメ		○	○	○	夏鳥	樹林
49		エナガ科	エナガ	○	○	○	○	留鳥	樹林
50		ムシクイ科	センダイムシクイ		○	○		夏鳥	樹林
51		チメドリ科	ガビチョウ	○	○	○	○	留鳥	樹林
52			ソウシチョウ	○	○		○	留鳥	樹林
53		メジロ科	メジロ	○	○	○	○	留鳥	樹林
54		セッカ科	セッカ			○		留鳥	草原
55		ミソサザイ科	ミソサザイ	○				冬鳥	樹林
56		ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	○	留鳥	里地
57		ヒタキ科	シロハラ	○	○		○	冬鳥	樹林
58			アカハラ	○	○			冬鳥	樹林
59			ツグミ	○	○			冬鳥	樹林
60			ジョウビタキ	○				冬鳥	樹林

表 5. 2-46 (3) 現地調査により確認された鳥類

No.	目名	科名	種名	確認時期				渡り 区分	生活 区分
				冬季	春季	繁殖期	秋季		
61	スズメ目	ヒタキ科	イソヒヨドリ	○	○	○	○	留鳥	水辺
62			エゾビタキ				○	旅鳥	樹林
63			キビタキ		○	○	○	夏鳥	樹林
64			オオルリ		○	○		夏鳥	樹林
65		スズメ科	スズメ	○	○	○	○	留鳥	里地
66		セキレイ科	キセキレイ	○	○	○	○	留鳥	水辺
67			ハクセキレイ	○	○	○	○	留鳥	水辺
68			ビンズイ	○	○		○	冬鳥	草原
69		アトリ科	カワラヒワ	○	○	○		留鳥	里地
70			マヒワ	○	○			冬鳥	樹林
71			シメ	○	○			冬鳥	樹林
72			イカル	○				冬鳥	樹林
73		ホオジロ科	ホオジロ	○	○	○	○	留鳥	里地
74			カシラダカ		○			冬鳥	里地
75			アオジ	○	○			冬鳥	樹林
76			クロジ	○	○			冬鳥	樹林
計	14 目	35 科	76 種	50 種	57 種	43 種	42 種	—	—

注 1) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2) 渡り区分は、現地調査の確認状況及び「神奈川の鳥 2011-15 -神奈川県鳥類目録Ⅶ-」（日本野鳥の会神奈川支部、令和 2 年）」を参考にした。

注 3) 生活区分は、現地調査の確認状況及び「原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編・陸鳥編>」（株式会社保育社、平成 7 年）を参考にした。

ラインセンサス法における季節別の優占種は、図 5. 2-13 に示すとおりである。

いずれもハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、スズメといった留鳥の割合が高く、樹林環境や里地環境に生息する種が優占した。また、冬鳥ではアオジが冬季に優占しており、夏鳥は優占した種はいなかった。

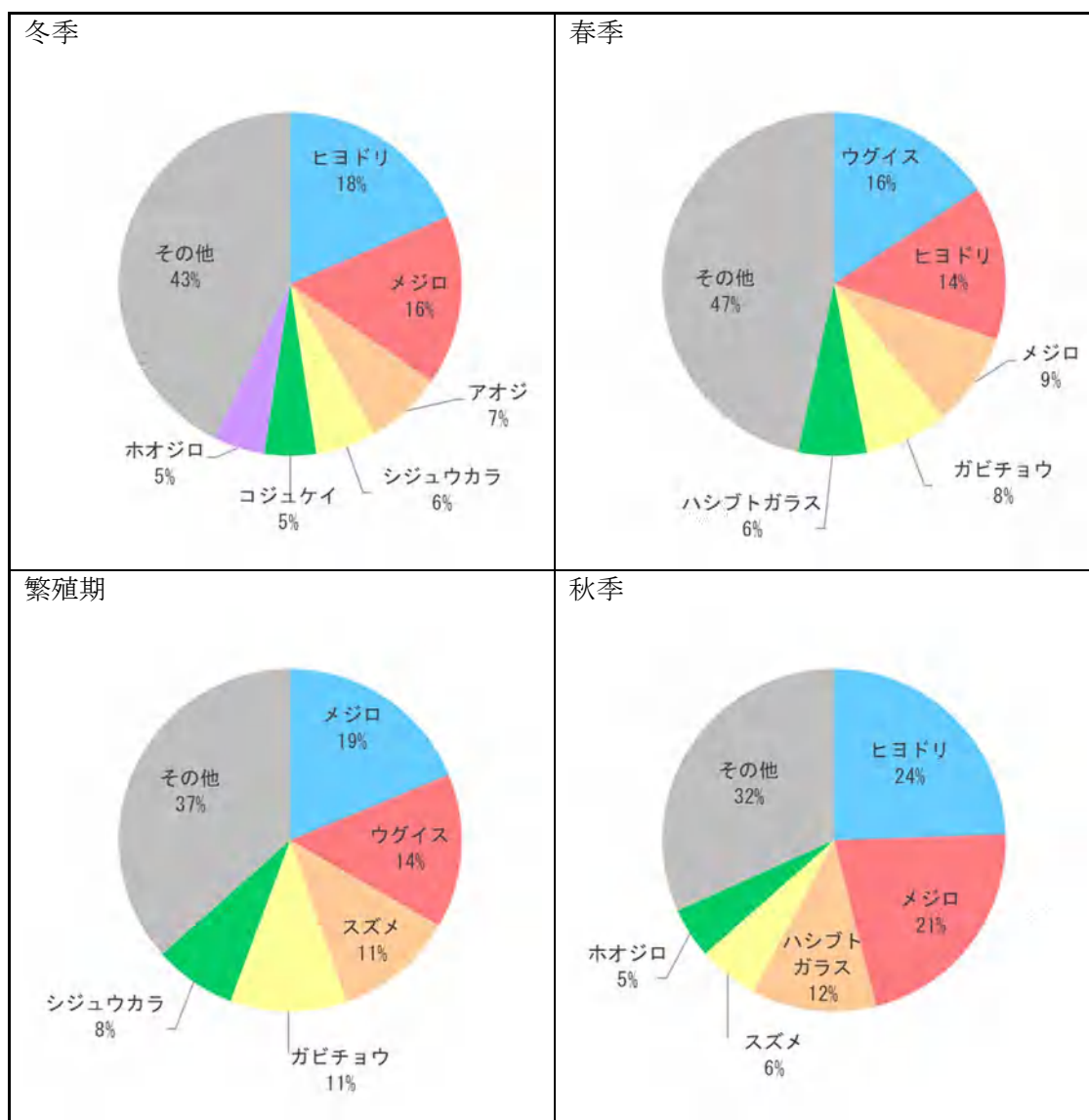


図 5. 2-13 ラインセンサス法による優占種（上位 5 種）

定点観察法における季節別の優占種は、図 5.2-14 に示すとおりである。

いずれもハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、スズメといった留鳥が全ての季節で上位を優占しており、樹林環境や里地環境に生息する種が優占した。

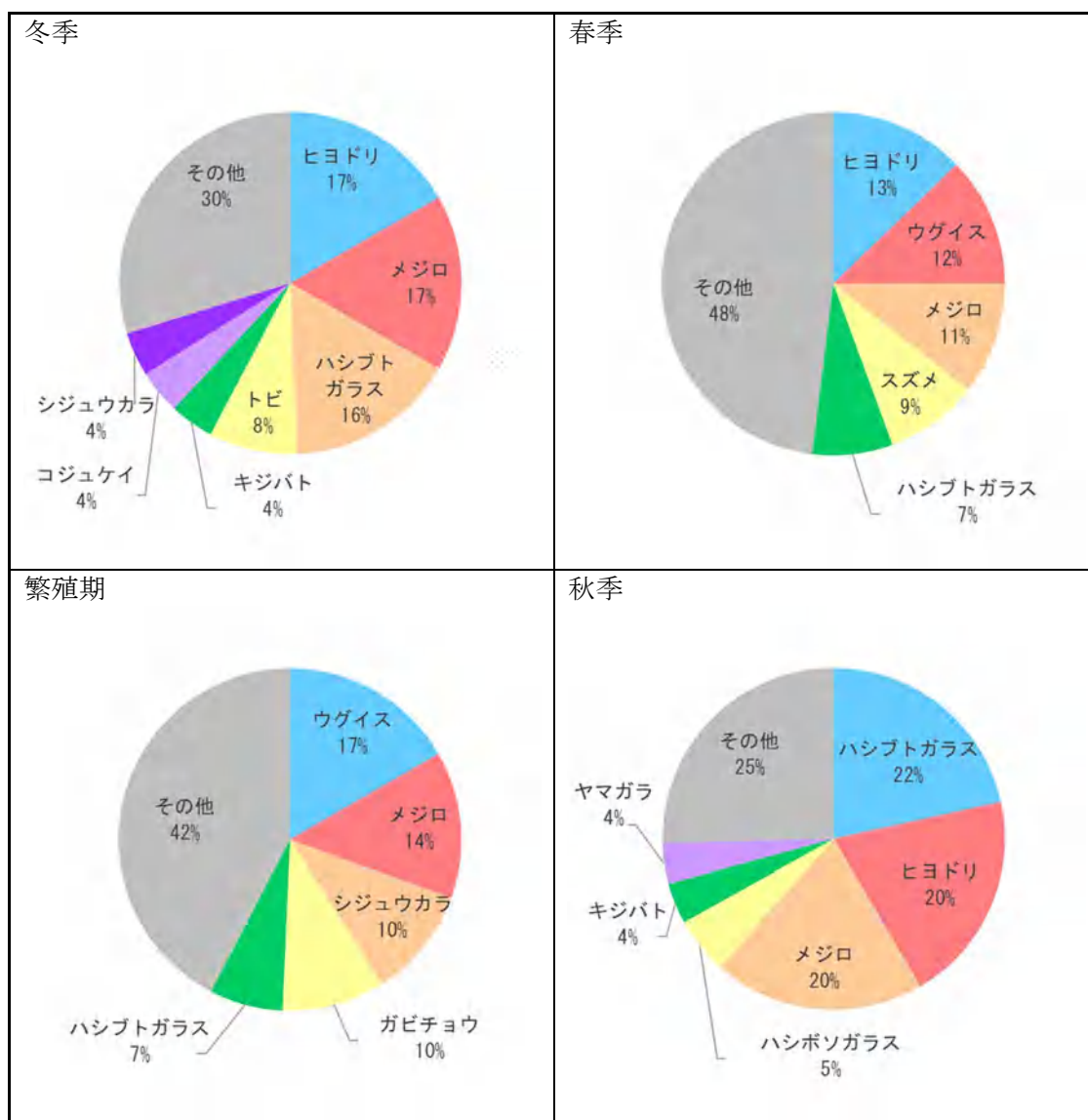


図 5.2-14 定点観察法による優占種（上位 5 種）

ウ 猛禽類

猛禽類調査では、令和 3 年に予備調査を開始し、令和 4 年から令和 6 年にかけて、本調査を実施している。現地調査における猛禽類の確認状況については、令和 3 年及び令和 4 年の結果は「別添 3-2」に示しており、令和 5 年から令和 6 年の結果は表 5.2-47 に示した。

現地調査の結果、8 種の猛禽類が確認され、そのうちオオタカについては営巣地が特定された。

表 5.2-47 現地調査における重要な猛禽類の確認状況

種和名	確認回数			選定基準			
	調査年		合計	①	②	③	④
	令和 5 年	令和 6 年					
ミサゴ	15	33	48			NT	VU
ハチクマ	2	2	4			NT	CR+EN
ツミ	1		1				VU
ハイタカ	4	7	11			NT	DD
オオタカ	57	61	118			NT	VU
サシバ	6	1	7			VU	CR+EN
ノスリ	3	17	20				VU
ハヤブサ	1	4	5		国内	VU	CR+EN

エ 爬虫類

現地調査により確認された爬虫類は表 5.2-48 に示すとおりである。

現地調査の結果、1 目 6 科 10 種の爬虫類が確認された。トカゲ類やヘビ類は関東地方周辺に分布する種の多くが確認された。水域が限定されていることもあり、カメ類は確認されなかった。

表 5.2-48 現地調査により確認された爬虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			確認内容
				春季	夏季	秋季	
1	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	○	○	○	成体、死体、卵殻
2		トカゲ科	ヒガシニホントカゲ	○	○		成体、幼体、死体
3		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	○	○	○	成体、幼体
4		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	○		○	成体
5		ナミヘビ科	シマヘビ	○	○	○	成体、脱皮殻
6			アオダイショウ	○	○	○	成体、幼体
7			ジムグリ	○	○	○	成体、幼体
8			ヒバカリ	○	○	○	成体、幼体
9			ヤマカガシ	○	○	○	成体、幼体
10		クサリヘビ科	ニホンマムシ		○	○	成体
計	1 目	6 科	10 種	9 種	9 種	9 種	—

注) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

オ 両生類

現地調査により確認された両生類は表 5.2-49 に示すとおりである。

現地調査の結果、2 目 6 科 8 種の両生類が確認された。

表 5.2-49 現地調査により確認された両生類

No.	目名	科名	種名	確認時期				確認内容
				早春	春季	夏季	秋季	
1	有尾目	サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ		○	○		成体、幼体、幼生、卵囊
2		イモリ科	アカハライモリ			○		成体
3	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	○			○	幼体、幼生、死体
4		アマガエル科	ニホンアマガエル		○	○	○	幼生、鳴き声
5		アカガエル科	ヤマアカガエル	○	○	○	○	成体、幼生、卵塊、鳴き声
6			ムカシツチガエル	○	○	○	○	成体、幼体、幼生、鳴き声
7		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル		○	○		鳴き声
8			モリアオガエル			○	○	成体、幼体、卵塊、鳴き声
計	2 目	6 科	8 種	3 種	5 種	7 種	5 種	—

注) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト (令和 6 年度版) 」(河川環境データベース HP) に従った。

カ 昆虫類

確認された昆虫類の分類別確認種数は表 5.2-50 に、昆虫類は表 5.2-51(1)～(21)に示すとおりである。

現地調査の結果、22 目 225 科 1,037 種の昆虫類が確認された。照葉樹林、針葉樹林等の樹林環境では、モリチャバネゴキブリ、オオホシカメムシ、コジャノメ、コクワガタ、オオスズメバチ等、畑、果樹園等の耕作地や草地環境では、エンマコオロギ、ヒゲナガカメムシ、モンシロチョウ、ホソヒメヒラタアブ、ウリハムシ等、池、河川、水田等の水辺環境では、アジアイトトンボ、ショウジョウトンボ、アメンボ、ミナミカマバエ、コシマゲンゴロウ等、人家周辺や道路周辺等の植栽環境では、カネタタキ、ニイニイゼミ、アゲハ、アオドウガネ、セグロアシナガバチ等が確認された。

表 5.2-50 昆虫類の分類別確認種数

目名	確認時期								合計	
	春季		初夏季		夏季		秋季			
	科 数	種 数	科 数	種 数	科 数	種 数	科 数	種 数	科 数	種 数
イシノミ目（古顎目）	1	1	1	1			1	1	1	1
カゲロウ目（蜉蝣目）	1	1							1	1
トンボ目（蜻蛉目）	6	10	6	13	6	12	4	14	8	28
ゴキブリ目（網翅目）	1	3	1	4	1	2	2	6	2	8
カマキリ目（蟷螂目）	1	1	1	3	1	2	1	3	1	4
シロアリ目（等翅目）	1	1					1	1	1	1
ハサミムシ目（革翅目）	1	2	1	2	1	2	1	3	1	3
カワゲラ目（セキ翅目）	1	1					1	1	1	1
バッタ目（直翅目）	5	12	12	25	12	37	12	46	13	56
ナナフシ目（竹節虫目）	1	1	1	2	1	3			1	3
チャタテムシ目（嚙虫目）			1	1					1	1
カメムシ目（半翅目）	26	75	27	88	27	81	24	68	42	167
ヘビトンボ目	1	1					1	1	1	2
ラクダムシ目			1	1					1	1
アザミウマ目（総翅目）					1	1			1	1
アミメカゲロウ目（脈翅目）			4	5	3	6	1	2	4	8
シリアゲムシ目（長翅目）	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2
トビケラ目（毛翅目）	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4
チョウ目（鱗翅目）	16	51	19	81	20	75	17	54	28	146
ハエ目（双翅目）	18	49	23	53	12	28	13	27	31	95
コウチュウ目（鞘翅目）	39	170	40	219	31	103	27	91	57	382
ハチ目（膜翅目）	14	58	18	68	15	71	14	46	23	122
合計	136 科	440 種	160 科	570 種	134 科	426 種	123 科	367 種	225 科	1,037 種

注 1) 配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2) 右の合計欄は、各確認時期で重複していない科及び種の合計数を示す。

表 5. 2-51 (1) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
1	イシノミ目 (古顎目)	イシノミ科	イシノミ科の一種	○	○		○
2	カゲロウ目 (蜉蝣目)	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	○			
3	トンボ目 (蜻蛉目)	アオイトトンボ科	ホソミオツネトンボ	○			
4			オオアオイトトンボ				○
5		イトトンボ科	ホソミイトトンボ	○			○
6			キイトトンボ			○	
7			アジアイトトンボ		○	○	○
8		カワトンボ科	ハグロトンボ		○	○	
9			アサヒナカワトンボ	○	○		
10		ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	○	○		
11			ギンヤンマ		○		○
12			ミルンヤンマ	○		○	○
13			ヤブヤンマ			○	
14		サナエトンボ科	ヤマサナエ	○	○		
15			ダビドサナエ	○			
16			コオニヤンマ			○	
17		オニヤンマ科	オニヤンマ			○	
18		エゾトンボ科	オオヤマトンボ		○		
19		トンボ科	ショウジョウトンボ		○	○	
20			シオカラトンボ	○	○	○	○
21			シオヤトンボ	○			
22			オオシオカラトンボ		○	○	○
23			ウスバキトンボ	○	○	○	○
24			コシアキトンボ		○		
25			コノシメトンボ				○
26			ナツアカネ				○
27			マユタテアカネ		○	○	○
28			アキアカネ				○
29			リスアカネ				○
30			ネキトンボ				○
31	ゴキブリ目 (網翅目)	ゴキブリ科	クロゴキブリ				○
32			ヤマトゴキブリ				○
33		チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	○	○	○	○
34			ツチゴキブリ本土亜種				○
35			ウスヒラタゴキブリ本土亜種		○	○	○
36			ヒメクロゴキブリ	○	○		
37			キチャバネゴキブリ	○			○
38			キスジゴキブリ		○		
39	カマキリ目 (蟷螂目)	カマキリ科	ヒナカマキリ				○
40			ハラビロカマキリ		○	○	
41			コカマキリ		○		○
42			オオカマキリ	○	○	○	○
43	シロアリ目 (等翅目)	ミゾガシラシロアリ科	ヤマトシロアリ	○			○
44	ハサミムシ目 (革翅目)	マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ	○	○	○	○
45			コバネハサミムシ	○		○	○
46			ハマベハサミムシ		○		○
47	カワゲラ目 (セキ翅目)	オナシカワゲラ科	Nemoura 属の一種	○			○
48	バッタ目 (直翅目)	ツユムシ科	セスジツユムシ			○	○
49			サトクダマキモドキ			○	○
50			ヤマクダマキモドキ			○	○

表 5.2-51 (2) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
51	バッタ目 (直翅目)	ツユムシ科	ツユムシ		○	○	○
52			ヒメクダマキモドキ			○	○
53		キリギリス科	ウスイロササキリ				○
54			オナガササキリ				○
55			コバネササキリ				○
56			ホシササキリ				○
57			クロスジコバネササキリモドキ		○		
58			ヒメギス	○	○		
59			クビキリギス	○			○
60			ハヤシノウマオイ			○	○
61			クサキリ		○	○	
62			ヤブキリ	○	○	○	
63		ケラ科	ケラ		○	○	○
64		マツムシ科	クチキコオロギ	○		○	○
65			ヒロバネカントン			○	
66			アオマツムシ		○	○	○
67		コオロギ科	ヒメコオロギ				○
68			ミツカドコオロギ			○	○
69			モリオカメコオロギ			○	○
70			クマコオロギ				○
71			タンボコオロギ		○		○
72			クマスズムシ			○	○
73			エンマコオロギ		○		○
74			ツヅレサセコオロギ			○	○
75		カネタタキ科	カネタタキ		○	○	○
76		アリツカコオロギ科	アリツカコオロギ				○
77			サトアリツカコオロギ				○
78		ヒバリモドキ科	ウスグモスズ		○	○	○
79			マダラスズ	○	○	○	○
80			キンヒバリ	○	○		○
81			ヒゲシロスズ			○	○
82			シバスズ			○	○
83			ヤチスズ		○		○
84			クサヒバリ			○	○
85			キアシヒバリモドキ		○		
86		バッタ科	ショウリョウバッタ		○	○	○
87			クルマバッタ			○	○
88			ヒナバッタ		○	○	○
89			ショウリョウバッタモドキ			○	○
90			トノサマバッタ		○	○	○
91			クルマバッタモドキ			○	
92			イボバッタ			○	
93		イナゴ科	コバネイナゴ			○	○
94			メスアカフキバッタ			○	○
95			ツチイナゴ	○	○	○	○
96		オンブバッタ科	オンブバッタ		○	○	○
97		ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ	○	○	○	○
98			ハネナガヒシバッタ		○		○
99			コバネヒシバッタ	○	○	○	○
100			ハラヒシバッタ	○		○	○

表 5.2-51 (3) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
101	バッタ目 (直翅目)	ヒシバッタ科	ヤセヒシバッタ	○			
102			ヒメヒシバッタ	○	○		○
103		ノミバッタ科	ノミバッタ		○	○	
104	ナナフシ目 (竹節虫目)	ナナフシ科	トゲナナフシ		○	○	
105			ナナフシモドキ	○	○	○	
106			タイワントビナナフシ			○	
107	チャテムシ目 (嚙虫目)	チャタテ科	スジチャタテ		○		
108	カメムシ目 (半翅目)	コガシラウンカ科	ナワコガシラウンカ			○	
109		ヒシウンカ科	ヤナギカワウンカ		○		
110			キガシラヒシウンカ	○			
111			イボタヒシウンカ	○		○	
112			ヨモギヒシウンカ			○	
113			ヒシウンカ			○	
114		ウンカ科	ゴマフウンカ				○
115			コブウンカ			○	
116		テングスケバ科	ツマグロスケバ			○	
117		アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ			○	○
118			トビイロハゴロモ			○	
119		マルウンカ科	マルウンカ	○	○		
120		シマウンカ科	シマウンカ				○
121		ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ			○	
122		グンバイウンカ科	ミドリグンバイウンカ			○	○
123			ヒラタグンバイウンカ			○	○
124		セミ科	クマゼミ			○	
125			アブラゼミ			○	
126			ミンミンゼミ			○	
127			ツクツクボウシ			○	○
128			ニイニイゼミ		○	○	
129			ヒグラシ			○	
130		ツノゼミ科	トビイロツノゼミ		○		
131		アワフキムシ科	シロオビアワフキ	○			
132		コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ		○	○	
133		トゲアワフキムシ科	ムネアカアワフキ	○			
134		ヨコバイ科	キウイヒメヨコバイ		○	○	
135			トバヨコバイ				○
136			ツマグロオオヨコバイ	○		○	○
137			オオヨコバイ	○	○		○
138			ウスアカイチモンジヨコバイ				○
139			クロミヤクイチモンジヨコバイ				○
140			サジヨコバイ			○	
141			アライヒシモンヨコバイ	○			
142			Pagaronia 属の一種	○	○		
143			クロヒラタヨコバイ	○	○		
144			クロサジヨコバイ		○		
145			モモヒメヨコバイ			○	
146			オサヨコバイ			○	
147			イグチホシヨコバイ	○			
148			クワキジラミ		○		
149		キジラミ科	クストガリキジラミ	○			
150		アブラムシ科	エンドウヒゲナガアブラムシ	○	○		

表 5.2-51 (4) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
151	カメムシ目 (半翅目)	アブラムシ科	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	○	○		
152		ワタフキカイガラムシ科	オオワラジカイガラムシ		○		
153		サシガメ科	ヨコヅナサシガメ	○			○
154			アカサシガメ	○			○
155			ビロウドサシガメ		○		○
156			クビグロアカサシガメ	○	○		
157			アカシマサシガメ	○			○
158			アシマダラアカサシガメ				○
159			コゲヒメトビサシガメ		○		
160			トビイロサシガメ			○	○
161			クロトビイロサシガメ				○
162			クロモンサシガメ		○		○
163			シマサシガメ	○	○		
164			ヤニサシガメ	○			
165		ゲンバヤムシ科	ウチワゲンバイ	○			○
166			エグリゲンバイ			○	
167			アワダチソウゲンバイ	○	○	○	○
168			ヤブガラシゲンバイ	○	○		
169			キクゲンバイ			○	
170			チャイログンバイ		○		
171			クスゲンバイ		○		
172			ヤブニッケイゲンバイ		○		
173			ツツジゲンバイ	○	○	○	○
174			マツムラゲンバイ	○			
175		カスミカメムシ科	ブチヒゲクロカスミカメ		○		
176			ツマグロアオカスミカメ	○	○		○
177			ツマグロハギカスミカメ		○	○	
178			シイノキクロカスミカメ	○			
179			ヒメセダカカスミカメ		○	○	○
180			ガマカスミカメ		○		
181			アカホシカスミカメ				○
182			メンガタカスミカメ	○	○	○	
183			ハギメンガタカスミカメ	○	○		
184			ズアカシダカスミカメ		○	○	
185			ヒョウタンカスミカメ		○	○	
186			クロヒョウタンカスミカメ				○
187			アカスジカスミカメ		○		○
188		マキバサシガメ科	アカマキバサシガメ	○			
189			ハネナガマキバサシガメ			○	○
190		ヒラタカメムシ科	クロヒラタカメムシ		○		
191			トビイロオオヒラタカメムシ	○			
192		オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ		○	○	○
193			ヒメホシカメムシ		○	○	○
194		ホシカメムシ科	フタモンホシカメムシ			○	
195			クロホシカメムシ	○		○	○
196		ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ			○	○
197			ニセヒメクモヘリカメムシ			○	
198			ホソヘリカメムシ	○	○	○	
199		ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ	○	○	○	○
200			ホソヘリカメムシ	○	○	○	○

表 5.2-51 (5) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
201	カメムシ目 (半翅目)	ヘリカメムシ科	ハリカメムシ	○	○	○	
202			ホシハラヒロヘリカメムシ	○	○	○	○
203			ツマキヘリカメムシ	○	○	○	
204			キバラヘリカメムシ		○	○	
205		ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ		○		
206			アカヒメヘリカメムシ	○		○	
207			コブチヒメヘリカメムシ	○		○	
208			ブチヒメヘリカメムシ		○		
209		イトカメムシ科	ヒメイトカメムシ			○	
210			イトカメムシ			○	
211		ナガカメムシ科	セスジナガカメムシ		○		
212			ヒョウタンナガカメムシ	○			○
213			ヒメコバネナガカメムシ	○			
214			ニッポンコバネナガカメムシ				○
215			コバネナガカメムシ				○
216			オオメナガカメムシ		○	○	○
217			ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	○	○	○	○
218			サビヒョウタンナガカメムシ		○		
219			キバリヒョウタンナガカメムシ				○
220			ホソコバネナガカメムシ	○	○		
221			オオモンシロナガカメムシ	○	○	○	○
222			チャイロナガカメムシ		○	○	
223			ヒメナガカメムシ	○	○	○	○
224			ヒゲナガカメムシ	○	○	○	○
225			クロスジヒゲナガカメムシ	○	○		
226			モンシロナガカメムシ			○	
227			シロヘリナガカメムシ	○	○		○
228			チャモンナガカメムシ	○	○		
229			クロアシホソナガカメムシ			○	○
230			イシハラナガカメムシ	○	○		
231			コバネヒョウタンナガカメムシ	○	○	○	○
232		メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ	○	○	○	○
233		ツノカメムシ科	オオツノカメムシ		○	○	
234			ベニモンツノカメムシ		○		
235			アオモンツノカメムシ		○		
236			エサキモンキツノカメムシ	○	○	○	
237		ツチカメムシ科	ミツボシツチカメムシ	○			
238			ヒメツヤツチカメムシ	○	○		
239			ヒメツチカメムシ		○		
240			コツチカメムシ	○			
241			ツチカメムシ		○		
242		カメムシ科	ウズラカメムシ	○		○	
243			ウシカメムシ		○		
244			シロヘリクチブトカメムシ				○
245			ブチヒゲカメムシ			○	
246			ハナダカカメムシ	○	○		
247			キマダラカメムシ				○
248			ナガメ		○	○	
249			トゲシラホシカメムシ			○	
250			ムラサキシラホシカメムシ	○	○	○	

表 5.2-51 (6) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
251	カメムシ目 (半翅目)	カメムシ科	シラホシカメムシ	○		○	○
252			ツヤアオカメムシ	○		○	○
253			エビイロカメムシ	○		○	
254			クサギカメムシ	○	○	○	○
255			トホシカメムシ		○		
256			ミナミアオカメムシ			○	○
257			イネカメムシ				○
258			チャバネアオカメムシ	○	○	○	○
259			イネクロカメムシ				○
260		マルカメムシ科	タデマルカメムシ	○	○		
261			マルカメムシ	○	○	○	○
262		キンカメムシ科	オオキンカメムシ		○	○	○
263		アメンボ科	オオアメンボ	○	○		
264			アメンボ	○	○	○	○
265			ヒメアメンボ	○	○	○	○
266			コセアカアメンボ	○	○	○	○
267			ヤスマツアメンボ	○	○	○	○
268			シマアメンボ		○	○	○
269		ミズムシ科 (昆)	コミズムシ類		○		○
270		メミズムシ科	メミズムシ	○	○		○
271		コオイムシ科	コオイムシ				○
272		タイコウチ科	タイコウチ	○			
273		マツモムシ科	コマツモムシ				○
274			マツモムシ	○	○		
275	アザミウマ目 (総目)	クダアザミウマ科	クダアザミウマ科の一種			○	
276	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヤマトクロスジヘビトンボ	○			
277			ヘビトンボ				○
278	ラクダムシ目	ラクダムシ科	ラクダムシ		○		
279	アミメカゲロウ目 (脈翅目)	ヒロバカゲロウ科	ヤマトヒロバカゲロウ		○		
280		クサカゲロウ科	アミメクサカゲロウ			○	○
281			クモンクサカゲロウ			○	
282			ヨツボシクサカゲロウ		○		
283			スズキクサカゲロウ		○	○	○
284			セボシクサカゲロウ			○	
285		ヒメカゲロウ科	チャバネヒメカゲロウ		○	○	
286		ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ		○	○	
287	シリアゲムシ目 (長翅目)	ガガンボモドキ科	ガガンボモドキ		○		
288		シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	○	○	○	○
289	トビケラ目 (毛翅目)	シマトビケラ科	シマトビケラ科の一種			○	
290		アシエダトビケラ科	コバントビケラ		○	○	○
291		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	○			
292		カクツツトビケラ科	カクツツトビケラ科の一種	○	○		○
293	チョウ目 (鱗翅目)	コウモリガ科	コウモリガ		○		
294		ミノガ科	クロツヤミノガ		○		
295			チャミノガ		○		
296			オオミノガ		○		
297		ヒロズコガ科	マダラマルハヒロズコガ	○			○
298		キバガ科	キバガ科の一種	○		○	○
299		ヒゲナガキバガ科	ゴマフシロキバガ		○		
300			フタクロボシキバガ			○	

表 5.2-51 (7) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
301	チョウ目 (鱗翅目)	マルハキバガ科	ホソオビキマルハキバガ			○	
302		ハマキガ科	チャノコカクモンハマキ		○	○	○
303			トビモンコハマキ				○
304			ヨモギネムシガ		○	○	
305			コホソスジハマキ	○		○	○
306			バラシロヒメハマキ	○			
307		セミヤドリガ科	セミヤドリガ			○	
308		イラガ科	クロシタアオイイラガ			○	
309		マダラガ科	キスジホソマダラ	○			
310			リンゴハマキクロバ		○		
311			ホタルガ		○		○
312		セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	○	○	○	
313			イチモンジセセリ			○	○
314			チャバネセセリ		○	○	○
315			キマダラセセリ		○	○	
316			コチャバネセセリ	○	○	○	
317		シジミチョウ科	ムラサキツバメ		○	○	○
318			ムラサキシジミ	○	○	○	○
319			ルリシジミ	○	○	○	○
320			クロマダラソテツシジミ				○
321			ウラギンシジミ		○	○	○
322			ツバメシジミ	○	○	○	○
323			アカシジミ		○		
324			ウラナミシジミ		○	○	○
325			ベニシジミ	○	○	○	○
326			ミドリシジミ		○		
327			トラフシジミ	○			
328			ヤマトシジミ本土亜種	○	○	○	○
329		タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン			○	
330			アカボシゴマダラ		○	○	○
331			ルリタテハ本土亜種			○	
332			クロヒカゲ本土亜種		○		
333			ヒカゲチョウ		○	○	○
334			テングチョウ日本本土亜種	○	○	○	
335			イチモンジチョウ			○	
336			クロコノマチョウ	○	○		○
337			ジャノメチョウ		○		
338			コジャノメ	○	○	○	○
339			ヒメジャノメ		○		○
340			サトキマダラヒカゲ	○	○	○	
341			コミスジ本州以南亜種	○	○	○	○
342			キタテハ	○	○	○	○
343			アカタテハ	○	○		○
344			ヒメウラナミジャノメ	○	○	○	○
345		アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ本土亜種	○	○	○	
346			アオスジアゲハ	○	○	○	○
347			カラスアゲハ本土亜種	○	○	○	○
348			モンキアゲハ	○	○	○	
349			キアゲハ	○	○	○	
350			ナガサキアゲハ	○	○	○	○

表 5.2-51 (8) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
351	チョウ目 (鱗翅目)	アゲハチョウ科	クロアゲハ本土亜種	○	○	○	
352			アゲハ	○	○	○	○
353		シロチョウ科	ツマキチョウ本土亜種	○			
354			モンキチョウ		○	○	
355			キタキチョウ	○	○	○	○
356			スジグロシロチョウ	○	○	○	
357			モンシロチョウ	○	○	○	
358		トリバガ科	トリバガ科の一種			○	○
359		ツトガ科	ツトガ			○	
360			アカウスグロノメイガ				○
361			マメノメイガ				○
362			マエアカスカシノメイガ	○			○
363			コガタシロモンノメイガ			○	
364			キムジノメイガ				○
365			シロオビノメイガ				○
366			クロスジノメイガ		○	○	
367		メイガ科	アカマダラメイガ		○		
368			トビイロフタスジシマメイガ		○		
369		マドガ科	マドガ	○		○	
370		カギバガ科	ウコンカギバ		○		○
371		シャクガ科	ユウマダラエダシャク	○			
372			チャマダラエダシャク		○		
373			クロクモエダシャク	○	○		
374			トンボエダシャク		○		
375			オオハガタナミシャク	○			
376			シロジマエダシャク		○		
377			キアミメナミシャク		○		
378			セスジナミシャク		○	○	
379			キマダラオオナミシャク		○		○
380			キバラヒメアオシャク			○	
381			オオバナミガタエダシャク			○	
382			シャンハイオエダシャク			○	
383			ウスクモエダシャク			○	
384			ヒメカギバアオシャク		○		
385			ウスキツバメエダシャク		○		○
386			ホシミスジエダシャク		○		
387			ウスキクロテンヒメシャク	○			
388			マエキヒメシャク	○			
-			Scopula 属の一種		○		○
389			ウンモンオオシロヒメシャク	○			
390			ハグルマエダシャク	○			
391			キマダラツバメエダシャク		○		
392			シタコバネナミシャク	○			
393		イボタガ科	イボタガ	○			
394		ヤママユガ科	ヒメヤママユ		○		
395		スズメガ科	オオスカシバ		○		○
396			トビイロスズメ			○	
397			ヒメクロホウジャク	○			
398			ホシホウジャク		○	○	○
399			キイロスズメ				○

表 5.2-51 (9) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
400	チョウ目 (鱗翅目)	スズメガ科	セスジスズメ			○	○
401		シャチホコガ科	ツマジロシャチホコ			○	
402			ウスキシヤチホコ			○	
403			オオエグリシャチホコ			○	
404		ヒトリガ科	カノコガ		○	○	
405			キシタホソバ		○		
406			クワゴマダラヒトリ	○			○
407			ヨツボシホソバ		○		
408			キハラゴマダラヒトリ		○		
409		ドクガ科	チャドクガ			○	
410			マイマイガ		○		
411			ヒメシロモンドクガ		○		
412			ゴマフリドクガ日本本土・奄美亜種			○	○
413			モンシロドクガ			○	
414		ヤガ科	ホソアオバヤガ				○
415			ナカジロシタバ				○
416			ネスジシラクモヨトウ	○			
417			フクラスズメ		○	○	○
418			ハマオモトヨトウ			○	
419			キシタバ			○	
420			スジボソサンカクチバ				○
421			シマフコヤガ		○		○
422			ウスツマクチバ		○	○	
423			モンムラサキクチバ		○		
424			アカテנקチバ		○	○	
425			トビスジアツバ				○
426			オオシラナミアツバ			○	
427			ソトウスグロアツバ		○	○	
428			クロキシタアツバ				○
429			タイワンキシタアツバ	○			
430			カバフヒメクチバ			○	
431			ムラサキヒメクチバ	○			
432			シロスジトモエ			○	
433			フタホシコヤガ	○			
434			ウンモンクチバ	○			
435			スジシロキヨトウ		○		
436			ヒメエグリバ			○	
437			マダラエグリバ			○	
438			ハスモンヨトウ		○		
439	ハエ目 (双翅目)	ヒメガガンボ科	ヒメガガンボ科の一種	○	○	○	
440		ガガンボ科	ホリカワクシヒゲガガンボ		○		
441			マドガガンボ		○		
-			Tipula 属の一種	○	○		
442		チョウバエ科	チョウバエ科の一種				○
443		ユスリカ科	ユスリカ科の一種	○	○		
444		カ科	ヒトスジシマカ	○	○	○	○
445		タマバエ科	エノキトガリタマバエ		○		
446			シロダモタマバエ		○		
447		キノコバエ科	キノコバエ科の一種	○	○		
448		シギアブ科	シギアブ科の一種	○			

表 5.2-51(10) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
449	ハエ目（双翅目）	ミズアブ科	Beris 属の一種	○			
450			アメリカミズアブ		○	○	
451			Microchrysa 属の一種		○	○	
452			コウカアブ			○	○
453			ハキナガミズアブ		○	○	
454			Sargus 属の一種		○		
455			ミズアブ			○	
456		アブ科	ウシアブ			○	
457		ムシヒキアブ科	コムライシアブ			○	
458			ハラボソムシヒキ		○		
459			オオイシアブ	○	○		
460			ナミマガリケムシヒキ	○	○		
461			シオヤアブ		○		
462		ツリアブ科	コウヤツリアブ		○		
463			ピロウドツリアブ	○			
464			クロバネツリアブ		○	○	
465			スキバツリアブ			○	
466		アシナガバエ科	ウデゲヒメホソアシナガバエ		○		
467			Dolichopus 属の一種	○	○	○	○
468			マダラアシナガバエ	○	○	○	
469		オドリバエ科	Empis 属の一種	○			
-			オドリバエ科の一種	○			
470		アタマアブ科	アタマアブ科の一種				○
471		ハナアブ科	ツماغロコシボソハナアブ		○		
472			オオヒメヒラタアブ	○			
473			クロヒラタアブ	○			
474			Brachyopa 属の一種	○			
475			ハラアカハラナガハナアブ	○			
476			Cheilosia 属の一種	○			
477			Criorhina 属の一種	○			
478			ヨコジマオオヒラタアブ				○
479			Epistrophe 属の一種		○		
480			ホソヒラタアブ	○	○	○	○
481			キゴシハナアブ				○
482			ナミハナアブ	○			○
483			Eumerus 属の一種	○		○	○
484			ナミホシヒラタアブ	○	○	○	
485			フタホシヒラタアブ	○			
486			スズキフタモンハナアブ	○			
487			アシプトハナアブ	○			○
488			カクモンハラプトハナアブ	○	○		
489			ニッポンミケハラプトハナアブ	○			
490			マツムラハラプトハナアブ	○			
491			ツヤヒラタアブ	○			○
492			スイセンハナアブ	○			
493			シマアシプトハナアブ			○	
494			フタオビアリノスアブ		○		
495			キンアリノスアブ	○			
496			アリノスアブ	○			
497			シロスジナガハナアブ		○		

表 5.2-51(11) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
498	ハエ目（双翅目）	ハナアブ科	ハチモドキハナアブ		○		
499			キアシマメヒラタアブ	○	○	○	
500			オオハナアブ	○	○		○
501			Platycheirus 属の一種	○			
502			ホソヒメヒラタアブ	○	○	○	○
503			マガイヒラタアブ	○	○		
504			クロベッコウハナアブ		○	○	
505			シロスジベッコウハナアブ				○
506			ナミルリイロハラナガハナアブ	○	○	○	○
507		ハモグリバエ科	ハモグリバエ科の一種		○		
508		メバエ科	オオマエグロメバエ	○	○		
509		ショウジョウバエ科	Drosophila 属の一種	○	○		○
510		ミギワバエ科	ミナミカマバエ				○
511		シマバエ科	ヒラヤマシマバエ	○	○		○
512			ヤブクロシマバエ		○	○	
513		フトモモホソバエ科	Texara 属の一種		○		
514		マルズヤセバエ科	マルズヤセバエ科の一種		○		
515		ナガズヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ				○
516		ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ		○		○
517		ツヤホソバエ科	ヒトテンツヤホソバエ		○		
518		ミバエ科	ハルササハマダラミバエ		○		
519		クロバエ科	オオクロバエ	○	○		○
520			タカネクロバエ				
521			オビキンバエ	○	○		
522			ホホグロオビキンバエ	○		○	○
523			Lucilia 属の一種		○	○	
524			ツماغロキンバエ		○		○
525		イエバエ科	イエバエ科の一種	○			
526		ニクバエ科	ジョセフニクバエ			○	
527			カガニクバエ		○		
528			ヒメニクバエ		○	○	
529			ナミニクバエ		○	○	
530		ヤドリバエ科	Cylindromyia 属の一種				○
531			Exorista 属の一種	○			
532			ルリハリバエ	○			○
533			Tachina 属の一種	○	○	○	○
534	コウチュウ目 （鞘翅目）	ホソクビゴミムシ科	オオホソクビゴミムシ	○		○	
535		オサムシ科	トゲアトキリゴミムシ		○		
536			セスジヒラタゴミムシ				○
537			マルガタゴミムシ		○		
538			ナガマルガタゴミムシ	○			
539			オオホシボシゴミムシ		○		
540			ヒメゴミムシ	○	○		
541			キベリゴモクムシ		○		○
542			アトモンミズギワゴミムシ				○
543			マイマイカブリ関東・中部地方亜種	○			
544			アオオサムシ	○	○	○	○
545			コキベリアオゴミムシ				○
546			ヒメキベリアオゴミムシ		○		○
547			ニセコガシラアオゴミムシ	○	○		

表 5.2-51(12) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
548	コウチュウ目 (鞘翅目)	オサムシ科	アトボシアオゴミムシ			○	○
549			キボシアオゴミムシ		○	○	○
550			ムナビロアトボシアオゴミムシ		○	○	
551			コキノコゴミムシ		○		
552			ハギキノコゴミムシ	○	○		
553			オオスナハラゴミムシ	○			○
554			セアカヒラタゴミムシ	○	○		○
555			クビボソゴミムシ			○	○
556			スジアオゴミムシ	○	○		
557			ヒロゴモクムシ	○			
558			ケウスゴモクムシ				○
559			ヒメケゴモクムシ	○			○
560			クロゴモクムシ				○
561			ニセクロゴモクムシ		○		○
562			ウスアカクロゴモクムシ	○			○
563			フタホシアトクリゴミムシ	○			
564			ホシハネビロアトクリゴミムシ	○	○		
565			コルリアトクリゴミムシ	○	○		○
566			クビナガゴミムシ				○
567			ウスオビコミズギワゴミムシ			○	○
568			フタホシスジバネゴミムシ			○	○
569			チビミズギワゴミムシ			○	
570			トックリナガゴミムシ	○			
571			コガシラナガゴミムシ	○	○		
572			ホソヒョウタンゴミムシ		○		○
573			ミドリマメゴモクムシ		○		
574			ツヤマメゴモクムシ	○	○		○
575			クリイロコミズギワゴミムシ	○	○		
576			ヨツモンコミズギワゴミムシ			○	
577			ヒメツヤゴモクムシ				○
578			クビアカツヤゴモクムシ		○		
579			オオイクビツヤゴモクムシ	○			
580			アカガネオオゴミムシ				○
581			ルイスオオゴミムシ				○
582		ハンミョウ科	トウキョウヒメハンミョウ		○	○	
583			コハンミョウ			○	
584			ナミハンミョウ	○	○	○	
585		ゲンゴロウ科	マメゲンゴロウ	○			○
586			ハイイロゲンゴロウ		○	○	○
587			コシマゲンゴロウ			○	○
588			チビゲンゴロウ		○		
589			モンキマメゲンゴロウ	○			
590			ヒメゲンゴロウ				○
591		ガムシ科	トゲバゴマフガムシ				○
592			セマルガムシ	○			○
593			セマルケシガムシ				○
594			キベリヒラタガムシ	○	○	○	○
595			キイロヒラタガムシ	○			
596			スジヒラタガムシ	○			
597			Laccobius 属の一種	○			

表 5.2-51(13) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
598	コウチュウ目 (鞘翅目)	ガムシ科	マメガムシ		○		○
599			ヒメガムシ	○		○	○
600		タマキノコムシ科	タマキノコムシ科の一種	○			
601		シデムシ科	オオヒラタシデムシ	○	○	○	○
602			ヨツボシモンシデムシ	○			○
603		ハネカクシ科	ムネビロハネカクシ	○	○		○
604			Astenus 属の一種	○			
605			ハイイロハネカクシ		○		
606			クロズトガリハネカクシ			○	○
607			アカバヒメホソハネカクシ			○	
608			クロサビイロマルズオオハネカクシ	○	○		
609			キンボシマルズオオハネカクシ	○			○
610			Othius 属の一種		○		
611			アオバアリガタハネカクシ	○			○
612			Philonthus 属の一種		○	○	○
613			ヤマトデオキノコムシ	○			
614			Stenus 属の一種	○			○
615			シンニセユミセミゾハネカクシ			○	○
616			モンクロアリノスハネカクシ		○		
617		センチコガネ科	センチコガネ	○	○	○	○
618		クワガタムシ科	コクワガタ	○	○	○	○
619			スジクワガタ		○	○	
620			ヒラタクワガタ本土亜種	○			
621			ミヤマクワガタ		○	○	○
622			ノコギリクワガタ		○	○	○
623		コガネムシ科	コイチャコガネ	○	○		
624			アオドウガネ			○	○
625			ツヤコガネ		○		
626			アオハナムグリ		○	○	
627			ヒメアシナガコガネ		○		
628			セマダラコガネ		○		
629			コアオハナムグリ		○	○	
630			クロハナムグリ		○		
631			クロコガネ	○	○		
632			アカビロウドコガネ			○	
633			ビロウドコガネ	○	○		
634			スジコガネ		○		
635			ハラゲビロウドコガネ	○			
636			ヒラタハナムグリ		○		
637			コブマルエンマコガネ		○		
638			マメコガネ		○	○	
639			シロテンハナムグリ		○	○	○
640			カナブン			○	
641			クロカナブン			○	○
642			Sericania 属の一種	○			
643			カブトムシ			○	○
644		ヒメドロムシ科	キスジミゾドロムシ				○
645		ナガハナノミ科	エダヒゲナガハナノミ		○		
646			ヒゲナガハナノミ	○			
647		タマムシ科	オオウグイスナガタマムシ		○	○	

表 5. 2-51(14) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
648	コウチュウ目 (鞘翅目)	タマムシ科	ヒシモンナガタマムシ	○	○		
649			マサキナガタマムシ		○		
650			ムネアカナガタマムシ		○		
651			ケヤキナガタマムシ		○		
652			ウグイスナガタマムシ	○	○		
653			ヒメヒラタタマムシ		○		
654			ウバタマムシ		○		
655			タマムシ		○	○	○
656			マスカクロホシタマムシ		○		
657			ムネアカチビナカボソタマムシ		○		
658			クズノチビタマムシ		○	○	
659			コウゾチビタマムシ		○	○	○
660			ナミガタチビタマムシ		○	○	
661			ウメチビタマムシ		○		
662			サンゲチビタマムシ	○	○	○	○
663			ヤノナミガタチビタマムシ		○	○	
664		コメツキムシ科	シモフリコメツキ	○			
665			サビキコリ		○	○	○
666			ムナビロサビキコリ	○		○	
667			ヒメサビキコリ	○			○
668			ヒメクロコメツキ	○			
669			ドウガネヒラタコメツキ	○			
670			オオハナコメツキ	○			
671			コナガコメツキ			○	○
672			クロツヤクシコメツキ	○			
673			クシコメツキ	○	○		
674			ヒゲナガコメツキ	○	○		
675			オオナガコメツキ			○	
676			コハナコメツキ	○	○		○
677			ヒゲコメツキ	○			
678			マダラチビコメツキ				○
679			クチブトコメツキ		○	○	
680		コメツキダマシ科	コメツキダマシ科の一種		○		
681		ジョウカイボン科	Asiopodabrus 属の一種	○	○		
682			ヒメジョウカイ	○			
683			ジョウカイボン	○			
684			セボンジョウカイ	○	○		
685			クロスジツマキジョウカイ	○			
686			マルムネジョウカイ	○			
687			アオジョウカイ		○		
688			キベリコバネジョウカイ		○		
689		ホタル科	ムネクリイロボタル	○	○		
690			カタモンミナミボタル		○		
691			オバボタル	○			
692			ゲンジボタル			○	
693			ヘイケボタル			○	
694		ベニボタル科	フトベニボタル		○		
695			クロハナボタル		○	○	
696		カツオブシムシ科	ヒメマルカツオブシムシ	○			
697			カマキリタマゴカツオブシムシ		○		

表 5. 2-51(15) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
698	コウチュウ目 (鞘翅目)	ナガシクイムシ科	カキノフタトゲナガシクイ	○			
699		カッコウムシ科	ムナグロナガカッコウムシ		○		
700			ツماغロツツカッコウムシ		○		
701		ジョウカイモドキ科	ホソヒメジョウカイモドキ		○		
702			クロアオケシジョウカイモドキ	○			
703			ヒロオビジョウカイモドキ		○	○	
704			ツマキアオジョウカイモドキ	○			
705		ヒガボソケシキスイ科	キイロチビハナケシキスイ	○			
706		テントウムシ科	ミスジキイロテントウ				○
707			ナナホシテントウ	○	○	○	○
708			トホシテントウ		○		
709			ナミテントウ	○	○	○	
710			ニジュウヤホシテントウ		○		
711			ルイヨウマダラテントウ	○	○		
712			キイロテントウ	○			
713			アトホシヒメテントウ	○			
714			モンクチビルテントウ		○	○	
715			ヒメカメノコテントウ	○	○	○	○
716			ベニヘリテントウ	○			
717			クロヘリヒメテントウ		○		
718			クロヒメテントウ		○		
719			カワムラヒメテントウ		○		
720			コクロヒメテントウ		○		
721			Vibidia 属の一種		○		
722		キスイムシ科	クロモンキスイ	○			
723			マルガタキスイ	○			○
724		ヒラタムシ科	オオキバチビヒラタムシ			○	
725			モンチビヒラタムシ			○	
726		ミジンムシダマシ科	クロミジンムシダマシ				○
727		テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ	○		○	○
728			ルリテントウダマシ	○			
729		オオキノコムシ科	ヒメオビオオキノコムシ		○		○
730			キアシチビオオキノコムシ	○			
731			クロチビオオキノコムシ		○		
732		オオキシムシ科	ヨツボシオオキシイ			○	
733		コメツキモドキ科	キムネヒメコメツキモドキ	○			
734			ルイスコメツキモドキ		○		
735		ヒメマキムシ科	ウスチャケシマキムシ		○		
736		ネスイムシ科	オバケデオネスイ	○			
737		ケシキスイ科	コクロムクゲケシキスイ	○			
738			クロハナケシキスイ	○	○	○	○
739			ヒメヒラタケシキスイ		○		
740			モンチビヒラタケシキスイ	○			
741			マメヒラタケシキスイ	○			
742			ヨツボシケシキスイ			○	
743			クロヒラタケシキスイ	○			
744		ヒメハナムシ科	トビイロヒメハナムシ	○			
745		ホソヒラタムシ科	マルムネホソヒラタムシ		○		
746		アリモドキ科	ケオビアリモドキ				○
747			クロホソアリモドキ			○	

表 5.2-51(16) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
748	コウチュウ目 (鞘翅目)	アリモドキ科	ホソクビアリモドキ	○	○	○	○
749			キアシクビボソムシ	○	○	○	
750			タナカホソアリモドキ				○
751			ヨツボシホソアリモドキ				○
752		ホソカタムシ科	ベニモンヒメヒラタホソカタムシ			○	
753		ナガクチキムシ科	ヒメホソナガクチキ		○		
754		ツチハンミョウ科	マメハンミョウ				○
755		ハナノミ科	オオオビハナノミ		○		
756			ハナノミ科の一種		○	○	
757		コキノコムシ科	ヒゲブトコキノコムシ			○	
758			コマダラコキノコムシ				○
759		カミキリモドキ科	カトウカミキリモドキ	○	○		
760			モモブトカミキリモドキ	○	○		
761		アカハネムシ科	ムナビロアカハネムシ	○			
762		ハナノミダマシ科	コフナガタハナノミ		○		
763			クロフナガタハナノミ	○	○		
764		ゴミムシダマシ科	ナミウスイロクチキムシ		○	○	
765			ホンドトビイロクチキムシ		○		
766			ヒメナガニジゴミムシダマシ	○	○		
767			ルリゴミムシダマシ		○	○	○
768			コスナゴミムシダマシ		○		
769			カクスナゴミムシダマシ			○	
770			アカツヤバネクチキムシ		○		
771			フナガタクチキムシ		○		
772			オオメキバネハムシダマシ		○		
773			ヒゲブトゴミムシダマシ		○		
774			フジナガハムシダマシ	○			
775			ニホンキマワリ本土亜種		○		○
776			ホンドニジゴミムシダマシ		○		
777			ホンドクロオオクチキムシ		○		
778		カミキリムシ科	トガリバアカネトラカミキリ	○	○		
779			ゴマダラカミキリ		○	○	
780			クワカミキリ		○	○	
781			シナノクロフカミキリ	○	○		
782			ルリカミキリ		○		
783			シロスジカミキリ			○	
784			ミドリカミキリ		○		
785			エグリトラカミキリ	○			
786			フタオビミドリトラカミキリ		○		
787			ヨツスジトラカミキリ	○		○	
788			ヒナルリハナカミキリ	○			
789			ヤツメカミキリ		○		
790			キッコウモンケシカミキリ		○		
791			シラホシカミキリ		○		
792			キイロトラカミキリ		○		
793			ツماغロハナカミキリ	○	○		
794			ヨツスジハナカミキリ		○	○	
795			ヘリグロリンゴカミキリ		○	○	
796			リンゴカミキリ		○		
797			ラミーカミキリ	○	○	○	

表 5.2-51(17) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
798	コウチュウ目 (鞘翅目)	カミキリムシ科	キクスイカミキリ	○			
799			ノコギリカミキリ		○		
800			キボシカミキリ		○	○	○
801			ワモンサビカミキリ			○	
802			アトモンサビカミキリ	○			
803			アトジロサビカミキリ		○		
804			ヘリグロベニカミキリ	○			
805			ベニカミキリ	○	○		
806			ヒメクロトラカミキリ	○			
807			アオカミキリ		○		
808			ケシカミキリ		○		
809			アメイロカミキリ	○			
810			トラフカミキリ		○		
811		ハムシ科	カミナリハムシ	○			
812			アカバナカミナリハムシ			○	○
813			ツブノミハムシ	○	○	○	
814			サメハダツブノミハムシ		○	○	○
815			ヘリグロテントウノミハムシ		○		
816			ムナグロツヤハムシ		○		
817			ウリハムシモドキ		○	○	
818			ウリハムシ	○	○	○	○
819			クロウリハムシ	○	○	○	○
820			ウスイロサルハムシ		○		
821			ハラグロヒメハムシ		○		
822			キバラヒメハムシ		○		
823			ムシクソハムシ	○	○	○	
824			ヨモギハムシ		○		
825			イモサルハムシ		○		
826			チビルリツツハムシ	○	○		
827			キボシツツハムシ		○	○	
828			クロボシツツハムシ	○			
829			マダラカサハラハムシ	○			○
830			カサハラハムシ	○			
831			クワハムシ	○	○		
832			イタドリハムシ	○	○		
833			コガタルリハムシ	○			
834			フジハムシ	○			
835			キバネマルノミハムシ		○		
836			ヒゲナガルリマルノミハムシ		○		
837			ドウガネサルハムシ	○	○	○	
838			ヨツモンカメノコハムシ	○	○	○	
839			キバラリクビボソハムシ	○	○		
840			トホシクビボソハムシ	○	○		
841			アカクビボソハムシ		○		
842			クズクビボソハムシ		○	○	
843			ヤマイモハムシ		○		
844			クビアカトビハムシ		○	○	
845			ニホンケブカサルハムシ	○	○		
846			ホタルハムシ			○	
847			イチモンジハムシ		○		

表 5.2-51(18) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
848	コウチュウ目 (鞘翅目)	ハムシ科	ルリマルノミハムシ		○		
849			コマルノミハムシ		○		
850			ドウガネツヤハムシ	○	○		
851			ブタクサハムシ			○	
852			ムネアカキバネサルハムシ			○	
853			マルキバネサルハムシ		○		
854			アトボシハムシ		○		
855			フタホシオオノミハムシ	○			
856			ナスナガスネトビハムシ			○	
857			サンゴジュハムシ		○		
858			ニレハムシ		○	○	
859			アカタデハムシ	○	○		
860			キボシルリハムシ		○		
861			キイロナガツツハムシ	○	○		
862			ムネアカタマノミハムシ		○		
863			キイロタマノミハムシ				○
864			ガマズミトビハムシ	○			
865		ヒゲナガゾウムシ科	タマカイガラヒゲナガゾウムシ				○
866			エグリバネヒゲナガゾウムシ		○		
867			マダラヒゲナガゾウムシ		○		
868			シロヒゲナガゾウムシ		○		
869		ホソクチゾウムシ科	マメホソクチゾウムシ	○			
870			ケブカホソクチゾウムシ		○		
871		オトシブミ科	ヒメクロオトシブミ	○	○		
872			ヌルデケシツブチョッキリ	○			
873			エゴツルクビオトシブミ		○		
874			ルリイキビチョッキリ	○			
875			カシルリオトシブミ	○	○	○	
876			ゴマダラオトシブミ		○		
877			アシナガオトシブミ	○			
878			カシルリチョッキリ	○			
879		ゾウムシ科	ケブカヒメカタゾウムシ	○			
880			ツヤツチゾウムシ	○			
881			クロシギゾウムシ	○	○		
882			タバゲササラゾウムシ		○		
883			ヒメシロコブゾウムシ	○			
884			マダラアシゾウムシ	○			
885			シロコブゾウムシ		○		
886			コフキゾウムシ	○	○	○	
887			クロトゲサルゾウムシ	○			
888			カナムグラトゲサルゾウムシ		○	○	
889			ハコベタコゾウムシ	○			
890			ツメクサタコゾウムシ	○			
891			アルファルファタコゾウムシ	○			
892			ヤサイゾウムシ				○
893			ハスジカツオゾウムシ		○		
894			カツオゾウムシ	○	○		
895			トゲハラヒラセクモゾウムシ	○			
896			クワヒメゾウムシ		○		
897			チビヒョウタンゾウムシ	○			

表 5. 2-51(19) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
898	コウチュウ目 (鞘翅目)	ゾウムシ科	カシワクチブトゾウムシ	○	○		
899			オジロアシナガゾウムシ	○	○		○
900			カントウヒゲボソゾウムシ	○			
901			クスアナアキゾウムシ	○			
902			カグヤヒメキクイゾウムシ		○		
903			ヒレルクチブトゾウムシ			○	○
904			アカアシクチブトサルゾウムシ		○		
905			サビヒョウタンゾウムシ	○	○		○
906			チビコフキゾウムシ	○			
907			マツクチブトキクイゾウムシ	○			
908			ホソゲチビツチゾウムシ	○			
909		オサゾウムシ科	スギキクイサビゾウムシ		○		
910		イネゾウムシ科	イネミズゾウムシ		○		
911		ナガキクイムシ科	カシノナガキクイムシ		○	○	○
912		キクイムシ科	ミカドキクイムシ	○			
913			ツヅミキクイムシ				○
914			クスノオオキクイムシ			○	
915			トドマツオオキクイムシ	○			
-			キクイムシ科の一種	○		○	
916	ハチ目 (膜翅目)	ミフシハバチ科	アカスジチュウレンジ	○			
917			ルリチュウレンジ	○	○		
918		ハバチ科	ハグロハバチ	○	○	○	○
919			セグロカブラハバチ	○	○	○	
920			ニホンカブラハバチ	○			
921			イヌノフグリハバチ	○			
922			カブラハバチ				○
923			サクラヒメハバチ	○			
924			ヒラアシハバチ		○		
925			オオクロハバチ	○			
926			シオンキモンハバチ	○			
927			セリシマキモンハバチ	○			
928			Profenusa japonica	○			
929			キコシホソハバチ	○			
930		ヤドリキバチ科	トサヤドリキバチ			○	
931		コマユバチ科	パーキンスコウラコマユバチ		○		○
932		ヒメバチ科	エゾオナガバチ		○		
933			キオビコシブトヒメバチ			○	○
934			マツケムシヒラタヒメバチ	○			
935			ミノオキイロヒラタヒメバチ			○	
936		コンボウヤセバチ科	オオコンボウヤセバチ		○		
937		ハラビロクロバチ科	クサビタマゴクロバチ				○
938		アシブトコバチ科	キアシブトコバチ		○		
939			モンキアシブトコバチ		○		
940		アリガタバチ科	ムカシアリガタバチ	○	○		
941		アリ科	アシナガアリ	○	○	○	○
942			オオハリアリ	○	○	○	○
943			ナカスジハリアリ	○	○	○	○
944			イトウオオアリ		○		
945			クロオオアリ	○	○	○	○
946			ミカドオオアリ			○	○

表 5. 2-51 (20) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏季	夏季	秋季
947	ハチ目（膜翅目）	アリ科	ヨツボシオオアリ	○	○	○	○
948			ウメマツオオアリ	○	○	○	○
949			ハリブトシリアゲアリ	○	○	○	○
950			キイロシリアゲアリ	○	○	○	○
951			テラニシシリアゲアリ	○	○		
952			シベリアカタアリ	○			
953			クロヤマアリ	○	○	○	○
954			キイロケアリ	○			○
955			トビイロケアリ	○	○	○	○
956			カワラケアリ		○		
957			ヒラアシクサアリ	○	○	○	○
958			ヒメアリ	○	○	○	○
959			キイロヒメアリ	○		○	○
960			アメイロアリ	○	○	○	○
961			アギトアリ			○	○
962			サクラアリ	○	○		○
963			アズマオオズアリ	○		○	○
964			アミメアリ	○	○	○	○
965			ムネボソアリ	○	○	○	○
966			トビイロシワアリ	○	○	○	○
967		スズメバチ科	オオフタオビドロバチ本土亜種			○	
968			フタスジスズバチ			○	
969			ミカドトックリバチ		○	○	○
970			ムモントックリバチ			○	
971			ミカドドロバチ本土亜種		○		
972			エントツドロバチ		○		
973			スズバチ		○	○	
974			ムモンホソアシナガバチ			○	
975			ヤマトアシナガバチ		○	○	○
976			セグロアシナガバチ本土亜種	○	○	○	
977			キボシアシナガバチ		○	○	○
978			キアシナガバチ本土亜種		○	○	
979			コアシナガバチ			○	
980			カタグロチビドロバチ			○	
981			コガタスズメバチ	○	○	○	○
982			モンズズメバチ			○	○
983			ヒメズズメバチ		○	○	
984			チャイロスズメバチ			○	○
985			オオズズメバチ	○	○	○	○
986			キイロスズメバチ	○	○	○	○
987			クロスズメバチ		○	○	
988		クモバチ科	オオモンクロクモバチ			○	
989			ベッコウクモバチ		○	○	
990			Dipogon 属の一種		○	○	
991			Priocnemis 属の一種	○	○		○
992		アリバチ科	ムネアカアリバチ			○	
993			フタホシアリバチ			○	○
994			ルイスヒトホシアリバチ	○		○	
995			ヤマトアリバチモドキ		○	○	
996		ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ本土亜種	○	○	○	○

表 5. 2-51 (21) 現地調査により確認された昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
997	ハチ目（膜翅目）	ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ		○		○
998			キオビツチバチ		○	○	
999		ギングチバチ科	シロスジギングチ		○	○	
1000			ヒメコオロギバチ本土亜種			○	
1001			ナミコオロギバチ本土琉球亜種	○			○
1002			ヤマトジガバチモドキ		○		
1003			オオジガバチモドキ		○		
1004		ドロバチモドキ科	ヤマトドロバチモドキ			○	
1005		フシダカバチ科	ナミツチスガリ		○		
1006		アナバチ科	ヤマトルリジガバチ		○		
1007			ミカドジガバチ		○	○	
1008			コクロアナバチ		○		
1009			アメリカジガバチ			○	
1010			クロアナバチ本土亜種			○	○
1011		ヒメハナバチ科	アブラナヒメハナバチ	○	○		
1012		ミツバチ科	スジボソフトハナバチ			○	
1013			ニホンミツバチ	○	○		○
1014			セイヨウミツバチ	○	○	○	
1015			コマルハナバチ本土亜種	○	○		
1016			トラマルハナバチ本土亜種			○	
1017			キオビツヤハナバチ		○		
1018			シロモンムカシハナバチヤドリ		○		
1019			ニッポンヒゲナガハナバチ	○			
1020			シロスジヒゲナガハナバチ	○			
1021			エサキキマダラハナバチ	○			
1022			ハリマキマダラハナバチ	○			
1023			ダイミョウキマダラハナバチ	○			
1024			ナミルリモンハナバチ			○	
1025			キムネクマバチ	○	○		
1026		ムカシハナバチ科	アシブトムカシハナバチ				○
1027			スミスメンハナバチ				○
1028			ニッポンメンハナバチ			○	
1029		コハナバチ科	アカガネコハナバチ		○	○	○
1030			ニセキオビコハナバチ	○		○	
1031			ニッポンカタコハナバチ	○	○		○
1032			シロスジカタコハナバチ		○	○	
1033			ミズホヤドリコハナバチ		○	○	
1034		ハキリバチ科	ヤノトガリハナバチ			○	
1035			バラハキリバチ本土亜種	○		○	
1036			オオハキリバチ			○	
1037			ツツハナバチ	○			
計	22 目	225 科	1,037 種	440 種	570 種	426 種	367 種

注 1) 種名及び配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2) 表中の「-」は、他種と同種である可能性があるため、種数としてカウントしないことを示す。

キ 陸産貝類、クモ類

(a) 陸産貝類

現地調査により確認された陸産貝類は表 5. 2-52 (1) ～(2) に示すとおりである。

現地調査の結果、3 目 14 科 49 種の陸産貝類が確認された。落葉広葉樹林の落葉層や朽木周辺では、ミジンナタネ、ヒメベッコウ、コシタカシタラ、カサキビ等といった微小種やオオケマイマイなどの中型種が主に確認され、常緑広葉樹林のやや薄い落葉や落枝混じりのリター層では、ムシオイ、ゴマガイ、アズキガイ、ヒメハリマキビ等といったやや湿った環境を好む微小種が多く見られた。そのほか、コンクリート壁面や人家の塀等ではキセルモドキ、ナミギセル、チャコウラナメクジ、ミスジマイマイ、ヒダリマキマイマイ等が、倒木や朽木周辺にはハコネギセル、ヒカリギセル、ヤマナメクジといった中型から大型種の陸産貝類が見られた。

表 5. 2-52 (1) 現地調査により確認された陸産貝類

No.	目名	科名	種名	確認時期		
				春季	夏季	秋季
1	ヤマタニシ目	ヤマタニシ科	ムシオイ	○	○	○
2			サドヤマトガイ		○	
3			ミジンヤマタニシ	○	○	
4		ゴマガイ科	ゴマガイ	○	○	○
5		アズキガイ科	アズキガイ	○	○	○
6	オカミミガイ目	オカミミガイ科	ニホンケシガイ		○	
7	マイマイ目	アフリカマイマイ科	オカチョウジガイ	○	○	○
8			ホソオカチョウジガイ		○	○
9			サツマオカチョウジガイ	○	○	○
10			トクサオカチョウジガイ	○	○	○
11		タワラガイ科	タワラガイ	○	○	○
12		ナタネガイ科	ミジンナタネ	○	○	○
13			ハリマナタネ	○	○	○
14			ナタネガイ類似種	○	○	○
15		キセルモドキ科	キセルモドキ	○	○	○
16		キセルガイ科	ハコネギセル	○	○	○
17			チュウゼンジギセル	○	○	○
18			スルガギセル	○	○	○
19			ヒクギセル			○
20			ナミギセル	○	○	○
21			ナミコギセル	○		
22			ヒカリギセル	○	○	○
23		コウラナメクジ科	チャコウラナメクジ	○		○
24		シタラ科	タカキビ	○	○	○
25			ヒメベッコウ	○	○	○
26			マギレヒメベッコウ			○
27			キビガイ	○	○	○
28			レンズガイ	○	○	○
29			ハリマキビ	○		
30			ヒゼンキビ	○	○	○

表 5. 2-52 (2) 現地調査により確認された陸産貝類

No.	目名	科名	種名	確認時期		
				春季	夏季	秋季
31	マイマイ目	シタラ科	ヒメハリマキビ	○	○	○
32			ウスイロシタラ	○		
33			マルシタラ	○	○	○
34			コシタカシタラ	○	○	○
35			ウメムラシタラ	○	○	○
36			カサキビ	○	○	○
37			オオウエキビ	○	○	○
38			ヒメカサキビ	○	○	
39		ベッコウマイマイ科	ウラジロベッコウ	○	○	○
40		ナメクジ科	ナメクジ		○	
41			ヤマナメクジ	○	○	○
42		ナンバンマイマイ科	ウスカワマイマイ	○		○
43			エンスイマイマイ		○	
44			オオケマイマイ	○	○	○
45			オナジマイマイ	○	○	○
46			ミスジマイマイ	○	○	○
47			ヒダリマキマイマイ	○	○	○
48			キヌビロウドマイマイ	○	○	○
49			ニッポンマイマイ	○	○	○
計	3 目	14 科	49 種	42 種	42 種	40 種

注) 種名及び配列は分類・配列は福田 (2021) に準拠し、和名・学名は亀田 (2018) や MolluscaBase 等を参考にした。

- ・福田宏 (2021) Biology and Evolution of the Mollusca で提唱された軟体動物の分類体系と和名の対応. Molluscan Diversity 6(2): 89-180.
- ・亀田勇一 (2018). 陸・淡水産腹足類日本固有種目録(2018 年 3 月版). https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot_japan/endemic_list/
- ・MolluscaBase <https://www.molluscabase.org/>

(b) クモ類

現地調査により確認されたクモ類は表 5. 2-53(1)～(3)に示すとおりである。

現地調査の結果、23 科 83 種のクモ類が確認された。

表 5. 2-53(1) 現地調査により確認されたクモ類

No.	科名	種名	確認時期		
			春季	夏季	秋季
1	ジグモ科	ジグモ	○		
2	カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ	○	○	○
3	トタテグモ科	キノボリトタテグモ	○	○	○
4		キシノウエトタテグモ	○	○	
5	ウズグモ科	マネキグモ			○
6		ヤマウズグモ	○	○	
7	ヒメグモ科	シロカネイソウロウグモ			○
8		オナガグモ			○
9		シモフリミジングモ	○		
10		カグヤヒメグモ		○	
11		オオヒメグモ	○	○	○
12		シモフリヒメグモ		○	
13	サラグモ科	ザラアカムネグモ			○
14		ニセアカムネグモ	○	○	
15		チビアカサラグモ	○		
16		シロブチサラグモ	○		
17		ユノハマサラグモ	○		
18		Ummeliata 属の一種		○	
19	アシナガグモ科	オオシロカネグモ	○	○	○
20		ジョロウグモ		○	○
21		トガリアシナガグモ		○	○
22		アシナガグモ		○	○
23	コガネグモ科	オニグモ		○	
24		ハラビロミドリオニグモ	○		
25		コガネグモ		○	
26		ナガコガネグモ		○	○
27		コガタコガネグモ	○	○	○
28		ギンメッキゴミグモ	○	○	○
29		ヤマゴミグモ			○
30		ゴミグモ	○	○	

表 5. 2-53 (2) 現地調査により確認されたクモ類

No.	科名	種名	確認時期		
			春季	夏季	秋季
31	コガネグモ科	シロオビトリノフンダマン		○	
32		スズミグモ		○	
33		サガオニグモ	○		○
34		カラフトオニグモ	○	○	
35		トガリオニグモ		○	
36		ワキグロサツマノミダマン	○	○	
37		コゲチャオニグモ		○	
38		ヤマシロオニグモ	○	○	
39		サツマノミダマン		○	
40		ウツキコモリグモ	○	○	
41		ハリゲコモリグモ	○	○	○
42		キクヅキコモリグモ			○
43		イモコモリグモ	○	○	○
44		ヒノマルコモリグモ	○	○	○
45		アライトコモリグモ	○		
46	キンダグモ科	イオウイロハシリグモ	○	○	○
47	ササグモ科	ササグモ	○	○	○
48	シボグモ科	シボグモ		○	○
49	タナグモ科	コクサグモ		○	○
50	ガケジグモ科	メガネヤチグモ	○		
51	ウエムラグモ科	イタチグモ	○	○	○
52	フクログモ科	カバキコマチグモ		○	
53		Clubiona 属の一種		○	○
54	ネコグモ科	オビジガバチグモ			○
55	ハウシグモ科	ドウシグモ	○	○	
56	ワシグモ科	クロチャケムリグモ	○	○	
57	アシダカグモ科	コアシダカグモ			○
58	エビグモ科	ヤマトヤドカリグモ			○
59	カニグモ科	コハナグモ	○	○	
60		ハナグモ	○	○	○
61		ワカバグモ		○	
62		アズチグモ		○	
63		ヤミイロカニグモ	○	○	○
64	ハエトリグモ科	ネコハエトリ	○	○	○
65		マミジロハエトリ	○	○	○
66		ウデブトハエトリ	○	○	
67		Helicius 属の一種		○	
68		Heliophanus 属の一種			○
69		オスクロハエトリ		○	○
70		ヤハズハエトリ		○	○

表 5. 2-53 (3) 現地調査により確認されたクモ類

No.	科名	種名	確認時期		
			春季	夏季	秋季
71	ハエトリグモ科	シラヒゲハエトリ		○	
72		ヤガタアリグモ	○	○	○
73		ヤサアリグモ		○	
74		アリグモ	○	○	○
75		メガネアサヒハエトリ		○	
76		メスジロハエトリ		○	
77		デーニッツハエトリ			○
78		チャスジハエトリ		○	○
79		ミスジハエトリ			○
80		カラスハエトリ		○	
81		キレワハエトリ			○
82		アオオビハエトリ	○	○	○
83		シラホシコゲチャハエトリ			○
計	23 科	83 種	40 種	60 種	44 種

注) 配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト (令和 6 年度版)」(河川環境データベース HP) に従った。

⑥ 調査結果（聞き取り調査）

聞き取り調査より確認された動物は表 5.2-54 に示すとおりである。

聞き取り調査の結果、葉山町上山口寺前谷戸周辺（鉄塔 No. 32 及び No. 33 周辺）では、鳥類が 13 種、爬虫類が 2 種、両生類が 3 種、昆虫類が 12 種の計 30 種の動物を聴取した。

表 5.2-54 聞き取り調査により確認された動物

No.	項目	目名	科名	種名
1	鳥類	ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ
2		タカ目	タカ科	ハイタカ
3				オオタカ
4				ノスリ
5		フクロウ目	フクロウ科	フクロウ
6				アオバズク
7		スズメ目	カササギヒタキ科	サンコウチョウ
8			モズ科	モズ
9			ウグイス科	ウグイス
10				ヤブサメ
11			ヒタキ科	キビタキ
12			ホオジロ科	アオジ
13				クロジ
14	爬虫類	有鱗目	トカゲ科	ヒガシニホントカゲ
15			カナヘビ科	ニホンカナヘビ
16	両生類	有尾目	サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ
17			イモリ科	アカハライモリ
18		無尾目	アカガエル科	ヤマアカガエル
19	昆虫類	トンボ目（蜻蛉目）	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ
20			イトトンボ科	ホソミイトトンボ
21			ヤンマ科	マルタンヤンマ
22				ヤブヤンマ
23				サラサヤンマ
24			サナエトンボ科	コオニヤンマ
25				ウチワヤンマ
26			オニヤンマ科	オニヤンマ
27			エゾトンボ科	タカネトンボ
28		カメムシ目（半翅目）	コオイムシ科	コオイムシ
29		コウチュウ目（鞘翅目）	ホタル科	ゲンジボタル
30				ヘイケボタル
計	4 項目	10 目	21 科	30 種

注) 配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

(2) 重要な種、個体群及びその生息地

① 調査事項

重要な動物の生息箇所、個体数、密度、分布、繁殖行動、食性、他種との関係等

② 調査方法

動物相の調査結果を整理及び解析するとともに、現地調査に置いて確認地点、個体数、生息密度、生息状況、生息環境との関わり等を明らかにした。

③ 調査結果

重要な動物の選定は表 5.2-55 に示す基準により行い、各項目における重要種の確認状況を以下に整理した。

表 5.2-55 重要種の選定基準（動物）

	法令・文献・資料名	区 分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）、「神奈川県文化財保護条例」（昭和 30 年条例第 13 号）、「横須賀市文化財保護条例」（昭和 39 年条例第 41 号）、「葉山町文化財保護条例」（昭和 42 年条例第 7 号）、「逗子市文化財保護条例」（昭和 43 年条例第 11 号）	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：神奈川県指定天然記念物 横天：横須賀市指定天然記念物 葉天：葉山町指定天然記念物 逗天：逗子市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年 3 月）	EX：絶滅。我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。 CR：絶滅危惧 IA 類。ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN：絶滅危惧 IB 類。IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU：絶滅危惧 II 類。絶滅の危険が増大している種。 NT：準絶滅危惧。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。 DD：情報不足。評価するだけの情報が不足している種。 LP：地域個体群。地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。
④	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年）	EX：県内では、すでに絶滅したと考えられる種。 CR+EN：絶滅危惧 I 類。県内において、絶滅の危機に瀕している種 CR：絶滅危惧 IA 類。県内において、ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高いもの。 EN：絶滅危惧 IB 類。県内において、IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 VU：絶滅危惧 II 類。県内において、絶滅の危険が増大している種。 NT：準絶滅危惧。県内において、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。 DD：情報不足。県内において、評価するだけの情報が不足している種。 減少：減少種。かつては県内に広く分布していたと考えられる種のうち、生息地あるいは生息個体数が著しく減少している種。 希少：希少種。生息域が狭域であるなど生息環境が脆弱なもののうち、現在は個体数をとくに減少させていないが、生息地の環境悪化によっては絶滅が危惧される種。 要注意：要注意種。前回、減少種又は希少種と判定され、かつては広く分布していたのに、生息地又は生息個体数が明らかに減少傾向にある種。 注目：注目種。生息環境が特殊なもののうち、県内における衰退は目立たないが、環境悪化が生じた際には絶滅が危惧される種。 不明種：過去に不確実な記録だけが残されている種。

ア 哺乳類

現地調査により確認された重要な哺乳類は表 5.2-56 に、確認状況は表 5.2-57 に、確認位置は図 5.2-15 に示すとおりである。

現地調査の結果、1 目 1 科 1 種の重要種が確認された。

表 5.2-56 現地調査により確認された重要な哺乳類

No.	目名	科名	種名	確認時期								選定基準			
				冬季		春季		夏季		秋季					
				内	外	内	外	内	外	内	外	①	②	③	④
1	ネコ目（食肉目）	イタチ科	ニホンイタチ				○				○				NT
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	-	-	-	1 種
				0 種		1 種		0 種		1 種					

注 1) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2) 表中の記号は、以下の地域での確認を示す。

内：実施区域内 外：実施区域外

表 5.2-57 重要な哺乳類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	ニホンイタチ 【現地写真なし】	<p>【生態など】</p> <p>県内では平野部から山麓まで県内全域に広く分布するが、密度は低いと考えられる。水辺環境を好み、水田・河川敷などを主な生息地とする。ネズミ・鳥・カエルなどを食べるほか、水中にもぐつての捕食も行う。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体</p>

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-15 哺乳類の重要種
確認位置

イ 鳥類

現地調査により確認された重要な鳥類は表 5.2-58 に、確認状況は表 5.2-59(1)～(7)に、
確認位置は図 5.2-16(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査の結果、8 目 20 科 27 種の重要種が確認された。

表 5.2-58 現地調査により確認された重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	確認時期								聞き取り	選定基準					
				冬季		春季		繁殖期		秋季			①	②	③	④		
				内	外	内	外	内	外	内	外					非繁殖	繁殖	
1	ハト目	ハト科	アオバト				○				○					注目	注目	
2	ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ			○	○		○		○	○			VU		CR+EN	
3	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ				○										VU	
4	チドリ目	チドリ科	コチドリ						○								注目	
5		シギ科	タシギ		○											注目		
6			イソシギ		○										注目	希少		
7	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ		○				○		○				NT	NT	VU	
8		タカ科	ツミ		○						○					希少	VU	
9			ハイタカ		○							○			NT	希少	DD	
10			オオタカ								○	○			NT	希少	VU	
11			サシバ				○		○		○				VU		CR+EN	
12			ノスリ		○		○				○	○				希少	VU	
13	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ		○		○		○			○					NT	
14			アオバズク				○					○					VU	
15	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ		○						○			国内	VU	希少	CR+EN	
16	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ				○								VU		VU	
17		カササギヒタキ科	サンコウチョウ				○		○			○					VU	
18		モズ科	モズ				○		○			○					減少	
19		ツバメ科	ツバメ			○	○	○	○								減少	
20		ウグイス科	ヤブサメ				○		○			○					NT	
21		ムシクイ科	センダイムシクイ				○		○								NT	
22		セッカ科	セッカ						○							減少	減少	
23		ヒタキ科	キビタキ				○		○			○					減少	
24			オオルリ				○		○								NT	
25		セキレイ科	キセキレイ				○		○								減少	
26		アトリ科	カワラヒワ				○		○								減少	
27		ホオジロ科	クロジ		○		○					○					減少	CR+EN
計	8 目	20 科	27 種	0 種	9 種	2 種	18 種	1 種	15 種	0 種	8 種	11 種	-	1 種	7 種	11 種	26 種	
				9 種			18 種		15 種		8 種							

注 1) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2) 表中の記号は、以下の地域での確認を示す。

内：実施区域内 外：実施区域外

注 3) 選定基準の④については、確認時期のうち、各種の生態等を考慮した上で非繁殖期、繁殖期の時期に該当するもののみ、重要種として扱った。

表 5. 2-59 (1) 重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	アオバト 【現地写真なし】	<p>【生態など】</p> <p>県内の丘陵地から山地の森林に夏鳥として渡来するが、一部は越冬する。丹沢山地と箱根山地で多くみられる。おもに樹林で樹木の芽や実などを採餌する。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体、春季 3 箇所 3 個体</p>
2	ミゾゴイ 	<p>【生態など】</p> <p>夏鳥として渡来するが、繁殖の確実な記録はまれで、鎌倉市の例のほか、近年三浦半島で記録された。春の渡りの季節の記録がほとんどである。丘陵地から低山地の良く茂った広葉樹林に渡来し、4 月～7 月に高木の枝上に営巣し、3 卵を産む。沢沿いで採餌し、サワガニ・カエル類などを好んで捕える。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 春季 3 箇所 3 個体</p> <p>○実施区域外 春季 8 箇所 8 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、 秋季 2 箇所 2 個体、巣 1 箇所</p>
3	カッコウ 【現地写真なし】	<p>【生態など】</p> <p>夏鳥として、丘陵地の低山のひらけた林や高原、ゴルフ場などに渡来する。4 月下旬から 9 月下旬まで観察されるが、5 月から 7 月に最もよくみられる。托卵性で、ホオジロやモズ、オオヨシキリ、オナガなどに托卵する。おもに昆虫をエサとし、チョウ類の幼虫を好んで食べるという報告がある。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体</p>
4	コチドリ 	<p>【生態など】</p> <p>県内では全域の平地に夏鳥として渡来するが、関東地方以西では少数は冬期もみられる。河川中流から下流にかけての河川敷に生息する。特に植物のまばらな砂礫地に好んで営巣するが、造成直後の裸地や駐車場などを代替環境として利用することもある。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 繁殖期 2 箇所 3 個体</p>

表 5. 2-59 (2) 重要な鳥類の確認状況


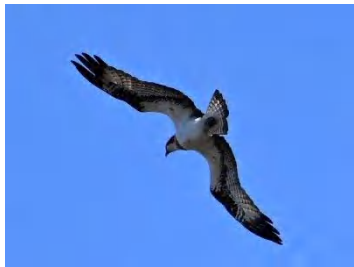

No.	種名	生態・確認状況
5	タシギ 【現地写真なし】	<p>【生態など】 県内では冬鳥または旅鳥として渡来する。大小河川、遊水池、休耕田、冬季の水田、用水路等で休息、越冬する。身を潜める草などがある水辺環境を好み、越冬個体は常時、水が枯れない湿地環境を探して生息している。夜活動することが多く、昼間は物陰でじっとしている。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体</p>
6	イソシギ 	<p>【生態など】 県内では留鳥として生息し、県北部と山間部を除く全域の大小河川でみられる。河川や湖沼の草地に営巣し、4 月から 3 ～4 卵を雌雄交代で約 23 日間抱卵する。ヒナは、半日から 2 日くらいの間に巣を離れ、約 1 ヶ月で独立する。酒匂川中流域では、比較的繁殖記録は多いが、全体としては少ない。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体</p>
7	ミサゴ 	<p>【生態など】 県内ではおもに冬鳥として渡来し、相模川などの大きな河川や丹沢湖などの湖沼に生息する。空中高くからダイビングして魚を捕える。繁殖期には、断崖の岩棚や大木の上に枯れ枝などを組み合わせて巣を作り、普通 2～3 卵を産む。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 2 箇所 2 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、 秋季 4 箇所 4 個体</p>
8	ツミ 	<p>【生態など】 一年を通して各地で観察される。夏鳥または留鳥として生息し、小鳥類を捕える。山地の樹林にも生息する一方で、都市公園・人家の庭などの小規模の都市緑地でも繁殖する。クロマツなどの高木に営巣し、普通 3～5 卵を産む。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体</p>

表 5. 2-59 (3) 重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
9	<p>ハイタカ</p> 	<p>【生態など】 県内ではおもに冬鳥として渡来し、丘陵地から農耕地にかけて観察される。山地から丘陵地の森林に生息し、林内を飛翔しておもに小鳥類を捕える。高木に営巣し、普通 4～5 卵を産む。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体</p>
10	<p>オオタカ</p> 	<p>【生態など】 丘陵地から山麓に留鳥として生息する。丘陵地や大規模な公園などの樹林で営巣しているが、近年では市街地の中に孤立した緑地で営巣するような例も現れている。おもに中・小型の鳥類を捕える。スギ・マツ類などの針葉樹の高木に営巣することが多く、普通 3～4 卵を産む。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体</p>
11	<p>サシバ</p> 	<p>【生態など】 県内では県西部の丘陵地などわずかな地域で繁殖しているのみである。4 月頃夏鳥として渡来し、丘陵地や低山地に生息する。秋の渡りの季節には、横須賀市武山、南足柄市足柄峠などで多数の個体が西に渡るのが観察される。特に谷戸地形を好み、ある程度以上の面積を持つ水田と樹林地がセットで存在することが生息のための条件となっている。水辺でカエルやヘビをよく捕える。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体、 秋季 1 箇所 1 個体</p>
12	<p>ノスリ</p> 	<p>【生態など】 県内では繁殖期におもに丹沢山麓から大磯丘陵にかけて局所的に生息している。非繁殖期には県内全域の丘陵地から平地でみられる。繁殖期には、森林で営巣するが、採餌には伐採地や牧場、畑のような開けた環境をよく利用する。非繁殖期には、河川、農耕地のような草原的環境にも生息する。上空を帆翔しながら獲物を探し、モグラ・ネズミなどの小型哺乳類を多く捕食することが知られている。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 10 箇所 11 個体、春季 2 箇所 2 個体、 秋季 4 箇所 6 個体</p>

表 5. 2-59 (4) 重要な鳥類の確認状況



No.	種名	生態・確認状況
13	フクロウ 【現地写真なし】	<p>【生態など】</p> <p>留鳥として平地から低山の大木のある林に生息する。各地の洞のある大木などで営巣、繁殖しているが多くはない。夜行性で日中は薄暗い林や社寺林などで休んでいる。夕方から活動をはじめ、樹林に接した農耕地など開けた場所でネズミ類や鳥類、爬虫類、両生類などを捕食する。おもに大木の樹洞に営巣するが、土の壁の横穴や人家の屋根裏、巣箱や人工構造物などもよく利用する。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体、春季 9 箇所 10 個体、 繁殖期 1 箇所 1 個体</p>
14	アオバズク 	<p>【生態など】</p> <p>夏鳥として平地から山地の森林や社寺林、公園などに渡来する。4 月上旬から 10 月中旬に記録されている。夏鳥として平地から低山にかけての大きい樹林のある林、社寺林、公園、庭園などに渡来し、おもに樹洞を利用して繁殖する。夜行性で、おもにセミ類や甲虫類、鱗翅類などの昆虫類をエサとするが、カエルや小鳥類なども捕えることがある。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 春季 3 箇所 3 個体</p>
15	ハヤブサ 	<p>【生態など】</p> <p>おもに冬鳥として渡来し、沿岸部や大きな河川の周辺で観察されるが、内陸部に渡来することもある。留鳥または冬鳥として、断崖のある海岸に生息する。高速で飛行し、ハト類などの鳥類を飛びながらとらえる。断崖に営巣し、普通 3~4 卵を産む。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 冬季 1 箇所 1 個体、秋季 2 箇所 2 個体</p>
16	サンショウクイ 【現地写真なし】	<p>【生態など】</p> <p>県内では県北部・県西部・県中部の丘陵地に夏鳥として渡来する。明るい落葉広葉樹林を好む。樹冠近くの枝にとまり、飛翔昆虫やクモなどを見つけると飛びついて捕えるほか、ホバリングしながらの捕食も行う。繁殖期間は 5 月~7 月。樹林内の高木層に碗型の巣を作るが、繁殖の確認例は少ない。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 春季 2 箇所 2 個体</p>

表 5. 2-59 (5) 重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
17	サンコウチョウ 	<p>【生態など】 夏鳥として山地から丘陵地の暗い常緑広葉樹林やスギ・ヒノキ林に渡来する。樹上生活がおもで飛翔中に昆虫類を採食する。繁殖は沢沿いの林で確認されており、スギやヒノキ、落葉広葉樹などの樹上に、お椀型の巣を作る。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 4 個体、繁殖期 4 箇所 5 個体</p>
18	モズ 	<p>【生態など】 留鳥としてほぼ全域でみられるが、山間部での観察が比較的少ない。低地の林、河原、農耕地、公園などで単独で生活する。昆虫類をはじめとした無脊椎動物や小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類などを食べ、はやにえを作る習性がある。繁殖は2月から9月上旬まで確認されているが、3月から5月に多い。おもにオスが他の鳥の鳴きまねをすることが知られている。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 2 箇所 5 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体</p>
19	ツバメ 	<p>【生態など】 県内全域の集落、都市に夏鳥として渡来する。繁殖は人間の居住空間と密接に結びつき、人間が出入りする建物の軒下に、泥や草を唾液で固めた椀型の巣を作る。高層の建物であっても、巣の位置は人間の行動圏に接した低い場所に限られる。繁殖期の後半から河川のヨシ群落などに集団ねぐらを作り、数千～数万羽の集結がみられる。飛びながら飛翔昆虫を捕える。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 1 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体 ○実施区域外 春季 6 箇所 15 個体、繁殖期 4 箇所 13 個体</p>
20	ヤブサメ 【現地写真なし】	<p>【生態など】 夏鳥として山地から丘陵地の下生えの茂った暗い林内に生息する。林床の湿ったところに多くみられる。灌木林や落葉広葉樹林の地上に営巣し、巣は草や樹木の根元などにあることが多い。藪に潜むことが多く、姿を見ることは難しい。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 11 箇所 14 個体、繁殖期 4 箇所 4 個体</p>

表 5. 2-59 (6) 重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
21	センダイムシクイ 	<p>【生態など】 夏鳥として丘陵地から山地にかけての林へ渡来する。縄張りの中を動き回り、昆虫類やクモ類を捕食する。渡りの季節には、都市公園や街路樹などでもみられる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 2 箇所 2 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体</p>
22	セッカ 	<p>【生態など】 留鳥として河原や水田周辺の草原に生息する。電線にとまったり、草の間をくぐったり、地上を歩きながらエサを採る。草の茎や葉の間に巣を作る。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 繁殖期 2 箇所 4 個体</p>
23	キビタキ 	<p>【生態など】 夏鳥として、山地から丘陵地のよく茂った落葉広葉樹林に渡来する。枝から枝に渡り採食することが多い。繁殖は、落葉広葉樹、針広混交林で行われる。巣は茂みの中や枝のまた、樹洞を利用して作る。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 11 箇所 11 個体、繁殖期 4 箇所 4 個体</p>
24	オオルリ 	<p>【生態など】 夏鳥として、山地から丘陵地の沢沿いの林に渡来する。オスは、巣の近くの見通しのよい枝先や梢で囀ることが多い。枝先から飛んで昆虫を捕える。繁殖は崖地や溪流近くの落葉広葉樹林で行い、岩または土の崖地に巣を作る。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 3 個体、繁殖期 2 箇所 2 個体</p>

表 5. 2-59 (7) 重要な鳥類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
25	キセキレイ 	<p>【生態など】 留鳥または漂鳥として平地から低山の水路や河川、水田、農耕地に生息する。常に尾を上下に振りながら、おもに水辺を歩き、水生昆虫等を捕食する。また、水辺の石や流木にとまり、飛ぶ虫に向かってフライングキャッチをしたりもする。4月～7月に繁殖記録があり、人家の屋根や橋桁、樹木などにお椀型の巣を作る。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 5 箇所 5 個体、繁殖期 1 箇所 1 個体</p>
26	カワラヒワ 	<p>【生態など】 留鳥としてほぼ全域でみられる。繁殖記録は平野部に多く山間部にはほとんどみられない。市街、村落、道路付近などの林や独立樹などに営巣する。巣は 3～7m の高さの枝上にある。秋冬には、河原や農耕地に群を作る。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 13 箇所 26 個体、繁殖期 6 箇所 15 個体</p>
27	クロジ 	<p>【生態など】 県内ではおもに冬鳥として渡来する。丹沢山地で繁殖が確認されているが、個体数は少なく局所的である。巣はハンノキやヤナギなどの灌木から地上 1m 以下の高さの枝上にある。非繁殖期には丘陵地や低山の林でみられるほか、都市公園や人家の庭でも記録がある。暗い林床の落ち葉をかき分けて、おもに草や木の実を食べる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 冬季 6 箇所 14 個体、春季 1 箇所 2 個体</p>

(参考文献)

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-16(1) 鳥類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-16 (2) 鳥類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-16(3) 鳥類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-16 (4) 鳥類の重要種
確認位置

ウ 猛禽類

現地調査により確認された猛禽類について、以下に整理した。

なお、猛禽類は令和3年から事前調査を行っており、調査結果は令和4年から令和6年にかけての調査結果を記載した。

(a) オオタカの確認状況

調査地域におけるオオタカの確認状況は表 5.2-60 に、調査地区別のオオタカの確認状況は表 5.2-61～63 に、確認位置は図 5.2-17～19 に示すとおりである。

なお、重要種の保護の観点から、オオタカの確認状況や確認位置は非公開とする。

表 5.2-60 地区別のオオタカの確認状況

地区名				
A 地区				
B 地区	重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。			
C 地区				
D 地区				

表 5.2-61 オオタカの確認状況（A 地区）

調査年	確認状況
令和 4 年	
令和 5 年	<div data-bbox="549 1084 1225 1151"> <p>重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。</p> </div>
令和 6 年	

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-17(1) オオタカの
確認位置 (A 地区：令和 4 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-17(2) オオタカの
確認位置 (A 地区：令和 5 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-17(3) オオタカの
確認位置 (A 地区：令和 6 年)

表 5.2-62 オオタカの確認状況（B 地区）

調査年	確認状況
令和 4 年	
令和 5 年	<div data-bbox="550 1081 1227 1146"> <p>重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。</p> </div>
令和 6 年	

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-18(1) オオタカの
確認位置 (B 地区 : 令和 4 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-18(2) オオタカの
確認位置 (B 地区：令和 5 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-18(3) オオタカの
確認位置 (B 地区 : 令和 6 年)

表 5.2-63 オオタカの確認状況（C 地区、D 地区）

調査年	確認状況
令和 4 年	
令和 5 年	<div data-bbox="560 1093 1238 1160"> <p>重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。</p> </div>
令和 6 年	

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-19(1) オオタカの確認
位置 (C 地区：令和 4 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-19(2) オオタカの
確認位置 (D 地区：令和 5 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-19(3) オオタカの
確認位置 (D 地区：令和 6 年)

(b) オオタカの行動圏解析

表 5. 2-64 に示す解析方法により行動圏の解析を行った。

表 5. 2-64 オオタカの解析方法

	<div>重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。</div>

行動圏解析の結果は、図 5.2-20～22 に示すとおりである。また、対象事業の鉄塔との位置関係について、表 5.2-65 に示した。

なお、重要種の保護の観点から、オオタカの行動圏解析の結果は非公開とする。

表 5.2-65 行動圏解析結果と対象事業の鉄塔との位置関係

調査地区					
A 地区					
B 地区		重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。			
C 地区					
D 地区					

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-20 行動圏解析結果
(A 地区)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-21 行動圏解析結果
(C 地区)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-22 行動圏解析結果
(D 地区)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-23 確認位置と工事用地
の関係（D 地区）

(c) その他の猛禽類

令和4年から令和6年にかけての現地調査の結果、オオタカを除いた猛禽類は7種確認された。

各猛禽類の経年の確認状況は、以下に整理した。

① ミサゴの確認状況

ミサゴの確認状況は表5.2-66に、確認位置は図5.2-24に示すとおりである。

冬季の確認が多く、主に冬鳥として調査地域に渡来しているものと考えられた。令和5年までは全体的に確認回数は少なく、繁殖期は若鳥のみの確認であった。令和6年は確認回数が多くなり、繁殖期にも成鳥の複数個体の飛翔やとまりが確認されたが、繁殖に係る行動は一度も確認されておらず、繁殖を行っている可能性は低いと考えられた。

なお、本種の餌の運搬が確認されているが、いずれも冬季の確認であり、繁殖に係る行動ではないと考えられた。

表 5.2-66 ミサゴの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2月	3月	4月	5月	6月	7月	
令和4年	メス	2						2
	オス	1						1
	若鳥					1		1
	幼鳥							0
	不明	3	1	1				5
合計		6	1	1	0	1	0	9
令和5年	メス		1					1
	オス		1	1				2
	若鳥					1		1
	幼鳥							0
	不明	3	1	1				5
合計		3	3	2	0	1	0	9
令和6年	メス		2	1	1	3		7
	オス	2	3	3	1	3		12
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	3	1	1				5
合計		5	6	5	2	6	0	24

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-24 ミサゴの確認位置
(令和4年～6年)

②ハチクマの確認状況

ハチクマの確認状況は表 5.2-67 に、確認位置は図 5.2-25 に示すとおりである。

いずれの年も確認回数は非常に少なく、春の渡り途中に通過した個体や偶発的に飛来した個体を確認されたものと考えられた。

表 5.2-67 ハチクマの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス					1		1
	オス				1			1
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	0	0	0	1	1	0	0
合計								2
令和 5 年	メス							0
	オス					2		2
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明							0
合計		0	0	0	0	2	0	2
令和 6 年	メス							0
	オス				1	1		2
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明							0
合計		0	0	0	1	1	0	2

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-25 ハチクマの確認位置
(令和4年～6年)

③ツミの確認状況

ツミの確認状況は表 5. 2-68 に、確認位置は図 5. 2-26 に示すとおりである。

確認回数は非常に少なく、主に春の渡り途中に通過した個体や偶発的に飛来した個体が確認されたものと考えられた。

表 5. 2-68 ツミの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス			1				1
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明							0
合計		0	0	1	0	0	0	1
令和 5 年	メス							0
	オス							0
	若鳥				1			1
	幼鳥							0
	不明							0
合計		0	0	0	1	0	0	1
令和 6 年	メス							0
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明							0
合計		0	0	0	0	0	0	0

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-26 ツミの確認位置
(令和 4 年～6 年)

④ハイタカの確認状況

ハイタカの確認状況は表 5.2-69 に、確認位置は図 5.2-27 に示すとおりである。

いずれの年も 2 月から 4 月までの期間のみの確認である。越冬個体や春の渡り途中に通過した個体が確認されたものと考えられた。

表 5.2-69 ハイタカの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス			1				1
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	3						3
合計		3	0	1	0	0	0	4
令和 5 年	メス			1				1
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	3						3
合計		3	0	1	0	0	0	4
令和 6 年	メス	1		1				2
	オス		2					2
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	2	1					3
合計		3	3	1	0	0	0	7

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-27 ハイタカの確認位置
(令和4年～6年)

⑤サシバの確認状況

サシバの確認状況は表 5. 2-70 に、確認位置は図 5. 2-28 に示すとおりである。

4 月から 7 月にかけての期間で確認された。全体的に確認回数は少なく、春の渡り途中に通過した個体や偶発的に飛来した個体、巣立ち後に分散した個体を確認されたものと考えられた。

表 5. 2-70 サシバの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス							0
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明			1				1
合計		0	0	1	0	0	0	1
令和 5 年	メス							0
	オス			1				1
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明				1	4		5
合計		0	0	1	1	4	0	6
令和 6 年	メス							0
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥						1	1
	不明							0
合計		0	0	0	0	0	1	1

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-28 サシバの確認位置
(令和 4 年～6 年)

⑥ノスリの確認状況

ノスリの確認状況は表 5.2-71 に、確認位置は図 5.2-29 に示すとおりである。

いずれの年も 2 月から 4 月の期間で確認された。越冬個体や春の渡り途中に通過した個体、偶発的に飛来した個体を確認されたものと考えられた。

表 5.2-71 ノスリの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス							0
	オス							0
	若鳥	1						1
	幼鳥							0
	不明	8	2	1				11
合計		9	2	1	0	0	0	12
令和 5 年	メス							0
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明	2	1					3
合計		2	1	0	0	0	0	3
令和 6 年	メス		1					1
	オス		1					1
	若鳥	1	2					3
	幼鳥							0
	不明	6	4	1				11
合計		9	8	1	0	0	0	18

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-29 ノスリの確認位置
(令和 4 年～6 年)

⑦ハヤブサの確認状況

ハヤブサの確認状況は表 5. 2-72 に、確認位置は図 5. 2-30 に示すとおりである。

いずれの年も確認回数は少なく、冬季から春季にかけての確認が主であり、越冬個体や偶発的に飛来した個体を確認されたものと考えられた。

表 5. 2-72 ハヤブサの確認状況

調査年	個体	確認時期						合計
		2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	
令和 4 年	メス	2						2
	オス			1				1
	若鳥		1					1
	幼鳥							0
	不明	2			1		1	4
合計		4	1	1	1	0	1	8
令和 5 年	メス							0
	オス							0
	若鳥							0
	幼鳥							0
	不明		1					1
合計		0	1	0	0	0	0	1
令和 6 年	メス							0
	オス							0
	若鳥	2						2
	幼鳥							0
	不明	1			1			2
合計		3	0	0	1	0	0	4

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-30 ハヤブサの確認位置
(令和 4 年～6 年)

エ 爬虫類

現地調査により確認された重要な爬虫類は表 5.2-73 に、確認状況は表 5.2-74(1)～(2)に、確認位置は図 5.2-31(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査及び聞き取り調査の結果、1 目 3 科 6 種の重要種が確認された。

表 5.2-73 現地調査により確認された重要な爬虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期						聞き取り	選定基準			
				春季		夏季		秋季			①	②	③	④
				内	外	内	外	内	外					
1	有鱗目	トカゲ科	ヒガシニホントカゲ		○		○			○				要注意
2		ナミヘビ科	シマヘビ		○		○		○					要注意
3			アオダイショウ		○		○		○					要注意
4			ヒバカリ		○		○		○					NT
5			ヤマカガシ	○			○		○					要注意
6		クサリヘビ科	ニホンマムシ				○		○					要注意
計	1 目	3 科	6 種	1 種	4 種	0 種	6 種	0 種	5 種	1 種	-	-	-	6 種
				5 種		6 種		5 種						

注 1) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。



注 2) 表中の記号は、以下の地域での確認を示す。

内：実施区域内 外：実施区域外

表 5. 2-74(1) 重要な爬虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	ヒガシニホントカゲ 	<p>【生態など】 日当たりの良い石の下や石垣の隙間、土手の斜面の穴などにすみ、ミミズやクモ、昆虫などを捕食する。幼体の尾は鮮やかなコバルトブルーだが、この色は成長と共に消える。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 4 箇所 4 個体、夏季 14 箇所 14 個体</p>
2	シマヘビ 	<p>【生態など】 開けた平地から山地の林縁部など、明るい環境を好む。動きは俊敏で、カエルを多く食べるが、他にもネズミ、鳥類の卵やヒナ、ヘビ、トカゲなど様々な動物を捕食する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体、秋季 1 箇所 1 個体</p>
3	アオダイショウ 	<p>【生態など】 山地の林から平野部まで様々な環境にすみ、日本では古くから最も身近なヘビとして知られる。成蛇は人家や倉庫などにもすみ着き、ネズミをよく捕食するので、「家の主」として大切に扱う地域も多い。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 3 個体、夏季 7 箇所 7 個体、秋季 1 箇所 1 個体</p>
4	ヒバカリ 	<p>【生態など】 湿地や水田、水路脇など湿った環境を好み、カエルやミミズ、水中に入ってオタマジャクシや小魚などを捕食する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 3 箇所 3 個体、秋季 4 箇所 5 個体</p>

表 5. 2-74 (2) 重要な爬虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
5	ヤマカガシ 	<p>【生態など】 平地から山地の水田や小川、湿地などに多い。動きは活発で主としてカエルを食べるが、水にも入り、オタマジャクシや小魚なども捕食する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 1 個体 ○実施区域外 夏季 6 箇所 6 個体、秋季 1 箇所 1 個体</p>
6	ニホンマムシ 	<p>【生態など】 夜行性の毒蛇で、林や藪などの林床や田畑の畔、水辺などに生息し、ネズミやカエルを主とし、ヘビ、トカゲ、小鳥、魚など小型の脊椎動物を捕食する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 4 箇所 4 個体、秋季 1 箇所 1 個体</p>

(参考文献)

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-31 (1) 爬虫類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-31 (2) 爬虫類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-31 (3) 爬虫類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-31 (4) 爬虫類の重要種
確認位置

オ 両生類

現地調査及び聞き取り調査により確認された重要な両生類は表 5.2-75 に、現地調査での確認状況は表 5.2-76 に、確認位置は図 5.2-32(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査及び聞き取り調査の結果、2 目 5 科 5 種の重要種が確認された。

表 5.2-75 現地調査により確認された重要な両生類

No.	目名	科名	種名	確認時期								聞き取り	選定基準			
				早春季		春季		夏季		秋季			①	②	③	④
				内	外	内	外	内	外	内	外					
1	有尾目	サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ				○		○		○		特二	VU	CR+EN	
2		イモリ科	アカハライモリ						○		○			NT	CR+EN	
3	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル		○						○				要注意	
4		アカガエル科	ムカシツチガエル		○		○		○		○				要注意	
5		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル				○		○						要注意	
計	2 目	5 科	5 種	0 種	2 種	0 種	3 種	0 種	4 種	0 種	2 種	2 種	-	1 種	2 種	5 種
				2 種			3 種		4 種		2 種					

注 1) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2) 表中の記号は、以下の地域での確認を示す。

内：実施区域内 外：実施区域外

表 5. 2-76 重要な両生類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	トウキョウサンショウウオ 	<p>【生態など】 丘陵地や低山地の雑木林の落ち葉や倒木の下などにひそみ、夜行性でミミズや昆虫などを捕食する。早春に水田や湧水、沢の淀みなどの止水域に雌雄が集まり、バナナ状の一对の卵塊を水中にある枯れ枝や落ち葉などに産みつける。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 7 箇所 16 個体、卵囊 6 個、夏季 6 箇所 25 個体</p>
2	アカハライモリ 	<p>【生態など】 平地から丘陵地の池や沼、水田、水路等に生息し、腹面が鮮やかな赤色をしている。春から初夏にかけて、粘着性のある卵を水中の草や枯葉に産み付ける。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 3 個体、夏季 1 箇所 2 個体</p>
3	アズマヒキガエル 	<p>【生態など】 平地から山地までの林床に広範囲に棲息し、社寺や人家の庭にも住み着いている。早春の産卵期には、多数の個体が産卵場所に集まって集団産卵する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 早春季 3 箇所 102 個体、秋季 1 箇所 1 個体</p>
4	ムカシツチガエル 	<p>【生態など】 平地から低山地にかけての水田や池、河川などの水辺に生息する。水辺から離れることなく、幼生のまま越冬し、翌年の初夏に変態・上陸する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 早春季 2 箇所 5 個体、春季 2 箇所 2 個体、 夏季 6 箇所 13 個体、秋季 4 箇所 9 個体</p>
5	シュレーゲルアオガエル 【現地写真なし】	<p>【生態など】 平地から山地の主として広葉樹の林に生息する緑色のカエルで、繁殖期には湿地の岸边や水田の畔などの土中に、泡に包まれた卵塊を産み、孵化した幼生は水中に泳ぎだして成長する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 30 個体、夏季 2 箇所 3 個体</p>

(参考文献)

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-32 (1) 両生類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-32 (2) 両生類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-32 (3) 両生類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-32 (4) 両生類の重要種
確認位置

カ 昆虫類

現地調査及び聞き取り調査により確認された重要な昆虫類は表 5.2-77(1)～(2)に、現地調査での確認状況は表 5.2-78(1)～(11)に、確認位置は図 5.2-33(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査及び聞き取り調査の結果、7 目 31 科 42 種の重要種が確認された。

表 5.2-77(1) 現地調査により確認された重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期								聞き取り	選定基準				
				春季		初夏		夏季		秋季			①	②	③	④	
				内	外	内	外	内	外	内	外						
1	(蜻蛉目)	アオイトトンボ科	ホソミオツネトンボ		○							○				要注意	
2		イトトンボ科	ホソミイトトンボ		○						○	○				DD	
3			キイトトンボ							○						EN	
4		カワトンボ科	ハグロトンボ				○			○						要注意	
5		ヤンマ科	ミルンヤンマ		○					○		○				要注意	
6			サラサヤンマ										○			要注意	
7		サナエトンボ科	ヤマサナエ		○		○									要注意	
8		エソトンボ科	タカネトンボ										○			要注意	
9		トンボ科	シオヤトンボ		○												要注意
10			ナツアカネ									○					要注意
11			マユタテアカネ				○			○		○					要注意
12			リスアカネ										○				要注意
13	(直翅目)	キリギリス科	オナガササキリ									○				要注意	
14		ケラ科	ケラ				○			○		○				要注意	
15		マツムシ科	ヒロバネカントアン							○						NT	
16		バッタ科	ショウリョウバッタモドキ								○		○				要注意
17	(半翅目)	サシガメ科	アシマダラアカサシガメ									○				DD	
18		グンバイムシ科	ヤブガラシグンバイ		○		○									DD	
19		カメムシ科	イネカメムシ									○				DD	
20		アメンボ科	オオアメンボ		○		○									NT	
21		ミズムシ科(昆)	コミズムシ類				○					○				DD	
22		コオイムシ科	コオイムシ										○	○		NT	EN
23	(鱗翅目)	ミノガ科	オオミノガ				○									VU	
24		シジミチョウ科	ミドリシジミ				○									NT	
25		ヤガ科	ハマオモトヨトウ							○							NT
26	(双翅目)	アブ科	ウシアブ							○						DD	
27	(鞘翅目)	ガムシ科	スジヒラタガムシ		○										NT		
28		クワガタムシ科	ヒラタクワガタ本土亜種	○												VU	
29			ミヤマクワガタ				○					○				要注意	
30		タマムシ科	ウバタマムシ				○										NT

表 5.2-77(2) 現地調査により確認された重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	確認時期								聞き取り	選定基準				
				春季		初夏季		夏季		秋季			①	②	③	④	
				内	外	内	外	内	外	内	外						
31	コウチュウ目 (鞘翅目)	タマムシ科	タマムシ				○	○	○		○						要注意
32		ホタル科	ヘイケボタル						○			○					NT
33		ツチハンミョウ科	マメハンミョウ								○						要注意
34		カミキリムシ科	ルリカミキリ				○										VU
35			シロスジカミキリ						○								要注意
36			ミドリカミキリ				○										NT
37			キイロトラカミキリ				○										要注意
38			トラフカミキリ				○										
39	ハチ目 (膜翅目)	ヤドリキバチ科	トサヤドリキバチ						○							DD	
40		スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ				○		○		○					DD	VU
41			モンズズメバチ						○		○					DD	
42		ミツバチ科	ナミルリモンハナバチ						○				○				DD
計	7 目	31 科	42 種	1 種	8 種	0 種	17 種	1 種	16 種	0 種	17 種	7 種	-	-	6 種	36 種	
				8 種			17 種		16 種		17 種						

注 1) 種名及び配列は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。

注 2) 表中の記号は、以下の地域での確認を示す。

内：実施区域内 外：実施区域外

注 3) コミズムシ類は、捕獲した個体がメスのみだったため種まで同定できていない。選定基準④において、「コミズムシ類」の名称で記載されているため、該当文献に合わせてコミズムシ類として種名を記載した。

表 5.2-78(1) 重要な昆虫類の確認状況



No.	種名	生態・確認状況
1	ホソミオツネトンボ 	<p>【生態など】</p> <p>県内ほぼ全域に分布する。水田や開放的な池沼に生息するが、ときには狭小な水域で見られる。6 月頃羽化し、性成熟しないまま成虫で越冬、翌年 5 月～6 月頃に生殖活動に至る。産卵は植物の生体組織内に行われる。幼虫の成長は早く、孵化後その年の初夏には羽化に至るようである。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 春季 1 箇所 2 個体</p>
2	ホソミイトトンボ 	<p>【生態など】</p> <p>丘陵地の池や湿地に見られる。成虫越冬する種であり、西日本ではとくに珍しい種ではないが、分布北限となる関東地方での記録は散発的である。秋に羽化して越冬するものは地色が淡褐色、黒斑の発達はあるく、とくに翅胸前面正中線は細い褐色。越冬後これが地色淡青色で背部は黒色に変わり、交尾産卵する。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 春季 3 箇所 4 個体、秋季 3 箇所 3 個体</p>

表 5. 2-78(2) 重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
3	キイトトンボ 	<p>【生態など】 県内全域から広く記録されている。ただし、県北、県西部からの記録はごく少ない。休耕田が主で、池沼や水田などからも記録されている。いずれも水生植物の多い環境良好な水域である。成虫期は5月～10月で7月～8月に多い。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季1箇所1個体</p>
4	ハグロトンボ 	<p>【生態など】 アオハダトンボ属3種の中で最も下流域を分布の中心とする種類で、県内でも河川中下流域に記録が集中している。生息域は水辺に草本類の生える流水で、アオハダトンボに比べると水質汚染に耐性を持ち、生活排水などでやや汚染されている厚木市戸田より下流の相模川や中村川水系にも生息している。成虫は5月下旬から11月下旬にかけて出現する。最盛期は7月～8月である。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏5箇所15個体、夏季5箇所15個体</p>
5	ミルンヤンマ 	<p>【生態など】 県内ほぼ全域に分布する。幼虫の生息域は、河川源流域～上流域で、コシボソヤンマとはかなり明瞭に棲み分ける。8月頃を中心に羽化し、成熟成虫は9月から10月頃まで出現する。黄昏活動性が強いが、秋以降その時間帯が日中に移行する。産卵は流域の倒木、流木中などに行われる。幼虫期間は長く、県内では孵化から羽化に至るまでに2～4年を経ると推定される。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季1箇所1個体、夏季1箇所1個体、秋季2箇所3個体</p>
7	ヤマサナエ 	<p>【生態など】 県内ほぼ全域に分布する。河川上流域に生息し、同属のキイロサナエに比較すると上流寄り、軽流域で川トンボと同所的に生息する例が多い。4月下旬から5月上旬に斉一的に羽化し、成熟成虫は5、6月を中心に出現する。産卵は流水面に直接打水して行われる。幼虫期間は長く、県内では孵化から羽化に至るまでに2～4年を経ると推定される。幼虫は汚染されていない砂泥底に、ほぼ完全に潜って生活する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季3箇所3個体、初夏5箇所5個体</p>

表 5. 2-78(3) 重要な昆虫類の確認状況



No.	種名	生態・確認状況
9	シオヤトンボ 	<p>【生態など】 県内ほぼ全域に分布する。平野部・低山地の休耕田・湿地・水深の浅い池沼・湿地に生息するが、同属他種と比較して生息域はより限定され、都市化にも弱いようである。4 月頃に羽化し、成熟成虫は5月～6月に出現、盛夏までに没姿する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体</p>
10	ナツアカネ 	<p>【生態など】 県内ほぼ全域に分布する。平野部から低山地における溜め池、湿田、湿地、河川敷の水溜まりなど、広域な止水域に生息する。羽化は7月～8月を中心に行われ、その後成熟成虫は11 月頃までみられる。交尾は水域周辺に静止して行われ、産卵は連結または単独で、水際などで打泥・挿泥するか、ごく浅い水面を打水するなどしてなされる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体</p>
11	マユタテアカネ 	<p>【生態など】 県内ほぼ全域に記録があるが、横浜市北部沿岸地域は分布の空白域。平野部から低山地における溜め池、湿田、湿地、河川敷の水溜まりなど、広域な止水域に生息する。羽化は 7 月～8 月を中心に行われ、その後成熟成虫は 11 月頃までみられる。交尾は水域周辺に静止して行われ、産卵は連結または単独で、水際などで打泥・挿泥するか、ごく浅い水面を打水するなどしてなされる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 2 個体、 秋季 4 箇所 12 個体</p>
12	リスアカネ 	<p>【生態など】 丘陵地を中心とする県内各地の止水域に分布する。主たる生息地は丘陵地などの木立に囲まれた池であるが、河川敷等の開放的な場所でみられることもある。人工的な護岸を施された池は、好まない傾向にあるようである。交尾の終了時に水域へ下降し、多くは岸辺の泥土上で連結したまま打空産卵に移行するが、その連結は長時間連続せずほぼ 5 分以内に終了、連結を解きメスは単独の産卵に移る。成虫は 7 月中旬から 11 月上旬にかけてみられる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 3 個体</p>

表 5. 2-78(4) 重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
13	オナガササキリ 【現地写真なし】	<p>【生態など】 県内では平地から丘陵地にかけて分布する。チガヤなどの茂った土手など、イネ科草本からなる草地に生息し、河原や水田でも姿を見られる。「シュリッ・シュリッ・・・」とはっきりした区切り鳴きをする。年1化で秋に成虫が出現する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季1箇所1個体</p>
14	ケラ 	<p>【生態など】 県内では低地に広く分布する。湿地に穴を掘ってすむ種で、水田付近に多く、円筒型の体系、細かい毛の密生、前足の発達など穴居に適した形態を備えている。オスはブーーという単調な声で鳴く。雌も短い発音をするという。飛ぶことができ、灯火に飛来する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏1箇所1個体、夏季4箇所5個体、 秋季2箇所2個体</p>
15	ヒロバネカント 	<p>【生態など】 近年では横須賀市のみで記録されている。ススキ・ヨモギ・クズなどの茂った草原に生息し、西日本の沿岸部に多い。埋立地などの荒れ地にもみられることから、外来種とする意見もあるが、市川（2004）は自然分布として推定している。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季1箇所1個体</p>
16	ショウリョウバッタモドキ 	<p>【生態など】 県内では丘陵地に分布しているが、減少傾向にある。丘陵地のチガヤなどの茂る土堤に見られ、葉の裏に身を伏せるようにとまっているので見つかりにくい。飛ぶことはほとんどない。年1化で秋に成虫が出現する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季2箇所7個体、秋季4箇所7個体</p>

表 5. 2-78(5) 重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
17	アシマダラアカサシガメ 	<p>【生態など】</p> <p>県内では横浜市緑区で記録がある。本種と同属のアカシマサシガメは、植物の根際や石の下、放置された廃材の下などで主にヤスデ類を食しているの、本種も同様の生態をしていると思われる。体長 11.5–14 mm で頭部、前胸背、小楯板は赤色である。前翅は黒色で革質部の前縁と基部、中央の横帯は赤色を呈する。脚も赤色で、各節に黒帯がある。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 秋季 1 箇所 4 個体</p>
18	ヤブガラシゲンバイ 	<p>【生態など】</p> <p>普通に産すると思われる種であるが、なぜか神奈川県での採集記録は少ない。ヤブガラシの葉裏に時に群生に採集されるが、ヤブガラシ群生地であっても採集できる株は少ない。秋の初めに多く採集できる。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 春季 1 箇所 2 個体、初夏 4 箇所 7 個体</p>
19	イネカメムシ 	<p>【生態など】</p> <p>イネ科植物上で見つかるが、よく似ている近縁のシロヘリカメムシに比べて非常に少なく、特に神奈川県東部での記録は 70 年前の藤沢の記録があるのみである。名前の通り稲の害虫として知られるが、神奈川県では本種によると思われる被害は聞かない。7 月～8 月ごろ産卵し、10 月ごろ新成虫があらわれ、成虫で越冬する。年 1 化。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 秋季 2 箇所 3 個体</p>
20	オオアメンボ 	<p>【生態など】</p> <p>県下に広く分布していた種と考えられる。国内では最大のアメンボで、他種との区別は容易である。とくに近年相模川以東での減少が激しく、川崎市麻布区のため池と三浦半島森戸川上流くらいしか最近の記録がない。水質の良い小川やため池に生息する。秋に個体が多い。</p> <p>【確認状況】</p> <p>○実施区域内 確認なし</p> <p>○実施区域外 春季 2 箇所 4 個体、初夏 2 箇所 5 個体</p>

表 5. 2-78(6) 重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
21	コミズムシ類 	<p>【生態など】 県内では、各地から「コミズムシ」として多くの記録があるが、これらは複数の種を含んでいるものと考えられる。県下からは、この属としてアサヒナコミズムシ、ヒメコミズムシ、ハラグロコミズムシ、エサキコミズムシ、コミズムシの記録があるが、このような状況下であり、各種の状況も不明である。県下の水辺環境から考えて、危機的状況にある種も含まれるものと考えられる。各種、水域に生息する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 2 箇所 7 個体、秋季 1 箇所 10 個体</p>
22	コオイムシ 	<p>【生態など】 かつては県下に広く分布していたものと考えられる。水田をおもな生息地としていたと考えられ、農薬の大量使用がなされた 1960 年代に激減したものと考えられる。その後の圃場整備による乾田化も追い打ちをかけている。丘陵地の水生植物豊富な水田や水路に生息する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季 1 箇所 1 個体</p>
23	オオミノガ 	<p>【生態など】 平地から低山地まで広く生息していた。幼虫はきわめて多食性で、各種の樹木や灌木につき、各地の公園や街路樹、庭木にそのミノを見ることが出来た。年 1 化、6 月～7 月に出現する。幼虫越冬するので、冬季に樹木の枝にぶらさがる囊を発見しやすい。食樹は、バラ科、クワ科など多くの植物が知られている。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 1 箇所 1 個体</p>
24	ミドリシジミ <p>【現地写真なし】</p>	<p>【生態など】 県内全域に分布する。幼虫は低地では主にハンノキ、丹沢などの山間部ではヤマハンノキを食樹とする。低地ではハンノキの自生する湿地や雑木林が生息地。成虫は低地で 6 月から、山地では 7 月から見られる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季 2 箇所 2 個体</p>

表 5. 2-78(7) 重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
25	ハマオモトヨトウ 	<p>【生態など】 県内では横須賀市、三浦市、逗子市、横浜市鶴見区で確認されている。幼虫はハマオモトの葉肉に食入し、春から秋に何回か発生が繰り返される。ただ、食草については最近スイセン、タマスダレ、ヒガンバナ、アマリリス、ナツズイセンなどが報告され、ハマオモト以外のヒガンバナ科の植物への依存により、分布を拡大していることが指摘されている。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 2 個体</p>
26	ウシアブ 	<p>【生態など】 県内では横須賀市、相模原市、厚木市、小田原市で確認されている。牛馬の厩舎付近を主たる生息環境とする。山間部での酪農地では少数ながら生息しているようだ。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 6 箇所 10 個体</p>
27	スジヒラタガムシ 	<p>【生態など】 国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布する。丘陵地や山間部のため池や水田、湿地に生息する。メスは腹部に卵を付着させて保護し、繁殖期も長く、生息地での個体数は多い。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 4 個体</p>
28	ヒラタクワガタ本土亜種 	<p>【生態など】 県内に広く分布する。雄の体長は大あごを含めて 30 ～ 60 mm 前後で変異が大きく、雌は普通やや小さい。本州以南に分布するが温暖地に多い。夏季を中心に雑木林・屋敷林・社寺林等の広葉樹林に出現し、クヌギ・シラカシなどの樹液に見つかり、灯火にも来る。河川敷のヤナギ林などにも生息する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 1 個体 ○実施区域外 確認なし</p>

表 5. 2-78(8) 重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
29	ミヤマクワガタ 	<p>【生態など】 県内に広く分布する。平地では雑木林のクヌギなどの樹液に成虫が集まる。電灯にも飛来する。幼虫はブナ科植物などの枯れ木の中を食べ進んでトンネルをあける。卵から成虫までの期間は2～3年と思われる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季1箇所1個体、秋季1箇所3個体</p>
30	ウバタマムシ 	<p>【生態など】 県内全域に分布する。アカマツ、クロマツなどに発生する。市街地ではほとんど見られなくなった。成虫は6月～8月に多い。マツの弱った木や枯れ木に産卵する。幼虫は材部の奥深くまで食べ進む。卵から成虫までの期間は2～3年と思われる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季1箇所1個体</p>
31	タマムシ 	<p>【生態など】 県内全域に分布する。エノキ、ケヤキ、サクラ類、カキ、クワ、ニセアカシアなどを宿主とする。夏にエノキやサクラの樹上を巡回する。幼虫は枯れ木の中にトンネルをあけて食べ進む。気温や枯れ木の状態で幼虫期間に長短があるが、2～3年後の初夏に枯れ木の中で蛹化、約2～3週間で成虫となり、枯れ木から出現する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 夏季2箇所4個体 ○実施区域外 初夏季3箇所4個体、夏季6箇所6個体、 秋季1箇所1個体</p>
32	ヘイケボタル 	<p>【生態など】 県内全域の低標高地に分布する。主として流れの穏やかな川や水田に生息し、幼虫は水性の巻貝を食し、幼虫で越冬する。成虫は6月～8月に発生するが、個体数の多いのは、7月中旬～8月上旬頃である。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季4箇所10個体</p>

表 5. 2-78(9) 重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
33	マメハンミョウ 	<p>【生態など】 県内全域に分布する。幼虫はイナゴ、バッタなどの卵塊に寄生する。成虫は畠や草地などに多く見られ、種々の葉を食べるので、害虫とされることもある。成虫は8月～9月頃に出現し、大豆や野菜類の葉を食し、土中に産卵する。幼虫は地面を歩行し、イナゴの卵塊にたどりつく。幼虫はイナゴの卵を食して生育する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 秋季1箇所1個体</p>
34	ルリカミキリ 	<p>【生態など】 県内では津久井を除くほぼ全域に分布する。主に低地の夏緑林に生息するが、ときに住宅地でも発生する。カマツカ（ウシコロシ）やカイドウ、ヒメリンゴなどバラ科を寄主植物とする。成虫は4月～5月に出現し、寄主植物の葉を主脈を後食する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季1箇所3個体</p>
35	シロスジカミキリ 	<p>【生態など】 県内では高標高地を除くほぼ全域に分布する。主に低地の夏緑林やクリ園に生息するが、ときに公園や住宅地でも発生する。クリ、クヌギ、コナラ、アカガシ、スダジイなどブナ科を好むが、クワ科、シナノキ科なども寄主植物とする。成虫は5月～8月に出現、寄主植物の枝の樹皮を後食し、夜間に交尾・産卵を行う。産卵は幹の低い位置に樹皮を、樹皮を浅く円状に直径1～1.5 cmほど削った部分の中央に1卵ずつ行い、それを環状に繰り返していく習性があるので、その産卵痕からも遠目にもすぐ加害木の存在がわかる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季産卵痕1箇所</p>
36	ミドリカミキリ 	<p>【生態など】 県内ではほぼ全域に分布する。山地から低地まで夏緑林に生息する。各種広葉樹・針葉樹の枯死・衰弱した材を寄主植物とし、成虫は5月～7月に出現、各種の伐採木・薪や花に集まる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季1箇所1個体</p>

表 5. 2-78 (10) 重要な昆虫類の確認状況



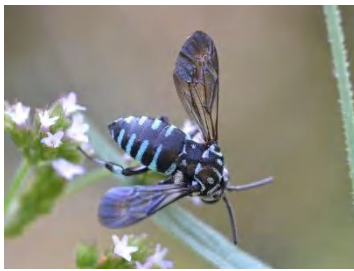
No.	種名	生態・確認状況
37	キイロトラカミキリ 【現地写真なし】	<p>【生態など】 県内ではほぼ全域に分布する。山地にも生息するが、むしろ低地や山間地の夏緑林に多く生息する。ケヤキを寄主植物とし、成虫は5月～8月に出現、伐採・枯死木に集まる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季1箇所1個体</p>
38	トラフカミキリ 	<p>【生態など】 山地を除くほぼ全域に分布する。低地の夏緑林やクワ畑に生息し、ときに公園や住宅地でも発生する。古木となったクワ類を寄主植物とし、成虫は7月～8月に出現、寄主植物の幹上を徘徊する。行動時はスズメバチ類に似るので、それをモデルとした擬態者として知られる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季1箇所1個体</p>
39	トサヤドリキバチ 	<p>【生態など】 本州、四国に分布する日本固有種。成虫は6月～9月に出現し、低地では少なくとも年2回発生すると考えられる。ハバチ亜目に属しながら寄生性というハチ亜目への「進化の橋渡し」的な生態を持ち、甲虫類（タマムシやカミキリムシ）の幼虫に寄生するといわれるが、詳細は不明。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季1箇所1個体</p>
40	ヤマトアシナガバチ 	<p>【生態など】 北海道から南西諸島にかけて分布する中型のアシナガバチ。草本の葉裏や樹木の細枝、時には人家の軒下、壁にも営巣する。神奈川県には古い記録は鎌倉市くらいしかなく内陸部での以前の状況がわからないが、現在では鎌倉市でも見られず、三浦半島の沿岸付近の地域でのみ見られ明らかに減少している。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 初夏季3箇所3個体、夏季4箇所4個体、 秋季1箇所1個体</p>

表 5.2-78(11) 重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
41	モンズズメバチ 	<p>【生態など】 北海道から九州まで広く分布する日本固有亜種。樹洞、天井裏、壁間、戸袋などの閉鎖的な場所に営巣し、おもにセミを狩る。他種と違い夜間にも活動する習性がある。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季3箇所5個体、秋季2箇所2個体</p>
42	ナミルリモンハナバチ 	<p>【生態など】 本州から屋久島にかけて分布する。夏に出現し、センダングサ、マリーゴールドなどに訪花する。コシブトハナバチ類に寄生する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季2箇所3個体</p>

(参考文献)

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年)

「東京都レッドデータブック 2023 ―東京都の保全上重要な野生生物種(本土部)解説版―」(東京都環境局、令和5年)

「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」(栃木県環境森林部自然環境課、平成31年)

「レッドデータブック 2014 ―日本の絶滅の恐れのある野生生物― 5 昆虫類」(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室、平成27年)

「学研生物図鑑 昆虫Ⅱ 甲虫」(株式会社学習研究社、平成2年)

「学研生物図鑑 昆虫Ⅲ バッタ・ハチ・セミ・トンボほか」(株式会社学習研究社、平成2年)

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-33 (1) 昆虫類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-33 (2) 昆虫類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-33 (3) 昆虫類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-33 (4) 昆虫類の重要種
確認位置

キ 陸産貝類、クモ類

(a) 陸産貝類

現地調査により確認された重要な陸産貝類は表 5.2-79 に、確認状況は表 5.2-80(1)～(3)に、確認位置は図 5.2-34(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査の結果、2 目 4 科 11 種の重要種が確認された。

表 5.2-79 現地調査により確認された重要な陸産貝類

No.	目名	科名	種名	確認時期						選定基準		
				春季		夏季		秋季				
				内	外	内	外	内	外	①	②	③
1	ヤマタニシ目	ヤマタニシ科	サドヤマトガイ				○					NT
2	マイマイ目	キセルガイ科	チュウゼンジギセル		○		○		○			NT
3				スルガギセル	○	○	○	○		○		NT
4		シタラ科	タカキビ	○	○	○	○		○		NT	
5				レンズガイ		○		○		○		VU
6				ヒゼンキビ		○		○		○		NT
7				ヒメハリマキビ	○	○	○	○		○		NT
8				ウメムラシタラ	○	○	○	○		○		NT
9				オオウエキビ	○	○		○		○		DD
10				ヒメカサキビ		○		○				NT
11			ナンバンマイマイ科	キヌビロウドマイマイ		○		○		○		NT
計	2 目	4 科	11 種	5 種	9 種	4 種	11 種	0 種	9 種	-	-	11 種
				10 種		11 種		9 種				

注 1) 種名及び配列は分類・配列は福田（2021）に準拠し、和名・学名は亀田（2018）や MolluscaBase 等を参考にした。

- ・福田宏（2021）Biology and Evolution of the Mollusca で提唱された軟体動物の分類体系と和名の対応. Molluscan Diversity 6(2): 89-180.
- ・亀田勇一（2018）. 陸・淡水産腹足類日本固有種目録(2018 年 3 月版). https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot_japan/endemic_list/
- ・MolluscaBase <https://www.molluscabase.org/>

注 2) 表中の記号は、以下の地域での確認を示す。

内：実施区域内 外：実施区域外

表 5. 2-80(1) 重要な陸産貝類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	サドヤマトガイ 	<p>【生態など】 本州（関東甲信越以西）、四国、九州に分布し、主に広葉樹林の落葉下の礫や色腐葉土間に生息する。生時は地表の泥土に紛れて発見しにくい。分布は広いが多産はせず、乾燥にも多湿のどちらにも弱く、適度な湿度が保たれた環境に見られる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 1 個体</p>
2	チュウゼンジギセル 	<p>【生態など】 関東山地北部から西部、千葉県、三浦半島に分布し、自然度の高い樹林の落葉下のリター層や礫間に生息する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 5 箇所 9 個体、夏季 3 箇所 9 個体、秋季 1 箇所 8 個体</p>
3	スルガギセル 	<p>【生態など】 千葉県、神奈川県、静岡県のそれぞれ一部に分布し、自然度の高い樹林の落葉下のリター層や倒木下などに生息する。一般に個体密度が低く、1 ヲ所で確認される個体数は少ないことが多い。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 1 個体、夏季 2 箇所 3 個体 ○実施区域外 春季 4 箇所 4 個体、夏季 2 箇所 3 個体、秋季 6 箇所 8 個体</p>
4	タカキビ 	<p>【生態など】 関東地方以南の本州、四国、九州まで広く分布し、自然度の高い広葉樹林や隣接する杉植林の林床の落葉層に生息するほか、アオキなどの常緑低木の葉にも登っているのが見られることもある。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 春季 2 箇所 4 個体、夏季 1 箇所 2 個体 ○実施区域外 春季 2 箇所 3 個体、夏季 4 箇所 6 個体、秋季 4 箇所 16 個体</p>

表 5. 2-80(2) 重要な陸産貝類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
5	<p>レンズガイ</p> 	<p>【生態など】 関東地方南部、中部地方、九州にそれぞれ分布するが、各分布域は飛び離れている。関東地方内でも限られた地域に分布し、自然度の高い樹林の林床に生息する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体、秋季 2 箇所 8 個体</p>
6	<p>ヒゼンキビ</p> 	<p>【生態など】 本州（東北地方以南）から九州かけて分布し、平野部から山地までの自然林、あるいはそれに準ずる良好な森林の落葉下や岩上の蘚苔類の間などに生息する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 3 箇所 3 個体、夏季 8 箇所 11 個体、秋季 2 箇所 2 個体</p>
7	<p>ヒメハリマキビ</p> 	<p>【生態など】 本州（関東北部以南）、四国、九州に分布し、主に自然度の高い森林の倒木や落葉下に生息する。一般に個体密度は低く、一回に確認される個体数は少ないことが多い。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 2 個体、夏季 1 箇所 2 個体 ○実施区域外 春季 8 箇所 16 個体、夏季 2 箇所 2 個体、 秋季 5 箇所 23 個体</p>
8	<p>ウメムラシタラ</p> 	<p>【生態など】 本州（関東地方以南）、四国、九州、南西諸島、韓国の巨文島などに分布し、主に山地から丘陵部の樹林内や林縁部の落葉下に生息する。原生林にはあまり見られず、里山的な環境に多く見られる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 3 個体 ○実施区域外 春季 9 箇所 15 個体、夏季 13 箇所 27 個体、 秋季 18 箇所 101 個体</p>

表 5. 2-80 (3) 重要な陸産貝類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
9	オオウエキビ 	<p>【生態など】 本州（関東北部及び佐渡島以南）、四国、九州に広く分布し、里山から山地にかけての広葉樹林や杉植林までの幅広い森林環境で、落葉下やリター層に生息する。個体密度はさほど高くないが、関東地方でかなり普通に見られる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 春季 1 箇所 2 個体 ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 3 箇所 4 個体、秋季 2 箇所 2 個体</p>
10	ヒメカサキビ 	<p>【生態など】 本州（東北地方南部以南）、四国、九州、沖縄に分布し、主に低山地や丘陵地など、比較的標高の低い場所の広葉樹林の落葉下などに生息する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 2 個体、夏季 1 箇所 1 個体</p>
11	キヌビロウドマイマイ 	<p>【生態など】 関東地方西部から中部地方東端部にかけての地域のみ分布し、自然度の高い樹林の倒木下などに生息する。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 2 箇所 2 個体、夏季 2 箇所 2 個体、秋季 3 箇所 5 個体</p>

（参考文献）

「千葉県の実験上重要な野生生物 ―千葉県レッドデータブック―動物編 2011 年改訂版」（千葉県環境生活部、平成 23 年）

「東京都レッドデータブック 2023 ―東京都の保全上重要な野生生物種（本土部）解説版―」（東京都環境局、令和 5 年）

「岡山県版レッドデータブック 2020 動物編」（岡山県環境文化部、令和 2 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-34 (1) 陸産貝類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-34(2) 陸産貝類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5.2-34(3) 陸産貝類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-34 (4) 陸産貝類の重要種
確認位置

(b) クモ類

現地調査により確認された重要な陸産貝類は表 5.2-81 に、確認状況は表 5.2-82 に、確認位置は図 5.2-35(1)～(4)に示すとおりである。

現地調査の結果、1 目 4 科 5 種の重要種が確認された。

表 5.2-81 現地調査により確認された重要なクモ類

No.	目名	科名	種名	確認時期						選定基準			
				春季		夏季		秋季		①	②	③	④
				内	外	内	外	内	外				
1	クモ目	カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ		○		○		○			NT	
2		トタテグモ科	キノボリトタテグモ		○		○		○			NT	
3			キシノウエトタテグモ		○		○					NT	
4		コガネグモ科	コガネグモ				○						要注意
5		ハウシグモ科	ドウシグモ		○		○					DD	NT
計	1 目	4 科	5 種	0 種	4 種	0 種	5 種	0 種	2 種	-	-	4 種	2 種
				4 種		5 種		2 種					

注 1) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 6 年度版）」(河川環境データベース HP)に従った。


注 2) 表中の記号は、以下の地域での確認を示す。

内：実施区域内 外：実施区域外

表 5. 2-82(1) 重要なクモ類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
1	カネコトタテグモ 	<p>【生態など】 日本固有種で、本州（青森県～兵庫県）に分布する。雌の背甲及び歩脚は暗褐色、腹部は淡紫褐色あるいはベージュ。雄はやや暗色。鋏角は大きく前方に突出する。平地から低山地の樹林に生息し、地中に、糸で裏打ちされた管状の巣を作り、開口部に両開きの戸をつける。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 18 箇所 56 個体、古巣 1 個、夏季 3 箇所 5 個体、 秋季 3 箇所 5 個体</p>
2	キノボリトタテグモ 	<p>【生態など】 日本固有種で、北海道を除く全国に分布するが稀産。雌雄とも背甲及び歩脚は黒色、腹部は黒褐色あるいは紫褐色。鋏角は大きい。樹幹（樹種、樹齢を選ばない）の樹皮の割れ目や苔むした岩の上などに、長さ数 cm の袋状の巣を作り、開口部に円形の扉をつける。生育に数年かかる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 5 箇所 1 個体、古巣 26 個、夏季 1 箇所古巣 1 個、 秋季 1 箇所古巣 1 個</p>
3	キシノウエトタテグモ 	<p>【生態など】 本州から九州にかけて分布する。雌雄とも背甲及び歩脚は褐色ないし黒褐色、腹部は褐色ないし紫褐色で、矢筈状の白斑のある個体がある。鋏角は大きい。地中に長さ数 cm の管状の巣を作り、開口部に円形の扉をつける。生育に数年かかる。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 2 箇所 7 個体、夏季 1 箇所 1 個体</p>
4	コガネグモ 	<p>【生態など】 本州から南西諸島にかけて広く分布する。腹部背面に黄色と黒色の太い横縞模様があり、非常に目立つ種である。平地から山地の自然環境や里山に生息し、草原や林縁の下草、河川や池沼、田畑の周囲にあるいわゆる藪の空間の低い位置に大きい円網を張る。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 夏季 1 箇所 1 個体</p>

表 5. 2-82 (2) 重要なクモ類の確認状況

No.	種名	生態・確認状況
5	ドウシグモ 	<p>【生態など】 北海道から南西諸島にかけて分布する。体は全体的に黒色で、光沢があり、腹部背面にはっきりとした白斑がある。狩猟性で、平地～山地の自然林、人工林の比較的樹齢の高い樹木の樹幹、樹皮下に生活する。アリ専食で、しばしばアリを咥えているところが観察される。</p> <p>【確認状況】 ○実施区域内 確認なし ○実施区域外 春季 1 箇所 1 個体、夏季 1 箇所 1 個体</p>

(参考文献)

「東京都レッドデータブック 2023 ―東京都の保全上重要な野生生物種（本土部）解説版―」（東京都環境局、令和 5 年）

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-35(1) クモ類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-35 (2) クモ類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-35 (3) クモ類の重要種
確認位置

重要種の保護の観点から、情報は非公開とする。

図 5. 2-35 (4) クモ類の重要種
確認位置

3. 生態系

(1) 生態系

① 調査事項

ア 環境類型区分

地象、水象、植物及び動物の調査結果、及び次項の「イ 注目種・群集等の状況」の結果に基づく環境類型区分とした。

イ 注目種・群集等の状況

複数の注目種・群集等の生態、他の動植物との関係、生息・生育環境の状況とした。

② 調査方法

ア 環境類型区分

植物及び動物の調査結果、並びに「イ 注目種・群集等の状況」の調査結果に基づき、調査地域を特徴づける生態系を環境類型区分ごとに区分した。

イ 注目種・群集等の状況

植物及び動物の調査結果に基づき、上位性、典型性及び特殊性の観点から、複数の注目種・群集等を選定した。

③ 調査範囲及び地点

植物及び動物の調査範囲と同じとした（図 5.2-3(1)～(2)及び図 5.2-10(1)～(2)、図 5.2-11 参照）。

④ 調査時期、期間又は時間帯

植物及び動物と同じとした。

⑤ 調査結果

ア 環境類型区分

生態系を構成する要素の概要を表 5.2-83 に示した。これらの要素から調査地域の環境類型を区分し、調査地域全体、東京南線 3,4 号線、仮設ヘリポートの 3 区分で整理した。その結果、「山地の樹林」、「丘陵地－低地の湿地」、「丘陵地－低地の草地」の 3 タイプに区分した。環境類型区分図は図 5.2-36(1)～(2)に示すとおりである。

また、環境類型区分別の占有面積を表 5.2-84 に示した。調査地域全体の占有面積では、「Ⅰ 山地の樹林」が全体の 7 割程度を占めており、「Ⅱ 丘陵地－低地の湿地」が 0.20%、「Ⅲ 丘陵地－低地の草地」が 22.97%であった。実施区域別の比較では、東京南線 3,4 号線の実施区域外は、「Ⅰ 山地の樹林」が 68.87%を占め、「Ⅲ 丘陵地－低地の草地」が 23.83%であり、「Ⅱ 丘陵地－低地の湿地」は 0.16%とわずかであった。仮設ヘリポートの実施区域外では「Ⅰ 山地の樹林」が 83.23%と多くを占めており、「Ⅱ 丘陵地－低地の湿地」は 1.01%、「Ⅲ 丘陵地－低地の草地」は 4.27%と小規模であった。

実施区域内では、東京南線 3,4 号線で「Ⅰ 山地の樹林」が 1.82ha (0.32%)、仮設ヘリポートで「Ⅲ 丘陵地－低地の草地」が 0.45ha (1.55%)と最も大きい面積であったが、全体と比較すると 2%未満の小規模の面積であった。

各環境類型区分の主な構成種は表 5.2-85 に示すとおりである。なお、市街地等は環境類型区分から除外した。

表 5.2-83 生態系を構成する要素の概要

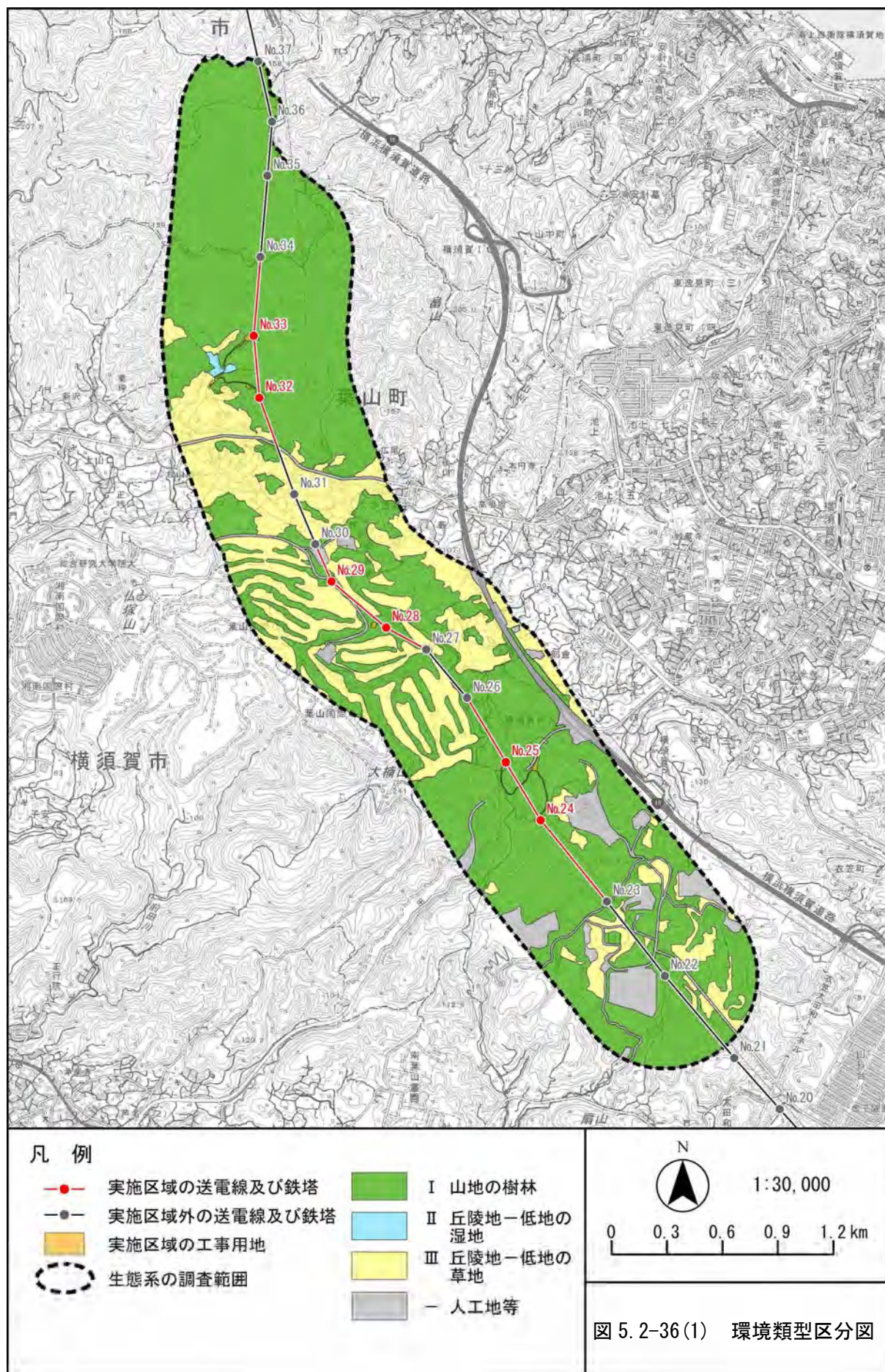
要素	概要
地象	<ul style="list-style-type: none"> 地形の多くは大起伏丘陵地や小起伏山地で構成されており、標高約 50m～約 210m 程度の低山から山地である。また、市街地や河川周辺は、扇状地性低地で構成されている。 地質は砂岩・泥岩・凝灰岩互層と砂岩・泥岩互層で構成され、一部に礫岩もみられる。
水象	<ul style="list-style-type: none"> 二級河川として下山川が存在しその支川として深谷川、猪俣川、大沢などが分布する。 そのほか普通河川として、森戸川、松越川、萩野川の支川などの水量が少ない河川が分布する。
植物	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査の結果、植物相では 135 科 891 種の植物が確認された。 現存植生は 19 区分、植生自然度は 8 区分、潜在自然植生は 4 区分に分類された。
動物	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査の結果、哺乳類 10 科 11 種、鳥類 35 科 76 種、猛禽類 3 科 8 種、爬虫類 6 科 10 種、両生類 6 科 8 種、昆虫類 225 科 1,037 種、陸産貝類 14 科 49 種、クモ類 23 科 83 種の合計 319 科 1,275 種の動物が確認された。
注目種・群落等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査の結果から、上位性としてタヌキ、オオタカ、アオダイショウの計 3 種を選定した。 現地調査の結果から、典型性としてアカメガシワ－カラスザンショウ群落、ノウサギ、ヒヨドリ、ニホンカナヘビ、ヤマアカガエルの 1 群落、計 4 種を選定した。

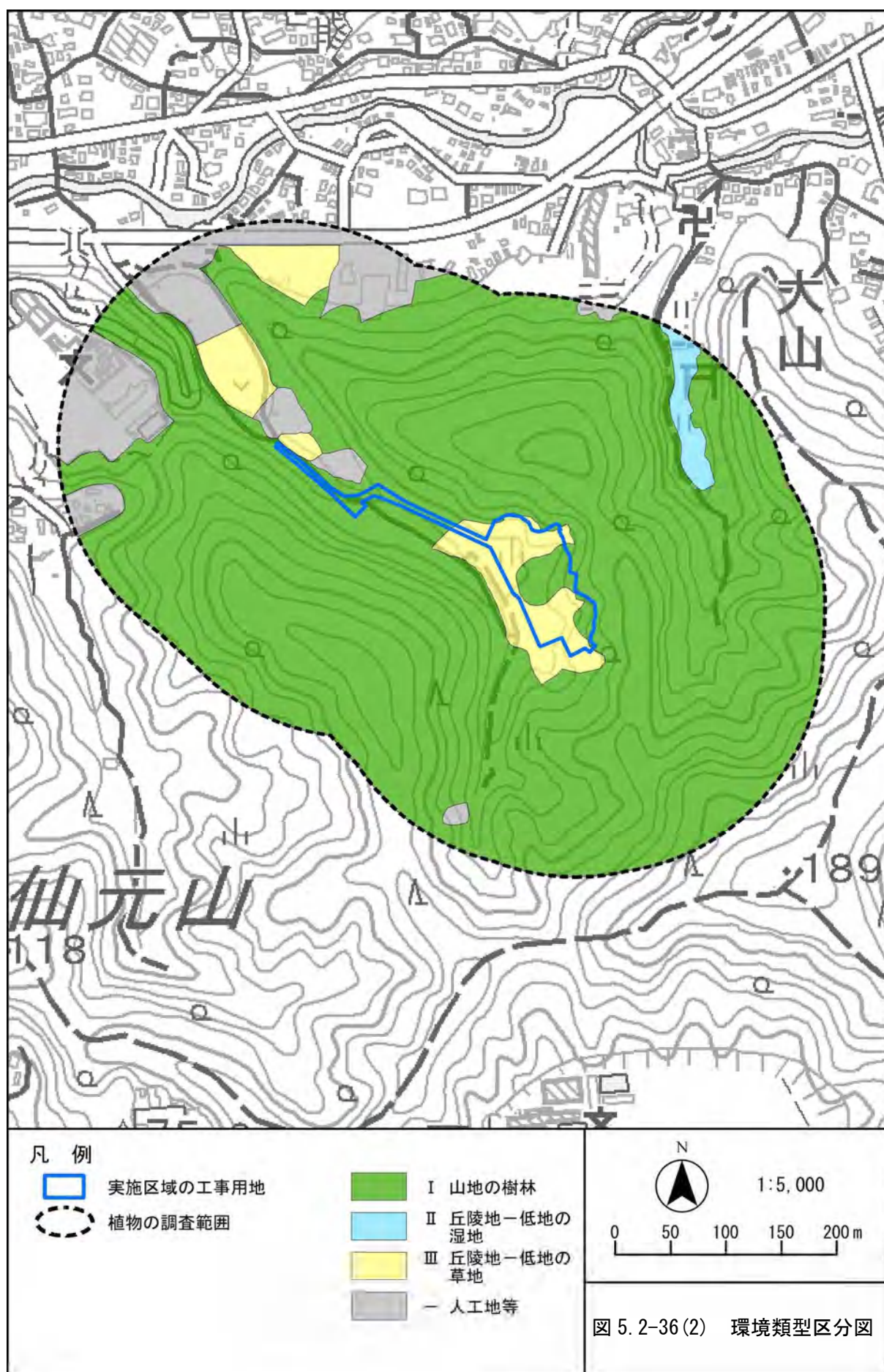
表 5.2-84 環境類型区分別の占有面積

No.	群落名	東京南線 3,4 号線				仮設ヘリポート				全体	
		実施区域内		実施区域外		実施区域内		実施区域外			
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
I	山地の樹林	1.82	0.32	396.06	68.83	0.37	1.28	24.22	83.23	422.47	69.88
II	丘陵地－ 低地の湿地	0.02	<0.01	0.90	0.16	0	－	0.30	1.01	1.21	0.20
III	丘陵地－ 低地の草地	0.05	0.01	137.12	23.83	0.45	1.55	1.24	4.27	138.86	22.97
－	人工地等	0.02	<0.01	39.45	6.86	0	－	2.51	8.63	41.99	6.95
	合計	1.91	0.33	573.53	99.67	0.83	2.84	28.28	97.16	604.54	100.00

表 5.2-85 各類型区分の主な構成種

区分 分類	I 山地の樹林	II 丘陵地－低地の湿地	III 丘陵地－低地の草地
植生	シイ・カシ二次林、アカメガシワ－カラスザンショウ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、オオシマザクラ植林等	水田雑草群落	アズマネザサーススキ群集、路傍・空地雑草群落、果樹園、ゴルフ場・芝地、畑雑草群落、緑の多い住宅地等
哺乳類	ヒミズ、アズマモグラ、ヒナコウモリ科、ノウサギ、タヌキ等	アズマモグラ、ノウサギ、タヌキ、ニホンイタチ等	アズマモグラ、ノウサギ、ニホンイタチ等
鳥類	アオバト、ホトトギス、オオタカ、フクロウ、アオゲラ、オオルリ、クロジ等	ツバメ、ハクセキレイ等	ノスリ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ムクドリ、ツグミ等
爬虫類	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、ニホンマムシ等	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ等	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ等
両生類	トウキョウサンショウウオ、アズマヒキガエル、ヤマアカガエル、ムカシツチガエル等	トウキョウサンショウウオ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル等	－
昆虫類	メスアカフキバッタ、オオツノカメムシ、トホシカメムシ、ミヤマクワガタ、チャイロスズメバチ等	ギンヤンマ、アキアカネ、タンボコオロギ、ヒメアメンボ、チャバネセセリ、ヒゲナガヤチバエ、ナムハンミョウ、ハイイロゲンゴロウ等	シオカラトンボ、ヒナバッタ、チャバネセセリ、ヒトスジシマカ、ナミテントウ、クロウリハムシ等
陸産貝類	ムシオイ、ゴマガイ、ハコネギセル、スルガギセル、カサキビ、ヤマナメクジ、オオケマイマイ等	－	オカチョウジガイ、ナミコギセル、ナメクジ、オナジマイマイ、ヒダリマキマイマイ等
クモ類	カネコトタテグモ、オナガグモ、ユノハマサラグモ、ハラビロミドリオニグモ、ヤマゴミグモ等	アシナガグモ、キクヅキコモリグモ、イモコモリグモ、イオウイロハシリグモ、オスクロハエトリ、ヤハズハエトリ等	ジグモ、コガネグモ、ギンメッキゴミグモ、ハリゲコモリグモ、ハナグモ、ネコハエトリ等





イ 注目種・群集等の状況

現地調査で確認された調査地域における動植物相を基に、地域の生態系を解析する上で重要と考えられる種について、表 5.2-86 に示す上位性、典型性、特殊性の観点から該当する指標種を選定した。

表 5.2-86 上位性・典型性・特殊性における選定の観点

性質	選定の観点
上位性	生態系を形成する生物集団の中で、ある種及び群集が栄養段階の上位に位する。
典型性	ある種及び群集が、生態系の中で現存量や占有面積の多い植物種または、個体数が多い動物種であるなど、重要な役割を担い、生態系の特徴を顕著に表している。
特殊性	ある種及び群集が、占有面積は比較的小規模であっても、特殊な環境に生育・生息すること、または特殊な環境の指標となっている。

(a) 指標種の選定状況

上位性及び典型性の選定結果は表 5.2-87(1)～(2)に示し、指標種の生態等については表 5.2-88(1)～(2)に示した。なお、現地調査では、特殊性に該当する種は確認されなかった。

表 5.2-87(1) 指標種の選定結果

性質	指標種 (分類)	環境類型区分			選定の理由
		I	II	III	
上位性	タヌキ (哺乳類)	○	○	○	・昆虫や果実等、幅広く動植物を食する雑食性の中型哺乳類である。 ・現地調査の結果、在来種の中型哺乳類の中で確認頻度が最も高い種であったことから選定した。
	オオタカ (鳥類)	○			・主に中小型の鳥類を捕食する生態系の上位種である。 ・現地調査の結果、複数のつがいの生息が確認されたことから選定した。
	アオダイショウ (爬虫類)		○	○	・主に鳥類や小型哺乳類、両生類等を捕食するヘビ類である。 ・現地調査の結果、確認頻度が最も高いヘビ類であったことから選定した。

表 5. 2-87(2) 指標種の選定結果

性質	指標種 (分類)	環境類型区分			選定の理由
		I	II	III	
典型性	アカメガシワー カラスザンショウ 群落 (植物)	○			・調査地域では、主に森戸川源流域の尾根部から斜面上部に分布する夏緑広葉樹林である。 ・植生面積の占有率は 25.74%と最も広く分布することから選定した。
	ノウサギ (哺乳類)	○	○	○	・草本性の植物や樹皮等を食する草食性の中型哺乳類である。 ・現地調査では 5 箇所での確認であったが、調査地域の草地や樹林に広く生息していると考えられることから選定した。
	ヒヨドリ (鳥類)	○	○	○	・果実や新芽、昆虫類等の小動物を食する鳥類である。 ・現地調査の結果、確認頻度が最も高い鳥類であったことから選定した。
	ニホンカナヘビ (爬虫類)	○	○	○	・主に昆虫やクモを捕食するトカゲ類である。 ・現地調査の結果、確認頻度が最も高いトカゲ類であったことから選定した。
	ヤマアカガエル (両生類)	○	○		・主に昆虫やクモ、ミミズ等を捕食するカエル類である。 ・現地調査の結果、確認頻度が最も高いカエル類であったことから選定した。

表 5. 2-88(1) 指標種の生態

性質	指標種 (分類)	項目	生態の内容
上位性	タヌキ (哺乳類)	生態など	・郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息するが、亜高山帯以上に生息することは少ない。鳥類、ノネズミ類等の小型動物、昆虫、野生果実類等を採食する。親子あるいは家族が近い距離に集まり生活、行動する。春に 3～5 頭を出産する。
		現地調査での確認状況	・冬季に 11 個体、春季に 4 個体、夏季に 4 個体、秋季に 7 個体が確認された。
	オオタカ (鳥類)	生態など	・丘陵地から山麓に留鳥として生息する。丘陵地や大規模な公園などの樹林で営巣しているが、近年では市街地の中に孤立した緑地で営巣するような例も現れている。おもに中・小型の鳥類を捕える。スギ・マツ類などの針葉樹の高木に営巣することが多く、普通 3～4 卵を産む。
		現地調査での確認状況	・猛禽類調査では、令和 4 年繁殖期に 60 回、令和 5 年繁殖期に 57 回確認、令和 6 年繁殖期に 61 回確認され、3 つがいの営巣地も特定された。 ・鳥類調査では、冬季 1 箇所 1 個体確認された。
	アオダイショウ (爬虫類)	生態など	・低地から山地の森林にかけて幅広く生息する。森林内だけでなく田畑、草地、水辺、人家とその周辺など様々な環境に適応する。幼体時は主にカエル類やトカゲ類を好み、成長するに従い鳥類や小型哺乳類を捕食する。普通 4 月～6 月に交尾し、6 月～8 月に産卵する。
		現地調査での確認状況	・春季に 3 個体、夏季に 7 個体、秋季に 1 個体が確認された。

表 5. 2-88 (2) 指標種の生態

性質	指標種 (分類)	項目	生態の内容
典型性	アカメガシワー カラスザンショウ 群落 (植物)	現地調査での 確認状況	・調査範囲内の急傾斜地に広範囲に分布する先駆性の落葉広葉樹林で、占有率は 25.74%と最も広く分布した。本来はオニシバリーコナラ群集であった箇所が、ナラ枯れによる影響で優占種が遷移したと考えられる。
	ノウサギ (哺乳類)	生態など	・低地から亜高山帯までの森林や草原など様々な環境に見られるが、低山から山地帯に多い。植物食性で、様々な植物の葉、芽、樹皮を採食する。春から夏まで連続して 3～5 回の出産を繰り返す。
		現地調査での 確認状況	・冬季に 1 個体、夏季に 2 個体、秋季に 3 個体が確認された。
	ヒヨドリ (鳥類)	生態など	・低地や低山帯の雑木林、マツ林、落葉広葉樹等様々なタイプの樹林に生息するが、特にヤブツバキが優占する常緑広葉樹林に多い。庭木の多い人家周辺や樹木の多い公園等でも繁殖する。夏は主に昆虫を食べ、冬は果実や種子を食べる。5 月～7 月頃に繁殖し、3～4 個産卵する。
		現地調査での 確認状況	・冬季に 108 個体、春季に 180 個体、繁殖期に 20 個体、秋季に 110 個体が確認された。
	ニホンカナヘビ (爬虫類)	生態など	・低地から低山地の林縁部や草地に生息し、人家の庭やその周辺等でも見かける。小型の昆虫類や幼虫類等の無脊椎動物を捕食する。時には熟れて落下した果実も舐める。3 月～5 月ごろに繁殖し、8 月初旬まで続く。産卵は 1 年に複数回行われ 1 度に 2～6 個産卵する。
		現地調査での 確認状況	・春季に 6 個体、夏季に 9 個体、秋季に 4 個体が確認された。
	ヤマアカガエル (両生類)	生態など	・平地から山地の林縁部やその周辺の水田、溝、湿地等に生息する。主に山地に多く標高 1900m 以上の高地にまで見かける。ミミズやナメクジ等の小型の排泄性無脊椎動物を捕食する。繁殖期は 2 月～4 月で 1000～1900 個の卵を卵塊として産卵する。
		現地調査での 確認状況	・早春季に 259 個体、春季に 420 個体、夏季に 7 個体、秋季に 5 個体確認された。

(参考文献)

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年)

「東京都レッドデータブック 2023 ー東京都の保全上重要な野生生物種(本土部)解説版ー」(東京都環境局、令和 5 年)

「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」(栃木県環境森林部自然環境課、平成 31 年)

「レッドデータブック 2014 ー日本の絶滅の恐れのある野生生物ー 5 昆虫類」(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室、平成 27 年)

「日本の哺乳類[改訂 2 版]」(東海大学出版会、平成 20 年)

「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(株式会社保育社、平成 7 年)

「原色爬虫類・両生類検索図鑑」(株式会社北隆館、平成 23 年)

「学研生物図鑑 昆虫Ⅱ 甲虫」(株式会社学習研究社、平成 2 年)

「学研生物図鑑 昆虫Ⅲ バッタ・ハチ・セミ・トンボほか」(株式会社学習研究社、平成 2 年)

(b) 生態系の構成状況

調査地域の生態系の模式図は図 5. 2-37 に示すとおりである。

樹林、湿地、草地を主な生息・生育基盤としており、樹林ではアカメガシワ・カラスザンショウ群落、群落湿地では水田雑草群落、草地ではアズマネザサ・ススキ群集や畑雑草群落等が主な生産者となっていた。

一次消費者としては、それらを食する昆虫類やクモ類、貝類が位置し、二次消費者としてアカネズミ等の哺乳類、ムクドリ等の鳥類、ニホンカナヘビ等の爬虫類、ヤマアカガエル等の両生類が位置する。さらに上位消費者としてオオタカ等の猛禽類、雑食性のタヌキや肉食性のニホンイタチ等の哺乳類、アオダイショウ等の爬虫類が位置する。

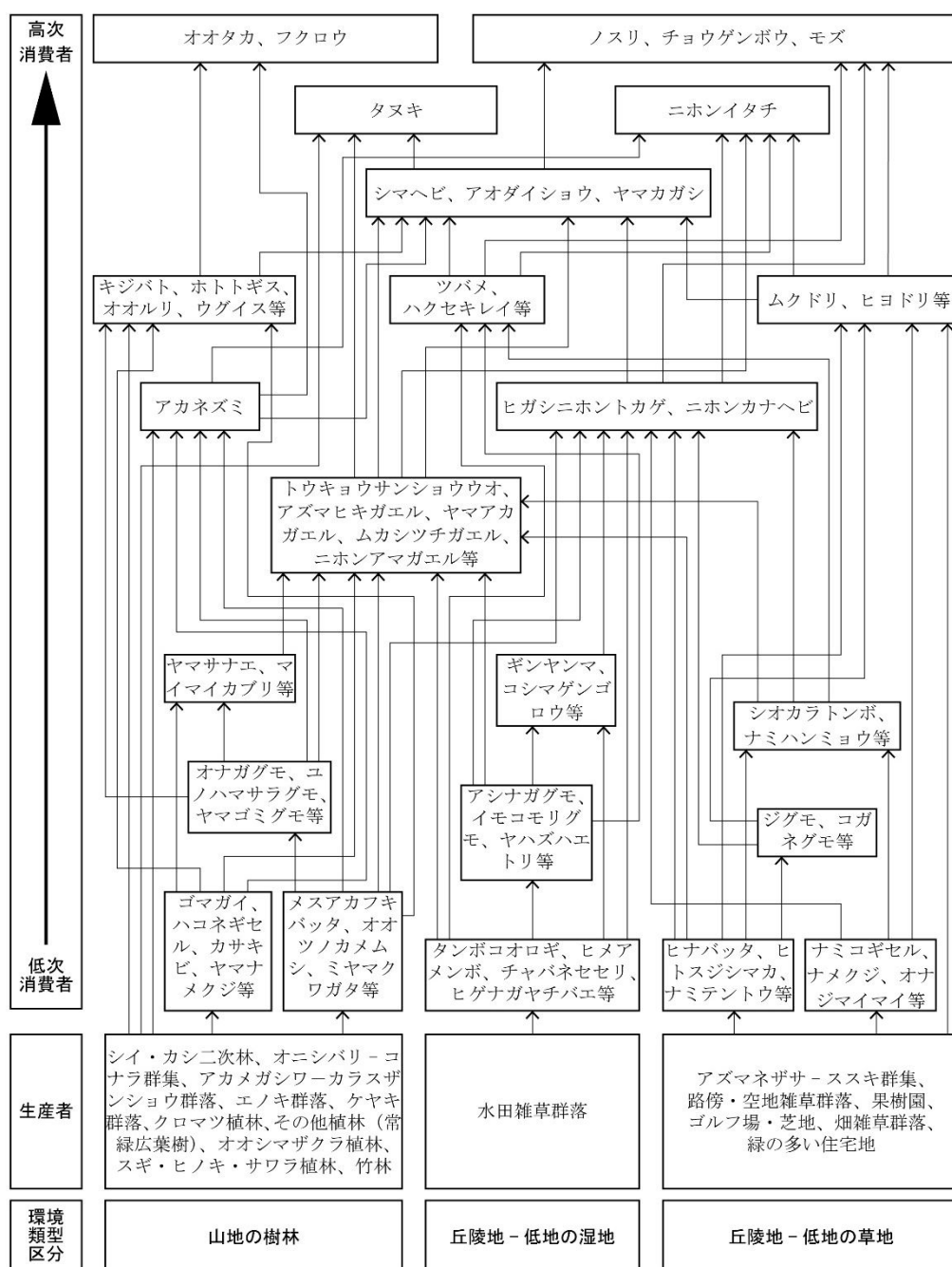


図 5. 2-37 生態系の模式図

第 5 節 景観

1. 景観

(1) 主要な眺望点及び主要で身近な視点の状況

① 調査事項

実施区域周辺の主要な眺望地点（不特定多数の人々が利用する公共的な場所で、景観が眺望できる地点のうち主要なものをいう。以下同じ。）及び実施区域周辺の主要で身近な視点（不特定多数の人々または周辺の住民が利用する場所で身近な景観が望める主要で身近な視点をいう。以下同じ。）の位置、種類及び利用状況並びにそれぞれの主要な眺望地点及び主要で身近な視点からの景観の構成要素、可視領域等の状況とした。

② 調査方法

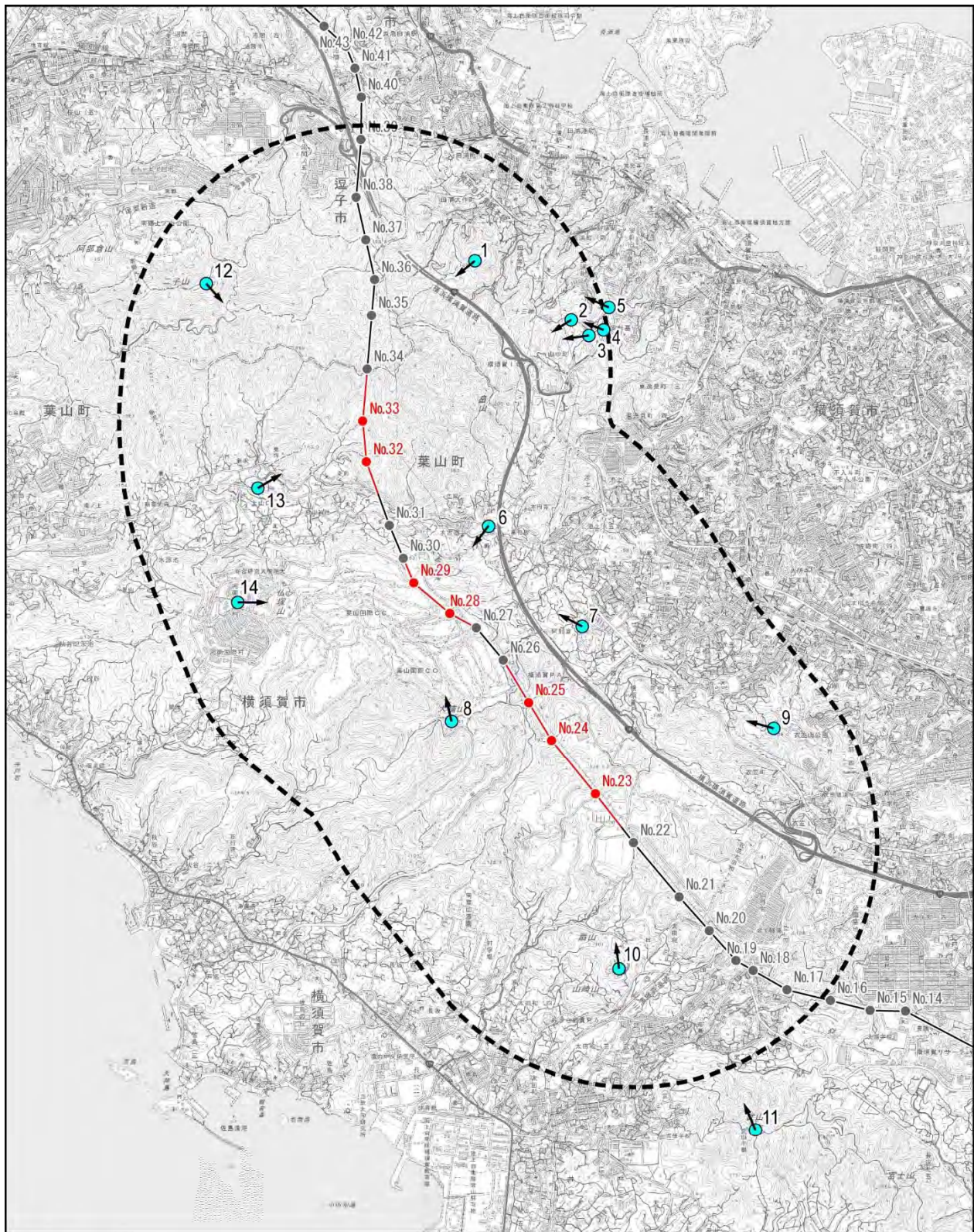
調査方法は、既存資料調査とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、図 5.2-38 に示す実施区域周辺約 2km の範囲において、事業により景観に影響を受けることが想定される 14 地点を候補とした。

④ 調査結果

調査結果は表 5.2-89(1)～(2)に示すとおりである。



凡 例

- 実施区域の送電線及び鉄塔
- 実施区域外の送電線及び鉄塔
- 市町村界
- 景観の調査範囲
- 景観調査地点
- 撮影方向



1:50,000

0 500 1,000 1,500 2,000m

図 5.2-38 景観調査地点

表 5.2-89 (1) 主要な眺望地点及び主要で身近な視点の状況の調査結果

No.	調査地点	最寄りの実施 区域の鉄塔 からの距離 (m)	状 況
1	田浦梅の里展望塔	約 1,630	約 2,000 本以上のウメが咲きほこる梅の名所であり、「かながわ花の名所 100 選」にも選ばれている。面積は約 6,000m ² あり、三浦半島でただひとつの梅林として知られている。12 月から 3 月にはスイセンの花、5 月頃には展望台付近でツツジがみられる。
2	鹿島台	約 1,910	県立塚山公園内にある展望台。塚山公園は、「かながわの景勝 50 選」にも選ばれている。
3	富士見台	約 2,000	県立塚山公園内にある展望台。塚山公園は、「かながわの景勝 50 選」にも選ばれている。
4	塚山公園 見晴台	約 2,140	県立塚山公園内にある展望台。遠くは房総半島や横浜、眼下には横須賀港、猿島などが見渡すことができる。塚山公園は、「かながわの景勝 50 選」にも選ばれている。
5	塚山公園 展望デッキ	約 2,260	県立塚山公園内にある展望デッキ。塚山公園は、「かながわの景勝 50 選」にも選ばれている。
6	木古庭会館	約 790	葉山町木古庭に位置する集会所。児童館との複合施設。
7	しょうぶ園 展望台	約 840	全国有数の規模を誇るしょうぶ苑は、5 月下旬～6 月下旬になると、412 品種、14 万株のハナショウブが 3.8ha の敷地に咲き競う。ハナショウブの他にも、11 品種、250 本の「フジ苑」や「しゃくなげ苑」等が設けられ 1 年を通して花を楽しむことができる。
8	大楠山	約 650	大楠山は、三浦半島の最高峰(241m)であり、この山を頂点として東西に延びる丘陵は風致地区として保護され、自然が豊かに残っている。山頂広場からは、富士山や東京湾を望むことができる。
9	衣笠山公園 展望台	約 1,560	桜樹 2,000 本を誇る県内屈指の桜の名所で、大楠山へと続くハイキングコースもあり、三浦半島の自然が楽しめる。
10	太田和つつじの丘	約 1,420	大楠山から続く丘陵地帯の一面で、4 月下旬から 5 月上旬まで、約 5 万本のツツジが斜面に咲く。
11	武山（武山不動）	約 3,020	標高は 200 メートル、武山～砲台山・三浦富士にかけてハイキングコースが整備されている。展望台からは、東京湾、相模湾を一望でき、天気がよければ富士山を見ることがもできる。
12	二子山展望台	約 1,700	逗子市と葉山町の境にある山で、頂上には小さな展望台があり、東京湾方面を眺めると、横浜ランドマークタワーや房総半島、丹沢や相模湾が一望できる。

資料：「観光情報」（横須賀市 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「風景と周辺情報」（県立塚山公園 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「観光情報」（逗子市 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「観光」（葉山町 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「葉山町公共施設白書」（平成 26 年 3 月、葉山町）

表 5.2-89 (2) 主要な眺望地点及び主要で身近な視点の状況の調査結果

No.	調査地点	最寄りの実施 区域の鉄塔 からの距離 (m)	状 況
13	上山口会館	約 910	葉山町上山口に位置する集会所。児童館との複 合施設。
14	湘南国際村グリーンパーク	約 1,470	葉山町と横須賀市にまたがる「湘南国際村」の 高台にある公園。芝生広場が広がる展望広場か らは、相模湾や気象条件が良ければ富士山を一 望できる。

資料：「観光情報」（横須賀市 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「風景と周辺情報」（県立塚山公園 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「観光情報」（逗子市 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「観光」（葉山町 HP、令和 6 年 12 月閲覧）
「葉山町公共施設白書」（平成 26 年 3 月、葉山町）

(2) 景観資源の状況

① 調査事項

実施区域周辺における景観資源の状況及びこれらにより形成される地域景観の特性と
した。

② 調査方法

調査方法は、既存資料調査とした。

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、図 5.2-38 に示す実施区域周辺約 2km の範囲とした。

④ 調査結果

景観資源の状況は表 5.2-90 に示すとおりである。実施区域周辺には、1 ヶ所の景観資
源が分布している。

表 5.2-90 景観資源の状況

No.	名 称	自然景観 資源名	景観資源の状況
1	鷹取山尾根道	特徴的な 稜線	横須賀市との境にある海拔 139m の山。明治から昭和 初期まで行われていた石切り場があり、断崖絶壁の 景観が個性的。

資料：「第 3 回自然景観資源調査」（平成元年、環境庁）
「神武寺・鷹取山ハイキングコース」（逗子市観光協会 HP）

(3) 主要な眺望景観及び身近な景観の状況

① 調査事項

主要な眺望景観及び身近な景観の状況とした。

② 調査方法

調査方法は、主要な眺望地点及び身近な視点から眺望できる景観の状況について、写真撮影により把握した。撮影条件は表 5.2-91 に示すとおりである。

表 5.2-91 撮影条件

項 目	撮影条件
使用カメラ	Canon EOS Kiss X5、Canon EOS 7D Mark II
使用レンズ	Canon EF-S 18-55mm F3.5-5.6 IS STM
焦点距離	29mm (35mm 換算)
撮影高さ	地上 1.5 m

③ 調査範囲及び地点

調査範囲及び地点は、図 5.2-38 に示す実施区域周辺約 2km の範囲において、事業により景観に影響を受けることが想定される 14 地点を候補とした。

④ 調査時期、期間又は時間帯

調査時期は春季、夏季、秋季、冬季の 4 回とし、各季の調査日は表 5.2-92 に示すとおりである。

表 5.2-92 主要な眺望点及び主要で身近な視点の状況の現地調査時期

調査時期	調査日
春 季	令和 6 年 4 月 11 日、13 日、15 日
夏 季	令和 6 年 7 月 3 日、4 日、5 日、6 日、8 月 5 日
秋 季	令和 6 年 10 月 19 日、20 日、21 日
冬 季	令和 5 年 12 月 13 日、14 日、18 日、令和 6 年 2 月 7 日、8 日、14 日

⑤ 調査結果

主要な眺望地点及び身近な視点 14 地点からの眺望の状況は、表 5.2-93(1)～(2)及び写真 5.2-1～写真 5.2-14 に示すとおりである。

これら 14 地点のうち実施区域及び建替え前の鉄塔が眺望できたのは 7 地点であった。

表 5. 2-93 (1) 主要な眺望地点及び主要で身近な視点からの景観の状況

No.	調査地点	実施区域 からの距離 (m)	景観の状況	眺望の 有無	視認できる 対象鉄塔
1	田浦梅の里展望塔	約 1,630	田浦梅の里展望塔から実施区域方向をみると、建替え対象ではない鉄塔 (No. 35) が正面に見えるものの、建替え前の鉄塔は視認できない。	×	－
2	鹿島台	約 1,910	鹿島台から実施区域方向をみると、対象線ではない鉄塔が見えるものの、建替え前の鉄塔は視認できない。	×	－
3	富士見台	約 2,000	富士見台から実施区域方向をみると、対象線ではない鉄塔が見えるものの、建替え前の鉄塔は視認できない。	×	－
4	塚山公園 見晴台	約 2,140	塚山公園見晴台から実施区域方向をみると、対象線ではない鉄塔と建替え対象ではない鉄塔 (No. 37 以降) が見えるものの、建替え前の鉄塔は視認できない。	×	－
5	塚山公園 展望デッキ	約 2,260	塚山公園展望デッキから実施区域方向をみると、対象線ではない鉄塔と建替え対象ではない鉄塔 (No. 37 以降) が見えるものの、建替え前の鉄塔は視認できない。	×	－
6	木古庭会館	約 790	木古庭会館から実施区域方向をみると、建替え前の鉄塔 (No. 27～30) が視認できる。このうち建替え対象鉄塔は No. 28 及び No. 29 である。	○	28、29
7	しょうぶ園 展望台	約 840	しょうぶ園展望台から実施区域方向をみると、建替え前の鉄塔 (No. 27～28) が視認できる。このうち建替え対象鉄塔は No. 28 である。	○	28
8	大楠山	約 650	大楠山山頂から実施区域方向をみると、建替え前の鉄塔 (No. 28～31) が視認できる。このうち建替え対象鉄塔は No. 28 及び No. 29 である。	○	28、29
9	衣笠山公園 展望台	約 1,560	衣笠山公園展望台から実施区域方向をみると、建替え前の鉄塔 (No. 23～33) が視認できる。このうち建替え対象鉄塔は No. 23～25、No. 28～No. 29 及び No. 32～33 である。	○	23、24、 25、28、 29、32、33
10	太田和つつじの丘	約 1,420	太田和つつじの丘から実施区域方向をみると、樹木で遮蔽されており、建替え前の鉄塔が視認できない。	×	－
11	武山 (武山不動)	約 3,020	武山の頂上付近から実施区域方向をみると、建替え前の鉄塔 (No. 18～No. 24) が視認できる。このうち建替え対象鉄塔は No. 23 及び No. 24 である。	○	23、24

注) 「眺望の有無」欄の記号は以下のとおりとする。

○：建替え前の鉄塔が視認できる。

×

表 5. 2-93 (2) 主要な眺望地点及び主要で身近な視点からの景観の状況

No.	調査地点	実施区域 からの距離 (m)	景観の状況	眺望の 有無	視認できる 対象鉄塔
12	二子山展望台	約 1,700	二子山展望台から実施区域方向をみると、二子山山頂付近の樹木により一部遮蔽されるものの、建替え前の対象鉄塔（No. 32）が視認できる。	○	32
13	上山口会館	約 910	上山口会館から実施区域方向をみると、建替え前の対象鉄塔（No. 32～33）が視認できる。	○	32、33
14	湘南国際村グリーンパーク	約 1,470	湘南国際村グリーンパークから実施区域方向をみると、湘南国際村の施設、住宅地等により遮蔽されており、建替え前の鉄塔が視認できない。	×	—

注) 「眺望の有無」欄の記号は以下のとおりとする。

○：建替え前の鉄塔が視認できる。

×：建替え前の鉄塔が視認できない。